

自己点検・評価報告書

(平成27年度分)



Nagano College of Nursing

目 次

序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	2

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	3
第2節 大学組織	7
第3節 学生の状況	15

第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	18
第2節 学部の教育活動	22
第3節 研究科の教育活動	25
第4節 看護実践国際研究センターの活動	27

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	37
第2節 研究活動	39
第3節 社会・地域貢献活動	51

第4章 社会貢献

第1節 公開講座	56
第2節 分野の活動	56

第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	58
第2節 広報・交流委員会	58
第3節 教務委員会	61
第4節 実習委員会	63
第5節 入試検討委員会	66
第6節 図書委員会	68
第7節 紀要委員会	69
第8節 学生委員会	70
第9節 ネットワーク推進委員会	74
第10節 FD委員会	75
第11節 評価委員会	77
第12節 倫理委員会	78
第13節 ハラスメント防止委員会	80
第14節 動物実験委員会	82
第15節 感染症対策委員会	83
第16節 コンソーシアム信州運営委員会	84
第17節 防災委員会	86

第 18 節	安全衛生委員会	87
第 19 節	研究科委員会教務部会	88
第 20 節	研究科委員会入試部会	90
第 6 章 学生生活及び学生への支援		
第 1 節	学生支援活動	92
第 2 節	キャリア形成支援	96
第 3 節	保健厚生	100
第 4 節	修学資金等	101
第 5 節	サークル活動及び大学際	103
第 6 節	関係団体の活動	104
第 7 章 施設の管理運営		
第 1 節	施設の状況	110
第 2 節	財政の状況	116
第 8 章 点検・評価総括		
		118

自己点検・評価報告書（平成 27 年度）の刊行にあたって

平成 23 年度に、自己点検・評価報告書（報告書）が刊行されて以来、今回で 5 刊目の発刊にあたります。紀要に掲載していた、教員の研修・研究、社会活動は報告書に移行され、各委員会活動を加え、改善を図りながら報告書が作成されて 3 刊目となります。

本学は開学以来、2 回目の基準協会の審査を平成 23 年に終え、平成 30 年に 3 回目の審査に向けて歩んでいます。その中間点として平成 27 年 7 月 22 日に努力課題に対する改善報告を行い、28 年 4 月 4 日付の基準協会からの検討結果では再度報告が必要な事項はありませんでした。私たちは今後、さらなる自学の課題に取り組む使命があります。そのためにも大学の年間活動の概況をまとめ、1 年間の取り組みを整理し、次年度への課題を認識することにつなげていかなければなりません。報告書の刊行は、大学の「自律」と「自治」の取り組みの証と考えます。

現在、文部科学省は高大接続システム改革を推進しており、最終報告書が 28 年 3 月末にまとめられました。新たな時代に向けた人材の育成を目指し、十分な知識と技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を「学力の 3 要素」と定め、それらを高めるために高等学校と大学が連携して取り組む課題を示しています。大学では、大学入学者選抜改革と大学教育改革とされ、個別入学者選抜の改革として、明確な入学者受け入れ方針に基づいて、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価する選抜への改善と新たな選抜実施ルール構築、調査書の改善や学習計画書等の充実があります。

さらに、大学教育改革には、3 つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れ）に基づく大学教育の質的転換と認証評価制度の改善が挙げられています。これに伴い、入学から卒業までの、大学教育を充実させるための PDCA サイクルの強化や内部質保証を重視した評価に耐えうる自己点検・評価をさらに改革改善につなげるための運用が課題となっています。また、厳しい財源状況の中、支出の見直しと、大学の課題としている事柄に計画的に配分しなければなりません。

大学運営は各委員会の主体的な活動に支えられていることから、委員会の評価とそれに伴った改革改善は、大学運営の原動力になります。そのため、各委員会の活動を評価委員会で評価し課題を共有すること、そしてその具現化に向け様々な課題について大学の総力を挙げて議論し、一つ一つ克服していきます。

変化する社会の動きをキャッチして大学の課題を見極めながら時代に応じた改革を進め、組織の可能性を引き出しながらリーダーシップを発揮したいと考えます。

平成 28 年 7 月 6 日

学長 清水嘉子

長野県看護大学の概要

1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

2 沿革

平成 6年12月	看護学部看護学科設置認可（文部省）
7年 4月	同 開 学
10年12月	大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程設置認可（文部省）
11年 4月	同 開 学
12年12月	大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程設置承認（文部省）
13年 4月	同 開 学
22年10月	認定看護師教育機関認定（日本看護協会）
23年 6月	同 開 講

3 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次から) 10名	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3年	4名	12名	博士（看護学）

4 施設

- (1) 所在地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
 (2) 敷地面積 75,733.00m²
 (3) 建物延床面積 19,151.22m²

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標

(1) 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

(2) 学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
 - (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
 - (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
 - (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
 - (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
 - (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
 - (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
 - (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
 - (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
 - (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
 - (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
 - (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
 - (1) 看護実践における課題を見出すことができる多角的な視点を身につける。
 - (2) 課題解決にむけた創造的で論理的な思考能力を身につける。

(3) 学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤となる豊かな人間性と幅広い視野を備え、深い人間理解にもとづいた看護を創造的に実践する能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

- 看護の対象となる人と援助関係を築くことができる
- 科学的なアセスメントに基づいて看護を実践することができる
- ケアに関わる人々と協働することができる
- 看護職者としての専門性を生涯にわたって高めていくことができる

(4) 学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学生個々の可能性を最大限開花させるという教育理念のもと、深く人間を理解し豊かな人間性を持った看護専門職の育成のために、4年間のカリキュラムを以下のように構成しています。

【 人間理解の基礎科目 】

看護を学ぶ上で必要不可欠である、人を深く知るための能力、幅広い視野と創造性を養うことを目的としています。

生物学的な存在としての「ヒト」のみならず、自然・文化・社会の中でさまざまな環境と深く関わりながら生活を営む「人」を総体として理解する能力を育むために、以下の2つの科目群で構成されます。

1. 生命を維持する仕組みと機能
2. 人と人を取り巻く環境

【 看護専門科目 】

看護専門職者としての基盤となる力を育み、看護に関わる諸問題をとらえて論理的に説明し、問題解決に向けた実践・研究能力を養うことを目的としています。以下の4つの科目群で構成されます。

1. 人と健康
2. 看護の基本
3. 看護の実践
4. 看護の実践と統合”

このようなカリキュラムをとおして、看護職者としての基礎的な能力を養うとともに、主体性と自律性をもった専門職として生涯にわたり学び続ける力を育みます。

また、長野県民の健康長寿を支える県内の豊かな健康資源について学生が理解し、多様な場で様々な健康レベルに合わせた看護実践能力を身に付けることができるよう、地域交流を積極的に取り入れています。

さらに、国際的な視野を持って地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、海外の大学との教育協定等により国際的に看護を学ぶ場を提供しています。

カリキュラムの構成（平成27年度以降入学生）

斜字：選択必修科目及び選択科目

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科	生化学 薬理学 人体の構造と機能演習 <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 数学 英語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ 家族社会学 人間発達論 人間関係論 教育心理学	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学 臨床心理学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学 医療経済学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 公衆衛生学	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開	基礎看護実習Ⅱ	症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践			慢性期看護概論 老年看護概論 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論 小児看護概論Ⅰ 地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法Ⅱ 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ 地域看護方法Ⅱ 在宅ケア方法Ⅱ 災害看護論 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 国際看護学Ⅰ 国際看護学Ⅱ 国際看護実習	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習 助産概論 地域母子保健 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ	助産方法Ⅱ	助産実習
	看護の実践と統合					医事法学	看護研究方法	看護管理論 看護統合実習	看護論 看護教育論 卒業研究

(5) 学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような多様な可能性をもつ看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ①自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ②相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤看護専門職として社会に貢献しようとする人

【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜入試(前期日程、後期日程)と特別選抜入試(推薦、社会人)を実施しています。

一般選抜入試では、入学者の選抜は、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入試センター試験を課し、本学が実施する小論文及び面接並びに調査書の審査の結果を総合して行います。特別選抜入試(推薦)では、本学が実施する小論文(英語の課題文の読解を含む。)及び面接並びに調査書等の審査の結果を総合して行います。

(6) 研究科の教育目標

1. 博士前期課程

- (1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- (2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- (3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

2. 博士後期課程

- (1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- (2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- (3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

(7) 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

2. 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

(8) 研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8 単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース 12 単位、専門看護師コース 8 単位）を置いている。
- (2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための 4 領域 11 分野において、特論（4 単位以上）、演習（6 単位）を置いている。
- (3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」（6 単位）を課している。
- (5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」（2 単位）を課している。

(6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

2. 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」（4単位以上）を置いている。
- (2) 領域別専門科目9分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論（2単位）、演習（4単位）を置いている。
- (3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

(9) 研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

【修士課程】

1. 臨床現場の課題を探求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探求を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

【博士課程】

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

第2節 大学組織

(1) 組織

1) 組織図

本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

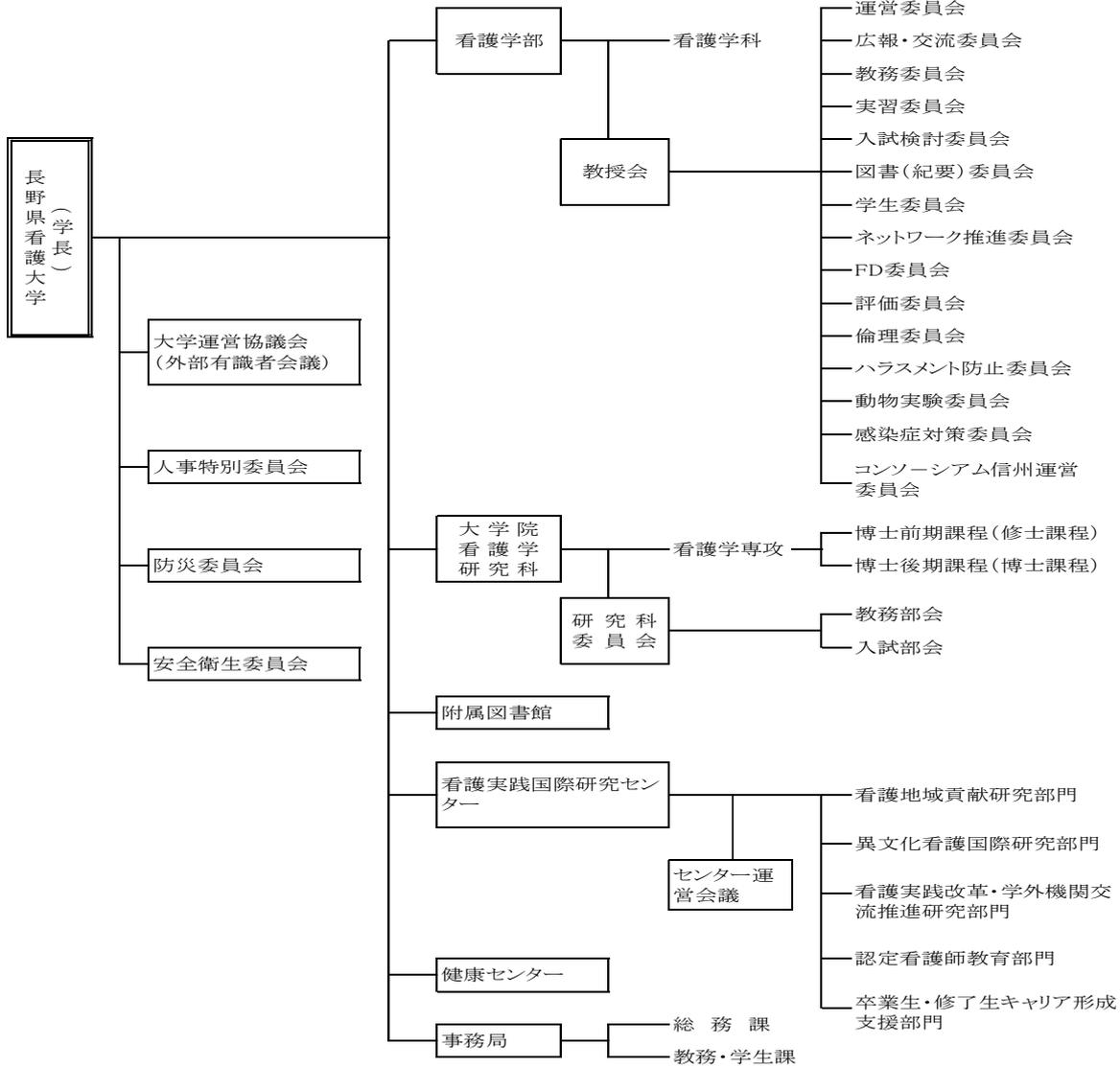
こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参加、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)

(平成27年4月1日現在)



2) 組織構成

①学部は、平成 22 年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成 23 年度から新たに 4 つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表 2-2 のとおりである。

②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上へのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた 5 つで構成している。(表 2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看

護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成 18 年度から開設している。

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学
基礎看護学講座	基礎医学・疾病学
	病態・治療学
基礎看護学講座	基礎看護学
発達看護学講座	母性・助産看護学
	小児看護学
広域看護学講座	成人看護学
	老年看護学
	精神看護学
	地域・在宅看護学

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学領域	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
専門関連領域	里山・遠隔看護学分野
	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 14 年度に小児看護学分野、平成 15 年度に老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後 CNS と省略する）コースを開設している。

3) 大学運営協議会

① 概要

県立大学の運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

区分	職	氏名	所属
地方公共団体	伊那市長	白鳥 孝	市長会 社会環境部会長
看護現場	副院長 看護部長	宮坂 佐知子	諏訪赤十字病院
〃	副院長 看護部長	斎藤 依子	長野県立こども病院
〃	協議会長	山本 由紀子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	古畑 崇子	松本市健康福祉部健康づくり課
教育研究機関	学部長	堀内 ふき	佐久大学
〃	副学監	笠原 悦男	松本歯科大学
〃	学部長	川島 良雄	長野大学社会福祉学部
学識経験者	小児科部長	藪原 明彦	伊那中央病院
地域経済界		(調整中)	
卒業生	看護師長	久保 貴三子	諏訪中央病院

(平成 27 年 9 月 7 日現在、敬称略)

② 平成 27 年度の開催概要

開催日	開催場所	協議事項等
平成 27 年 9 月 7 日	看護大学 大会議室	<大学からの説明> ・看護大学の概要 ・平成 27 年度予算の概要 ・看護大学中期構想の進捗状況 ・入学志願者・入学者等の推移 ・学部卒業生・大学院修了生の進路状況 ・学生による授業評価結果(平成 26 年度) <意見交換> ・看護実践国際研究センターの部門と活動内容 ・学部・大学院の受験者の確保

(2) 教職員

1) 教職員名簿

① 学部専任教員

(平成27年5月1日現在)

講座	分野	職位	氏名
		学長	清水嘉子
		学部長	安田貴恵子
人間基礎科学	哲学・倫理学	准教授	屋良朝彦
	心理学	准教授	松本淳子
	社会・経済学	特任教授	多賀谷昭
	健康・保健学	教授	北山秋雄
		講師	秋山 剛
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美
		准教授	井村俊義
	基礎医学・疾病学	教授	喬 炎
		助教	三浦大志
病態・治療学	教授	坂田憲昭	
	助教	中畑千夏子	
基礎看護学	基礎看護学	教授	小林たつ子
		教授	今井家子
		准教授	宮越幸代
		講師	上田理恵
		助教	近藤恵子
		助教	那須淳子
		助教	上條こずえ
		助教	田中真木
		助教	塩澤実香
		助手	田村かおり
発達看護学	母性・助産看護学	准教授	阿部正子
		准教授	藤原聡子
		講師	西村理恵
		助教	塩澤綾乃
		助教	佐々木美果
		助教	廣瀬紀子
		助手	白川あゆみ
健康センター		講師	東 修

講座	分野	職位	氏名
発達看護学	小児看護学	教授	内田雅代
		准教授	竹内幸江
		助教	白井 史
		助教	高橋百合子
	成人看護学	助教	足立美紀
		講師	江頭有夏
		助教	川喜田恵美
		助教	浦野理香
		助手	牛山陽介
		助手	伊藤佑季
広域看護学	老年看護学	助手	井口志保
		教授	渡辺みどり
		准教授	千葉真弓
		助教	細田江美
		助教	曾根千賀子
	助教	有賀智也	
	助手	上原 卓	
	精神看護学	教授	岡田 実
		講師	有賀美恵子
		助教	長南幸恵
地域・在宅看護学	助教	森野貴輝	
	教授	安田貴恵子	
	講師	御子柴裕子	
	講師	柄澤邦江	
	助教	酒井久美子	
	助教	村井ふみ	
	助手	中林明子	
認定看護師教育課程	助手	下村聡子	
	主任教員	中畑千夏子	
	主任教員	細田江美	
	専任教員	志鷹直子	
	専任教員	横山由香里	
	専任教員	高山陽子	

② 大学院の領域別科目担当専任教員

(平成27年5月1日現在)

領域	分野	氏名等
	学 長	清 水 嘉 子
	研究科長	渡 辺 み どり
看護基礎科学	病態機能学	教 授 喬 炎※ 教 授 太 田 克 矢※
	病態治療学	教 授 坂 田 憲 昭※
基礎看護学	基礎看護学	教 授 小 林 た つ 子※ 教 授 今 井 家 子
		准教授 宮越 幸代※
	看護管理学	講 師 上 田 理 恵
発達看護学	母性・助産看護学	教 授 清 水 嘉 子※ 准教授 阿部 正子 准教授 藤原 聡子
		講 師 西 村 理 恵
		教 授 内 田 雅 代※ 准教授 竹内 幸江
	小児看護学	

領域	分野	氏名等	
発達	成人看護学	講 師 江 頭 有 夏	
広域看護学	老年看護学	教 授 渡 辺 み どり※ 准教授 千葉 真弓	
		精神看護学	教 授 岡 田 実※ 講 師 有 賀 美 恵 子
	地域・在宅看護学	教 授 安 田 貴 恵 子※ 講 師 柄 澤 邦 江	
		里山・遠隔看護学	教 授 北 山 秋 雄 昭※ 特任教授 多賀谷 昭※ 講 師 秋 山 剛 剛※
	専門関連	倫理学	准教授 屋良 朝彦※
		心理学	准教授 松本 淳子※
		英語・英米	教 授 西 垣 内 磨 留 美 昭※ 准教授 井村 俊義※

※博士後期課程の科目担当専任教員

③非常勤講師

看護学部非常勤講師

(平成27年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
統計学	中村 寛志	信州大学名誉教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	原 正光	飯田女子短期大学非常勤講師
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
独語	浜 泰子	信大高等教育システムセンター非常勤講師
数学	花木 章秀	信州大学理学部教授
慢性期看護概論 慢性期看護方法	安東由佳子	名古屋市立大学看護学部准教授
感染学演習	岩月 和彦	長野県看護大学名誉教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部准教授
経済学	樋口 均	信州大学名誉教授
法学	増尾 均	松本大学総合経営学部教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学教授
医療経済学	福田 敬	国立保健医療科学院上席主任研究官
英会話演習	北原アツレ	信州大学非常勤講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷺沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	八事病院 音楽療法士
人間関係論	原田 慶子	東京純心大学看護学部准教授
運動実践・理論ⅠⅡ、 運動理論、運動理論Ⅱ	杉本 光公	信州大学学術研究院教授

大学院非常勤講師

(平成27年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
精神看護学特論	樋掛 忠彦	長野県立こころの医療センター院長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	名古屋大学大学院教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ケア・ヘルソグ メント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
家族看護論	柳原 清子	金沢大学医薬保健学域保健学類准教授
看護理論	阿保 順子	長野県看護大学名誉教授
看護管理学	白鳥さつき	愛知医科大学看護学部教授
看護教育・援助論		
コンサルテーション論	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授

④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは、事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名育休中）が配置されている。

事務局職員

(平成27年5月1日現在)

	事務局長	吉川篤明
総務課	次長	石坂秀彦
	課長補佐	白上正彦
	主幹	嘉仁康範
	主幹	知久達彦
教務・学生課	課長	大日方隆
	課長補佐	小林郁雄
	主事	加藤恭央
	担当係長保健師	熊谷晶子
図書館	主査学校司書	原 猛
	学校司書	乾 由佳
行政嘱託員	学生支援員	篠原睦美
	学生支援員	鈴木裕実
	就職支援員	唐澤 淳

2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」（以下「規程」という。）及び「長野県看護大学教員選考基準細則」（以下「細則」という。）等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

平成27年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師 教育部門	計	学内昇任
—	—	1	1	(1) 1	—	(1) 3	2

(注) 上段の () は任期付職員で外書数である(臨任、育休任期付を除く)

(3) 全学委員会

1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会		(H27.5.1 現在)					
委員会等	委員長等	委員等				事務局	
教授会	運営委員会	清水学長	安田学部長 坂田教授	渡辺研究科長 内田教授	北山教授 岡田教授	西垣内教授 吉川事務局長	石坂次長 大日方教学課長
	広報・交流委員会	西垣内教授	○千葉准教授 島袋助教 上原助手	松本准教授 田中助教 田村助手	西村講師 足立助教	御子柴講師 村井助教	小林課長補佐
	教務委員会	安田学部長	屋良准教授 西村講師 伊藤(佑)助手	○千葉准教授 柄澤講師	松本准教授 江頭講師	上田講師 酒井助教	加藤主事
	実習委員会	内田教授	宮越准教授 有賀(美)講師 牛山助手	藤原准教授 御子柴講師 曾根助教	○竹内准教授 近藤助教 長南助教	千葉准教授 佐々木助教 下村助手	加藤主事
	入試検討委員会	北山教授	○坂田教授	井村准教授	阿部准教授	柄澤講師	小林課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	坂田教授	○屋良准教授 伊藤(郁)助教	西村講師 塩澤助教	柄澤講師 有賀助教	東講師 白川助手	原主査司書
	学生委員会	岡田教授	○北山教授 上條助教	藤原准教授 高橋助教	上田講師 井口助手 (就職支援員、学生支援員出席)	御子柴講師 中林助手	加藤主事 熊谷保健師
	ネットワーク 推進委員会	太田教授	秋山講師 塩澤(実)助教	○東講師	三浦助教	森野助教	白上課長補佐
	FD委員会	喬教授	西垣内教授 白井助教	今井教授 浦野助教	西村講師	○東講師	小林課長補佐
	評価委員会	清水学長	安田学部長 西垣内教授 今井教授	渡辺研究科長 喬教授 内田教授	北山教授 坂田教授 岡田教授	太田教授 小林教授 吉川事務局長	大日方教学課長
	倫理委員会	小林教授	岡田教授 滝沢委員(外部委員)	藤原准教授	○竹内准教授	秋山講師	知久主幹
	ハラスメント 防止委員会	太田教授	○今井教授 江頭講師	阿部准教授 石坂次長	上田講師 大日方教学課長	那須助教	
	動物実験委員会	太田教授	○喬教授	秋山講師			知久主幹
	感染症対策委員会	安田学部長	坂田教授 吉川事務局長	内田教授 大日方教学課長	岡田教授 熊谷保健師	中畑助教	
コンソーシアム 信州運営委員会	喬教授	宮越准教授	○松本准教授			大日方教学課長 白上課長補佐	
人事特別委員会	清水学長	安田学部長	渡辺研究科長	岡田教授	吉川事務局長		
防災委員会	今井教授	安田学部長 嘉仁主幹	岡田教授 廣瀬助教	吉川事務局長	白上課長補佐		
安全衛生委員会	清水学長	東講師 石坂次長	有賀助教 白上課長補佐	吉川事務局長	熊谷保健師	知久主幹	
図書館長	坂田教授						
学年顧問	1 学年	有賀講師	島袋助教	2 学年	千葉准教授	秋山講師	
	3 学年	竹内准教授	上田講師	4 学年	屋良准教授	御子柴講師	

2 研究科委員会

部会	部会長	部会員				事務局
教務部会	渡辺研究科長	北山教授	西垣内教授	坂田教授	○屋良准教授	大日方教学課長
入試部会	内田教授	○太田教授	井村准教授	藤原准教授	阿部准教授	小林課長補佐

(※) 「委員等」欄の氏名に○印がある委員が副委員長

(4) 人事特別委員会の活動

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、教務委員長、学生委員長、事務局長の5名であり、該当案件が生じた場合に活動を行う。

平成27年度は、3回開催し、非違行為に対する処分が行われた教員に関して、27年度に分担させる業務内容及び対応方針の検討、業務実施状況の確認及び評価を行い、必要な内容については教授会へ報告した。

(5) 教員評価

1) 概要

本学における業績評価は、長野県看護大学教員として、自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行われている。そのため、自らの仕事の範疇を評価するよう4領域（教育・研究・地域貢献・大学運営）に分けて記載する構造になっている。また、大学教員という主体的な仕事を基本とする職域においては自己評価が大切になるため、評価の最後の部分に記述式の自己評価の記載欄が設けられている。そして、自己評価の妥当性を高めるために、分野責任者、講座主任による他者評価がなされる。さらに平成24年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容の評価という観点で、新たに学長による加点がなされる仕組みを導入した。

従前の評価では、教育・研究における評価項目が高い場合は、得点が高くなるという傾向であった。しかしながら、カリキュラムによって、受け持つ授業科目や時間数は決定されることや、研究の仕方も理系・文系にかかわらず、チームで取り組む場合と個人で取り組む場合があり、それによって研究論文の数が左右されるため、一概に数のみで判断するというわけにはいかない。なるべく差がでないような配慮をしているが、すべてが平等にポイント化されるわけではない。また、会議・相談・調整等のいわゆるシャドーワークをいかに認めていくかという問題もあるが、その価値を数値で表すことは極めて困難である。そこで自己評価という形が生きてくる。学長による加点は、そういったことを十分に考えて行われ、各教員に、いっそう充実したよりよい仕事に精励することを期待している。

平成27年度の業績評価は、卒業研究指導に対する評価の重複加点の解消をしたほかは、前年度実施したものを踏襲している。

<集計結果の概要>

区分	評価領域・職種別平均					学長 加算後 平均(A)	最高値 (B)	指数 (B)/(A)	参考:授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小計				平均	最高
教授(10名)	45.4	41.2	7.9	19.0	113.4	131.9	193.1	146	385.0	868
准教授(8名)	36.4	45.4	5.4	15.5	102.7	114.5	166.9	146	282.0	508
講師(6名)	41.1	22.3	1.8	12.6	77.8	90.3	117.3	130	531.3	694
助教(18名)	35.1	33.2	1.4	9.4	79.0	93.2	124.9	134	752.9	1085
助手(4名)	31.2	9.4	0.9	9.5	51.0	63.5	79.8	126	884.0	1108

2) 平成28年度研究費への反映

○各職位で、平均100に対する指数値が120以上となった者を研究費の増額対象とした。

(46名中13名が対象：28.3%)

教授：3名、准教授：1名、講師：2名、助教：5名、助手：2名

(6) 健康センター

1) 概要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増

進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を1人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

2) 実績

< 教員及び学生に対する心の健康相談実績（延べ件数） >

年 度	学 生	教 員	合 計
2 3	4 9	8 0	1 2 9
2 4	4 6	1 7	6 3
2 5	8 8	6 0	1 4 8
2 6	7 9	1 6	9 5
2 7	5 2	0	5 2

① 学生の相談状況

- ・件数は減少している。
- ・前年度中に、特に友人関係で何らかの問題があった学生が、それを抱えたまま新学期に突入したと思われるケースが数件見受けられた。
- ・単科大学であるが故の人間関係の狭さに起因するものがあると感じられた。
- ・自分の意志でなくしぶしぶ来た、こんなはずではなかったなどからくる「大学をやめたい気持ち」がストレスになっている学生が見受けられた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、家族関係のこじれでますます症状が悪化しているのではと思われる学生も見受けられる。
- ・大学入学、初めての一人暮らしなどの環境変化によって、発達障害に関する問題が発覚するケースが今後増えるのではないかと思われる。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

② 教職員の相談状況

- ・センター開設以来、11人の教員の精神疾患に対応してきたが、現在、対応が必要な教員はおらず、27年度中の相談実績もなかった。

3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

しかしながら、相談者の減少傾向が見られる中で、1人の専門看護師をフルタイムで配置しておくことは、大学として効率的な人員配置とは言えないため、常勤の相談員の配置を終了し、外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、必要に応じて心の健康相談が実施可能となるよう新たな体制を整備することが、平成27年6月16日の教授会において承認された。

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて30名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が4.0以上。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。
- ② 社会人(平成15年度から受け入れ)：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を3年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程42名、後期日程8名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から、平成27年度試験（平成28年度入学）から募集を停止した。

2. 課題及び方策

編入制度廃止と、それに伴う学部定員の増（どの試験区分を増とするかを含む。）について、入試検討委員会等で検討していく。

2) 学年別学生数

平成27年5月1日 現在 (単位：人)

1. 状況

在校生数は、定数の340名に対し、ほぼ同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、男子学生が全体の10%程となり、増加傾向にある。

県内出身者は全体の72.2%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

学 部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
1年生	81	9	72	60	21
2年生	83	7	76	54	29
3年生	85	7	78	66	19
4年生	81	8	73	63	18
編入1年生	4	2	2	0	4
編入2年生	2	0	2	0	2
卒業延期生	6	2	4	4	2
計	342	35	307	247	95

(2) 研究科

1) 入学試験の状況

項目 / 入試実施年度	H23 (24年度入学)	H24 (25年度入学)	H25 (26年度入学)	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	
(看護学専攻 前期)	志願者	11	9	4	5	9
	合格者	8	8	4	2	6
	入学者(A)	8	8	4	2	6
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	50%	50%	25%	13%	38%
(看護学専攻 後期)	志願者	7	4	3	2	3
	合格者	5	3	2	2	1
	入学者(A)	5	3	2	2	1
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	125%	75%	50%	50%	25%
合 計	志願者	18	13	7	7	12
	合格者	13	11	6	4	7
	入学者(A)	13	11	6	4	7
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率A/B	0.65	0.55	0.30	0.20	0.35

2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の32名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学生が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数12名に対し定員を上回っているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成27年5月1日 現在 (単位：人)

大学院	総数		県内 出身者	県外 出身者
	男	女		
修士課程	16	3	13	3
博士課程	13	1	12	9
計	29	4	25	12

(3) 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

また、修士課程では、体調不良によるほか、仕事の都合による休学が見られる

1 学部・研究科の退学者数

	平成25年度					平成26年度					平成27年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部		1		2	3			1		1	1		1	1	3
研究科	修士課程		2		2		1			1		1			1
	博士課程							1		1			1		1
	小計	0	2	0		2	0	1	1		2	0	1	1	2
合計	0	3	0	2	5	0	1	2	0	3	1	1	2	1	5

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

2 学部・研究科の休学者数

	平成25年度					平成26年度					平成27年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	1	2		3	6	1	4	2		7	2	2	3	3	10
研究科	修士課程		4		4		5			5		3			3
	博士課程		2	2		4		1	3	4			6		6
	小計	0	6	2		8	0	6	3		9	0	3	6	9
合計	1	8	2	3	14	1	10	5	0	16	2	5	9	3	19

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

第2章 年間の活動状況

第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

(1) 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月3日 (金)	入学式	11月14日 (土)	特別選抜入学試験
4月6日 (月)	教務ガイダンス	12月3日 (木)	※認定看護師教育課程選抜試験
7日 (火)	健康診断	12月26日 (土)	冬季休業
4月8日 (水)	オリエンテーション合宿(1年)	~1月11日 (月)	
9日 (木)			
4月6日 (月)	履修登録期間	1月12日 (火)	後期授業再開
~13日 (月)			
4月9日 (木)	前期授業開始	1月16日 (土)	大学入試センター試験
		17日 (日)	
5月1日 (水)	創立記念日	1月23日 (土)	博士前期・後期課程二次募集入学試験
6月1日 (月)	※認定看護師教育課程開講式	1月29日 (金)	※認定看護師教育課程修了式
8月1日 (土)	オープンキャンパス	2月10日 (水)	※認定看護師教育課程二次募集選抜試験
8月15日 (土)	夏季休業	2月13日 (土)	春季休業
~9月30日 (水)		~3月31日 (木)	
9月5日 (土)	鈴風祭、公開講座	2月25日 (木)	一般選抜入学試験(前期)
6日 (日)			
9月7日 (月)	看護大学運営協議会	3月12日 (土)	卒業式・修了式
10月1日 (水)	後期授業開始	3月14日 (月)	一般選抜入学試験(後期)
10月17日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験	3月17日 (木)	看護大学研究集会

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

(2) 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月7日	1 基礎看護学の臨時的任用教員の採用について(審査結果報告)
2	4月21日	1 退学願について 2 看護実践国際研究センターの部門と活動の見直しについて 3 平成27年度特別研究費配分(案)について 4 学長が教授会の意見を聴くことが必要なものとして定める事項に関する規程(案)について 5 教授会規程及び教員選考基準細則の一部改正について 6 倫理委員会規程及び倫理委員会規程施行細則の一部改正について 7 研究計画書(倫理委員会指定様式)の改正について 8 基礎看護学の教授及び基礎看護学(災害看護学)の教授又は准教授の公募について 9 母性・助産看護学の助教又は助手及び成人看護学の教授の公募について(教授のみ)特別な配慮を必要とする教員について
3	5月12日	1 平成27年度学生校費予算(案)及び一般研究費配分(案)について
4	5月19日	1 入学前の既修得単位の認定について 2 平成28年度入学者選抜に関する要項(案)について 3 平成27年度長野県看護大学臨床教授(案)について 4 平成27年度学生校費予算(案)及び一般研究費配分(案)について 5 精神看護学の教員(講師)の採用について(審査結果報告)
5	6月2日	1 精神看護学の教員(講師)の採用について(投票)

6	6月16日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成28年度学生募集要項《一般選抜入学試験》(案)について 2 平成28年度学生募集要項《推薦入学試験》(案)について 3 平成28年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》(案)について 4 教員の職位の昇任申請について 5 教授会の日程について (H27.7~H28.3) 6 教員の平成26年度の業績評価について 7 健康センターの見直し(案)及び規程の改正(案)について 8 入学前の既修得単位の認定について 9 母性・助産看護学の教員(助教又は助手)の採用について(審査結果報告) 10 国際・災害看護学の教員(教授又は准教授)の採用について(審査結果報告) 11 成人看護学の教員(教授)の採用について(審査結果報告)
臨時	6月23日	<ul style="list-style-type: none"> 1 成人看護学の教員(教授)の採用について(投票)
7	7月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 母性・助産看護学の教員(助手)の採用について(投票) 2 基礎看護学の教員(教授)の採用について(審査結果報告)
8	7月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学生生活規程の改正について 2 教育課程の編成、実施方針並びに学位授与の方針等の提案について 3 健康センター長の後任ポストに対する考え方について 4 成人看護学の教員(准教授又は講師)の公募について 5 成人看護学の臨時的任用教員(助教又は助手)の採用について 6 基礎看護学の教員(教授)の採用について(投票)
臨時	7月28日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の職位の昇任申請について(審査結果報告)
9	8月4日	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域・在宅看護学の教員(准教授又は講師)の公募について 2 教員の休職について 3 特別講座開催に関する考え方について 4 実習における交通費の補助についての検討(案) 5 みらい基金の対象事業の見直しについて(教授のみ) 教員の職位の昇任について(投票)
10	9月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学願について 2 年度途中で卒業する学生の卒業認定について 3 地域・在宅看護学の教員(講師)の採用について(審査結果報告) 4 成人看護学の臨時的任用教員(助手)の採用について(審査結果報告) 5 基礎看護学の臨時的任用教員(助教又は助手)の採用について 6 助教・助手の委員会所属について(10月1日採用者)
11	10月6日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の昇任に関する日程について 2 学部長選考の日程(案)について 3 基礎看護学の臨時的任用教員(助手)の採用について(審査結果報告) 4 地域・在宅看護学の教員(講師)の採用について(投票)
12	10月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学願について 2 平成28年度学年歴(案)について 3 基礎看護学の教員(准教授又は講師)の公募について 4 学部長候補者選挙管理委員の選挙について
13	11月10日	<ul style="list-style-type: none"> 1 特任教授の任命について 2 基礎看護学の任期付き教員の任期の再更新について 3 教員の退職について 4 平成29年度以降の教員体制について
14	11月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成28年度推薦・社会人入学試験結果について 2 新しい学生支援体制について 3 看護実践国際研究センターの見直しについて 4 University of California San Francisco (UCSF)との協定の更新について
15	12月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学部長候補者選挙の結果について

16	12月15日	1 休学願について 2 教員の職位の昇任申請について 3 平成28年度からの学部生の成績評価について
17	1月5日	1 平成28年度上半期の教授会日程(案)について
18	1月19日	1 平成28年度科目履修生募集要項(案)について 2 平成28年度県内大学単位互換履修生募集要項(案)について 3 看護実践国際研究センター卒業生・修了生キャリア形成支援部門運営規程の改正(案)について (教授のみ)基礎看護学【管理・教育】教員(教授・准教授又は講師)の採用について
臨時	1月26日	(教授のみ)基礎看護学【管理・教育】教員(教授)の採用について(投票)
19	2月2日	協議事項なし(報告事項のみ)
20	2月16日	1 平成27年度卒業認定について 2 休学願について 3 平成28年度非常勤講師について 4 平成29年度学部入学試験関係日程について 5 初年次教育「スタートアップセミナー」について 6 備品の購入について 7 任期付き教員の任期の更新について 8 育休任期付教員の採用について 9 基礎看護学の臨時的任用教員(産休代替及び欠員補充)の採用について 10 長野県看護大学感染症対策委員会規程の改正について
21	3月1日	1 平成28年度一般選抜入学試験(前期日程)の試験結果について 2 長野県看護大学運営委員会規程の改正について 3 ハラスメント防止委員の選任について 4 平成28年度教授会委員会等の委員の選任について 5 アドミッション・ポリシー(案)について
22	3月15日	1 平成28年度一般選抜入学試験(後期日程)の試験結果について 2 平成27年度単位認定について 3 退学願について 4 平成28年度学部時間割について 5 平成28年度非常勤講師(追加)について 6 平成28年度学部教務ガイダンスについて 7 履修規程及び履修規程細則の一部改正について 8 アドミッション・ポリシー(案)について 9 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正に伴う学内基準の見直しについて (教授のみ)特別な配慮を必要とする教員について

(3) 研究科委員会の活動

回	開催月日	協議事項
1	4月15日	1 平成27年度研究科教員について 2 休学願について 3 前学期博士論文研究計画書審査体制(案)及び発表会(案)について
2	5月19日	1 平成28年度大学院博士前期(修士)課程学生募集要項(案)について 2 平成28年度大学院博士後期(博士)課程学生募集要項(案)について 3 平成27年度修士論文研究テーマ・論文指導及び審査委員(案)について
3	6月2日	1 平成27年度前学期 博士論文研究計画書審査について
4	7月21日	1 大学院学生規程の改正について 2 大学院博士前期(修士)課程の受検者確保に関する検討(案)について

5	9月15日	1 平成27年度後学期博士研究計画の副指導教員について 2 修士論文指導体制の変更について
6	10月6日	1 休学願について 2 平成27年度後学期博士研究計画の審査体制等について 3 研究科長選考の日程(案)について 4 長野県看護大学大学院研究科長選考規程施行規則の改正について 5 研究科長候補者選挙管理委員の選考について
7	10月20日	1 平成28年度博士前期課程入学試験結果について 2 平成28年度博士後期課程入学試験結果について 3 平成28年度博士前期課程入学試験(二次募集)について 4 平成28年度博士後期課程入学試験(二次募集)について 5 休学願について 6 研究生の研究期間延長願について 7 平成28年度学年歴(案)について
8	11月10日	1 平成27年度後学期博士論文研究計画書の審査について
9	11月17日	1 研究科長候補者選挙の結果について
10	11月24日	1 研究科長候補者選挙【決選投票】の結果について
11	12月15日	1 退学願について 2 休学願について
12	1月26日	1 復学願について 2 平成28年度博士前期(修士)課程二次募集入学試験結果について 3 平成28年度博士後期課程二次募集入学試験結果について
13	2月2日	1 平成27年度修士論文発表会について 2 平成28年度科目履修生募集要項(案)について 3 平成28年度研究生募集要項(案)について 4 平成28年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)について 5 平成28年度大学院非常勤講師について
14	2月16日	1 平成29年度大学院入学試験関係日程について 2 平成27年度博士前期(修士)課程修得単位の認定について 3 平成27年度修士論文審査結果及び最終試験結果報告について 4 平成27年度博士前期(修士)課程の学位授与について(投票) 5 研究科博士前期課程の安定的な入学者確保のための提案について
15	3月15日	1 休学願について 2 博士前期課程の修得単位認定について 3 博士後期課程の修得単位認定について 4 平成28年度研究生の選考について 5 平成28年度大学院時間割について (教授のみ) 研究科委員の学内審査について

2節 学部の教育活動

(1) カリキュラム

<必修科目>

平成27年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生 物 学	前学期	1	30	倫 理 学	後学期	1	15
	化 学	前学期	1	30	家 族 社 会 学	後学期	1	15
	運 動 実 技 ・ 理 論 I	前学期	1	30	医 療 英 文 読 解 演 習 I	後学期	1	30
	統 計 学	前学期	1	15	医 療 英 会 話 の 基 礎 I	後学期	1	30
	英 文 読 解 の 基 礎	前学期	1	15	生 化 学	後学期	1	30
	英 会 話 の 基 礎	前学期	1	30	人 体 の 構 造 と 機 能 演 習	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 I	前学期	2	30	フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 II	前学期	1	30	病 理 学	後学期	1	15
	看 護 学 概 論	前学期	2	30	薬 理 学	後学期	2	30
	基 礎 看 護 方 法 I	前学期	1	30	病 理 学 演 習	後学期	1	30
	基 礎 看 護 実 習 I	前学期	1	45	基 礎 看 護 方 法 II	後学期	2	60
	保健・医療・福祉システム看護論 I	前学期	1	15	人 間 発 達 論	後学期	1	15
	情 報 処 理 科 学	前学期	1	30	人 間 関 係 論	後学期	1	30
					公 衆 衛 生 学	後学期	1	30
				保健・医療・福祉システム看護論 II	後学期	1	15	
				小 計 (28科目)			32	765
2 学 年	臨 床 心 理 学	前学期	1	30	運 動 実 技 ・ 理 論 II	後学期	1	30
	医 療 英 文 読 解 演 習 II	前学期	1	30	感 染 学 演 習	後学期	1	30
	医 療 英 会 話 の 基 礎 II	前学期	1	30	慢 性 期 看 護 方 法	後学期	2	60
	疾 病 学 I	前学期	1	30	急 性 期 看 護 概 論	後学期	1	15
	疾 病 学 II	前学期	1	30	老 年 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	感 染 学	前学期	1	30	精 神 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	看 護 過 程 の 理 論 と 展 開	前学期	1	15	母 性 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	慢 性 期 看 護 概 論	前学期	1	15	小 児 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	老 年 看 護 概 論	前学期	2	30	小 児 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	精 神 看 護 概 論 I	前学期	1	15	地 域 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	母 性 看 護 概 論	前学期	1	15	家 族 援 助 論	後学期	1	15
	小 児 看 護 概 論 I	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 I	後学期	1	30
	地 域 看 護 概 論	前学期	1	15	多 文 化 共 生 看 護 学	後学期	2	30
	在 宅 ケ ア 論	前学期	1	15	基 礎 看 護 実 習 II	後学期	2	90
疫 学	前学期	1	30					
				小 計 (29科目)			33	795
3 学 年	医 療 経 済 学	前学期	1	15	災 害 看 護 論	前学期	1	30
	看 護 栄 養 学	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 II	前学期	1	30
	症 状 マ ネ ジ メ ン ト 論	前学期	1	15	保 健 統 計 学	前学期	1	15
	急 性 期 看 護 方 法	前学期	2	60	保健・医療・福祉システム看護論 III	前学期	1	15
	老 年 看 護 方 法 II	前学期	1	30	遺 伝 と 人 間	後学期	1	15
	精 神 看 護 方 法	前学期	2	60	看 護 倫 理	後学期	1	15
	母 性 看 護 方 法 II	前学期	1	30	看 護 研 究 方 法	後学期	1	30
	小 児 看 護 方 法 II	前学期	1	30				
地 域 看 護 方 法 II	前学期	1	30	小 計 (16科目)			18	435
4 学 年	看 護 管 理 論	前学期	1	15	卒 業 研 究	全 期	4	180
	看 護 統 合 実 習	前学期	2	90	小 計 (3科目)			7
3 4 学 年 年	成 人 看 護 実 習		4	180	小 児 看 護 実 習		3	135
	老 年 看 護 実 習		4	180	地 域 看 護 実 習		4	180
	精 神 看 護 実 習		3	135	在 宅 看 護 実 習		2	90
	母 性 看 護 実 習		2	90	小 計 (7科目)			22

必修科目合計

科 目	単位数	時間数
83 科 目	112	3,270

< 選択必修科目 >

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

< 選択科目 >

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	医 事 法 学	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
数 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
独 語	1年前学期	1	15	国 際 看 護 実 習	3年前学期	2	90
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
哲 学	2年前学期	2	30	助 産 概 論	3年後学期	1	15
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	4年前学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習 I	6月15日 ~ 6月19日	1
2	基礎看護実習 II	9月28日 ~ 10月9日 10月13日 ~ 10月23日	2
3	成人看護実習	9月28日 ~ 12月18日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習 (選択)	7月27日 ~ 8月7日	2
	助産実習実習 (選択)	2月16日 ~ 3月22日	10
4	成人看護実習	5月11日 ~ 7月31日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護管理実習	8月3日 ~ 8月12日	2
	助産実習実習 (選択)	9月7日 ~ 11月17日	10

(3) 臨地実習施設

① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護管理	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、母性看護、小児看護、看護管理、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	看護管理
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎看護Ⅱ・助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪中央病院	茅野市	助産
南信病院	南箕輪村	精神看護	諏訪マタニティクリニック	下諏訪町	助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護			

② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
エーデル駒ヶ根	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	たんぼぼの家	駒ヶ根市	精神看護
大原こだま園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護
観成園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	すずたけ	伊那市	老年看護
フラワーハイツ	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	はびろの里	伊那市	老年看護
プラムの里	宮田村	基礎看護Ⅰ	センチナリアン	高森町	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護

③ 助産所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
おひさま助産院	駒ヶ根市	助産	明生助産院	伊那市	助産
野ノ花助産院	駒ヶ根市	助産	さくらこ助産院	伊那市	助産
幸助産院	駒ヶ根市	助産	助産所ドゥーラえむあい	伊那市	助産

④ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

⑤ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	南箕輪村役場	南箕輪村	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護、母性看護	宮田村役場	宮田村	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護	木祖村役場	木祖村	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護	大桑村役場	大桑村	地域看護

⑥ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	訪問看護ステーションふれあい	箕輪町	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護

⑦ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那小学校	伊那市	地域看護	飯島小学校	飯島町	地域看護
伊那東小学校	伊那市	地域看護	七久保小学校	飯島町	地域看護
美篤小学校	伊那市	地域看護	高遠中学校	伊那市	地域看護
東春近小学校	伊那市	地域看護	長谷中学校	伊那市	地域看護
手良小学校	伊那市	地域看護	辰野中学校	辰野町	地域看護
西春近北小学校	伊那市	地域看護	飯島中学校	飯島町	地域看護
箕輪西小学校	箕輪町	地域看護			
箕輪東小学校	箕輪町	地域看護			
箕輪中部小学校	箕輪町	地域看護			
辰野西小学校	辰野町	地域看護			

⑧ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護			

第3節 研究科の教育活動

(1) カリキュラム

1) 授業科目

博士前期(修士)課程授業科目 (平成27年度入学生)

	授業科目	科目番号	単位数	学年別時間数				計	
				1年		2年			
				前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目	○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30	
	○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30	
	○ 看護研究法	3102	2	30				30	
*領域別分野専門科目(10単位)	看護基礎領域 病態機能学分野	○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30
		○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30				30
		○ 病態機能学演習	3403	6		90			90
	病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30
		○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30
		○ 病態治療学演習	3406	6		90			90
	基礎看護学領域 基礎看護学分野	○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30
		○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30
		○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90
	看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30
		○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30
		○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180
発達看護学領域 小児看護学分野	母性・助産看護学分野	○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30
		○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30
		○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90
	小児看護学分野	○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30
		○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30
		○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30
		○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30
		○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30
		小児看護学実習	3250	6			270		270
成人看護学分野	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30	
	○ 成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30	
	○ 成人看護学演習Ⅰ	3235	6		90			90	
広域看護学領域 老年看護学分野	○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30	
		3226	2		30			30	
		3234	2	30				30	
		3227	2		60			60	
		3231	2		60			60	
		3232	2		60			60	
		3233	6			270		270	
	★ ○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30	
		3229	2	30				30	
		3421	2		30			30	
		3422	2		60			60	
		3423	2			60		60	
		3424	2			60	60	60	
		3425	10				450	450	
		地域・在宅看護学分野	○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30			
○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432		2	30				30	
○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433		3	90				90	
○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434		3		90			90	
里山・遠隔看護学分野	★ ○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30	
	○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180	
選択必修科目	○ 看護学課題研究	3103	6			90	90	180	
	(参考) 看護実践課題研究(専門看護師コース)	3104	2			30	30	60	
共通選択科目(8単位以上)	看護学原論	3501	1	15				15	
	フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30	
	家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				30	
	健康心理学特論	3510	2		30			30	
	看護心理学	3511	2	30				30	
	質的研究方法論	3505	1	15				15	
	環境疫学特論	3304	1		15			15	
	★ 言語文化特論Ⅰ	3506	2		30			30	
	★ 保健・医療・福祉システム看護学特論Ⅰ	3307	2	30				30	
	量的研究方法論	3507	1		15			15	
	★ コミュニティ・開発論特論	3311	2	30(集中講義)				30	
	語法特殊講義	3314	2	30				30	
	看護海外研修	3315	1		15			15	
	看護臨床薬理学	3508	2	30				30	
	臨床病態学	3509	2	30				30	
	コンサルテーション論	3273	2		30			30	
	看護管理学	3262	2		30			30	
	看護教育・援助論	3261	2		30			30	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30	
	★ 遠隔看護論	3281	2		30			30	
	国際看護論	3202	1	15				15	

博士後期課程授業科目（平成 27 年度入学生）

授業科目				科目 番号	単位数	時間数		計
						1年		
						前学期	後学期	
領域別分野専門科目 (6単位)	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4	120		120
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4	120		120
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4	120		120
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4	120		120
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4	120		120
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4	120		120
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4	120		120
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4	120		120
里山・遠隔看護学分野		★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
		里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	120		120	
共通選択科目 (4単位以上)			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30
			健康心理学特講	BA17	2		30	30
			人類学的研究方法論	BA12	2	30		30
			感染生物学特論	BA13	2		30	30
			★ 言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30
			健康科学特講	BA06	2		30	30
			★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30
			国際看護援助論	BA10	2		30	30
			生命科学特論	BA08	2	30		30
			病理病態学特論	BA15	2	30		30
★ 現象学的研究方法論	BA16	2	30		30			

★遠隔授業対応科目

第4節 看護実践国際研究センターの活動

概要

本学は、1995年（平成7年）長野県初の県立4年制大学として開学して以来、グローバル化する世界でのローカルとして地域を捉え、その地域への貢献を主眼にして、教育、研究を進めてきた。

「看護実践国際研究センター」は、看護学を発展させ、人々の健康に寄与できる研究についてのテーマと人と資金を集約し、本学の研究活動の拠点として位置づけ、社会における看護の先端領域課題の研究や実践に取り組んでいる。

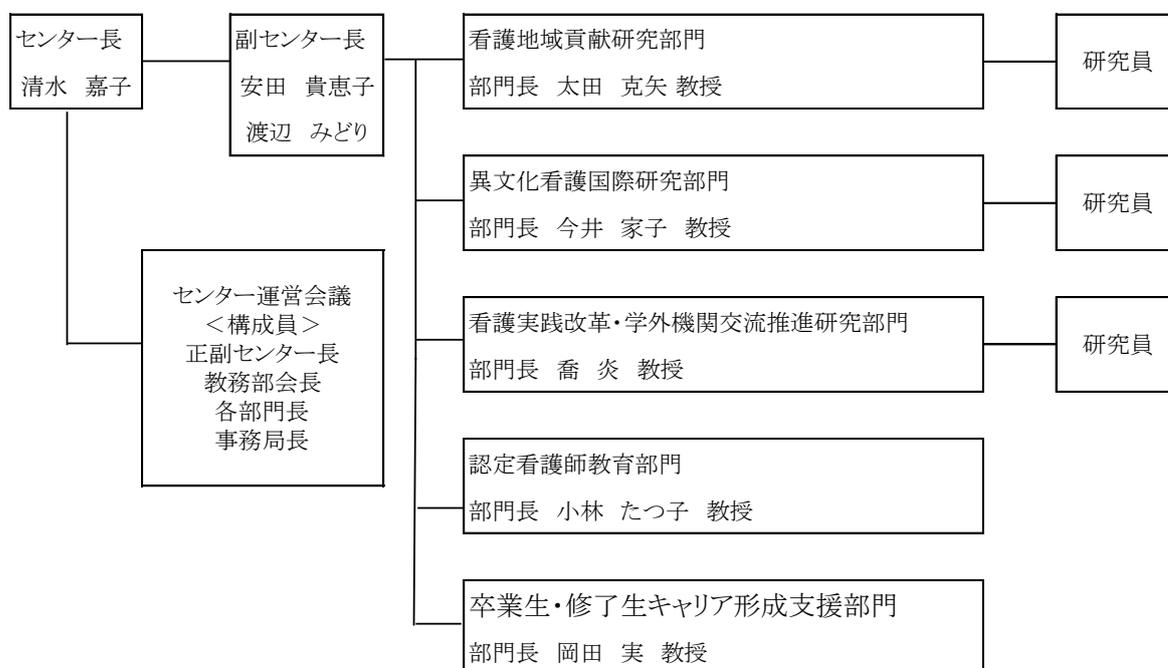
平成14年度に設立した当該センターは、看護の抱える諸課題に対応して、「看護地域貢献研究部門」、「異文化看護国際研究部門」、「看護実践改革・学外交流部門」の3つの研究部門を設置し、講座や分野などの専門的な枠を超え、また学外機関との交流などにより諸課題に対応してきたところであり、平成23年度には、新たに「認定看護師教育部門」及び「卒業生・修了生キャリア形成支援部門」の2つの部門を開設した。

認定看護師教育課程については、センターに当該部門を設置することにより、今まで積み重ねてきた大学の看護教育の実績を生かし、地域への質の高い看護の提供に資するものである。また、卒業生・修了生へのキャリア形成支援については、教育・研究機能を併せ持つことで、本学が卒業生・修了生の基地となり生涯にわたる人材育成と、それによる地域貢献に資するものである。

各部門とも、本学教員のほかに駒ヶ根市などの地方自治体やその関連団体などと連携し、取り組んでいる。

＜長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図＞

（平成27年5月1日現在）



（1）看護地域貢献部門

1 所掌事項

- ・長野県を中心とした地域住民への、ケアの質ならびにウェルネス（最適な生活状態）の向上につながる、実践的な活動および研究を実施し、県民の疾病予防や健康増進等に寄与する。

2 活動と成果

1) 活動

- ・部門全体としての会議をプロジェクト長間で協議するほか、下記の4つのプロジェクトごとに活動を実施した。
- ・遠隔看護開発基盤研究プロジェクト
- ・高齢者水中運動講座プロジェクト
- ・終末期看護研究プロジェクト
- ・在宅療養者と家族のための移行期看護プロジェクト

2) 成果

- ・運動講座等のクラスの開催（80回、延べ参加人数総数1887名）
- ・地域住民への体力測定会の実施（1回、総数146名）
- ・地域に対する研修会の実施（部門合計2日）
- ・学会等への発表（部門合計1回）

3 今後の課題

1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・各プロジェクトの活動は、例年の高い水準を維持している。ただし、教員の異同等により本年度も「看護職者の教育・支援プロジェクト」は活動をおこなうことができなかった。今後、部門全体として、「人員の確保」や「より合理的な運営」の再検討ならびにこれに必要な予算の再精査も必要である。

2) 将来的な課題

- ・地域に根付いた活動として、どのようなプロジェクトを推進または立案していくべきなのかを大学全体として再考・再構築していく必要がある。

(2) 異文化看護国際研究部門

1 所掌事項

(1) 設立の趣旨

- 1) 実践活動: JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所等その他の学外機関と連携して、異文化に着眼した看護活動を発展させる。
- 2) 研究活動: 看護における異文化間の多様性を明らかにするとともに、看護の本質としての文化を超えた普遍性を共有するための研究を行って、世界に発信し、看護の学問的体系の発展に寄与する。
- 3) 関係維持: 交流を通じて海外の教育・研究機関や研究者との協力関係を築き、深める。
- 4) 人材育成: 交流を通じて教員・学生が研究者・実践者としての素養を身に付け、向上するための機会やつながりを提供する。

2 活動と成果

(1) サモア国立大学 (NUS) との交流

学部教育の一環としての「国際看護実習」が行われている。今年度はサモアからの学生受け入れ年に当たり、7月27日から8月11日まで約2週間在日された。7月26日到着の予定がサモアでの飛行機のトラブルで来日が1日遅れた。27日の深夜に駒ヶ根到着となり、28日はハードスケジュールだったにも関わらず、学生や教員の前でパワフルなサモアダンスを披露してくださった。翌29日から本学学部3年生4名を加え高齢者施設での実習や訪問看護の見学など充実した内容の実習をすることができた。また松本では国際看護の遠隔授業を選択している信州大学との交流会もあり、サモアのお二人に抹

茶を体験していただくなど日本の文化にも触れる機会ができ喜んでいただいた。成果発表をまとめるための話し合いでは本学の学生は、思うように英語が出てこないもどかしさに苦しんでいた。またサモアにないものを英語で説明することの難しさも感じていたようだった。

このように自分で体験して国際交流の楽しさと難しさを感じてもらうことがこの実習の目的であり、双方の学生が有意義な時間を過ごせた2週間だった。

(2) 多文化共生看護学の演習

2年生の必修科目になっている多文化共生看護学の演習として以下の実習があった。

1) 長野中央病院での在日外国人健診事業 平成27年12月6日

(主催：北信外国人医療ネットワーク)

本学から学生10名と教員1名が協力した。受診者25名で、学生は一人の受診者の来診から終了まで一貫して担当した。

2) 長野日伯学園及び上伊那生協病院、看護大学合同スポーツ祭 平成27年10月17日

日伯学園の学童や生徒とその保護者、病院関係者、本学学生5名の合計60名余りでインディアカやフットサルをしながらの交流を行った。学生は授業だけでは学べない彼らの文化を肌で感じる機会となった。

(3) サンフランシスコ大学 (USF) サムエル・メリット・総合大学 (SMU) との交流

2月27日から3月5日今年度の大学院生の看護海外研修が実施された。今年度は本学から院生1名を含む4名が参加した。USFでは授業への参加、シミュレーションセンターでの演習、研究のプレゼンテーションなどの実施ができた。今年度から研修先の1校がUCSFからSMUに変更になった。初めての訪問先のSMUでは副学長を始め教授たちから温かい歓迎を受けた。

(4) 長野県看護大学・異文化看護ニューズレター9号の発行

今年度も昨年に続きニューズレター9号を発刊する。3月中に印刷、4月発送の予定。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題 (懸案事項)

1) 国際看護実習では28年度はサモア訪問の年であり既に4名が選抜され準備に入っている。今年度から3年生が実習しているが2年生の秋に基礎実習を終えたのみで日本の看護の状況を理解しないまま国際実習になる。昨年は3年生、4年生の合同だったので4年生のサポートがあったが、3年生だけで実施する28年度の実習は、従来と異なる3学年という学習進度に合わせた教育内容の検討が必要になる。

2) 26年度にエセタ学部長から提案のあった、これまでの実習の成果を冊子にまとめようとの提案に対して、28年度の訪問時に具体的な話し合いを進めたい。

3) 長年交流のあったUCSFとの契約更新の時期であり、双方のメリット・デメリットを検討した結果今年度はSMUでの研修に変更することになった。新たな実績を積み重ねるためにも院生にとって貴重な機会に参加するよう働きかけを考えたい。

(2) 将来的な課題

1) NUSとの10年間の交流の歴史は貴重なものである。双方の元実習生同士が交流できる同窓会のようなものが作れないかとの提案もあり今後の検討課題としたい。

2) 定住外国人の増加に対応した支援の実践と研究をより充実させるための具体的な方法を考える必要がある。

(3) 看護実践改革・学外機関交流推進研究部門

1 所掌事項

本部門は、本学の「知の活用」を図って、以下の①②の目的に基づく学外機関との交流を推進するための窓口として活動している。

- ① 病院、診療所や自治体等の看護現場との共同研究を実施することにより看護実践改革を推進すること。
- ② 企業、自治体、研究機関等との共同研究・受託研究等を実施することにより地域社会に貢献すること。

2 活動と成果

1) 共同研究・受託研究の窓口としての活動とその後の研究の発展

- (1) 健康保健学分野の北山秋雄教授らの「遠隔看護システム機器の開発」事業は継続で行われています。
- (2) 基礎医学・疾病学分野が開発した「顕微鏡ーデジタルカメラ三位一体観察システム」は県総合教育センターと株式会社大島山機器との共同研究で2年目に進んでいます。
- (3) 基礎医学・疾病学分野の行われた温泉研究（みのわ温泉, 蓼科三室源泉, 早太郎温泉, 松代温と昼神温泉）との共同研究は進んでいます。

2) 「スマート看護・福祉研究会」での講演会と情報交換

今年度も引き続き「スマート看護・福祉研究会」の活動に参加しております。5回の定例会において、福祉機器やリハビリテーション装置の開発に関して大学教員・医師から、また開発された機器に関して参加企業の責任者から講演会が開催され、意見交換を行いました。

3) 伊那谷アグリノベーション推進機構での情報交換

伊那谷アグリノベーション推進機構の運営また、本学は伊那谷アグリノベーション推進機構の運営メンバーとして活動して、シンポジストとして安田学部長は「健康長寿社会と地域づくりーヘルスプロモーションの視点からー」、喬は「『八仙逍遥湯』浴の難治性皮膚創に対する治癒促進効果」を講演しました。

4) 長野県における産学官連携団体への参加と産学官連携に関連する情報の提供

今年度も引き続き、「信州産学官連携機構」ならびに「信州メディカル産業振興会」に参加している。これらの団体などからの 講座・セミナー・フォーラム開催案内などの情報提供を教職員に行った。

3 今後の課題

現在、本部門では主に産学連携事業が中心となっている。他大学では自治体と協定を結んで大規模な学官連携の事業も行われており、次年度から看護実践国際研究センターの組織改編に伴い、構成員の増加による本部門の役割も新たな段階に入ろうとしている。看護学の先進的研究・教育機関である唯一の県立大学として、地域とともに更なる発展を目指して活動全体を見直していくことが必要である。

(4) 認定看護師教育部門

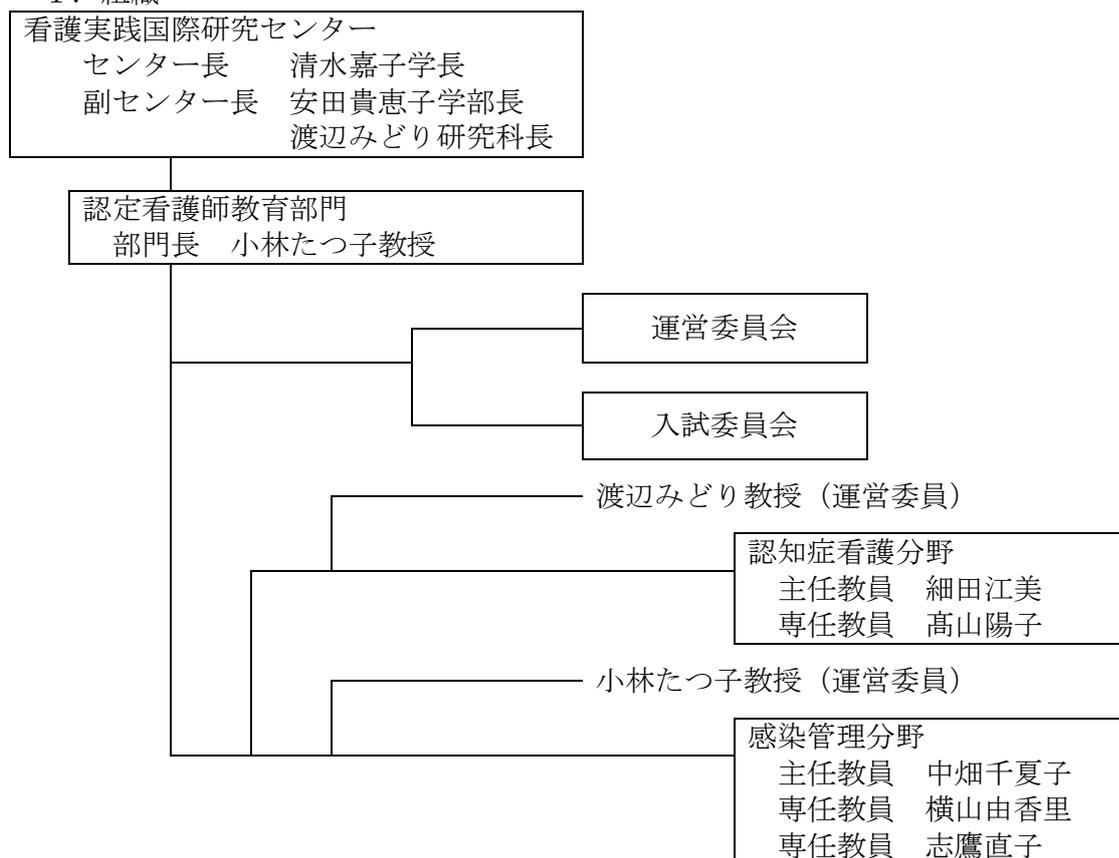
1 所掌事項

- 1) 認定看護師教育課程における運営に関する検討と決定(運営委員会)

- 2) 募集, 入試に関する検討と決定(入試委員会)
- 3) カリキュラムおよび実習の内容に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
- 4) 非常勤講師の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
- 5) 実習病院の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
- 6) 受講生の生活に関すること(教員会議)
- 7) 休講, 開講に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
- 8) 運営会議下部組織 教員会議の運営

2 活動と成果

1. 組織



2. 運営委員会名簿と会議の概要

1) 運営委員会名簿

氏名	所属等	
清水嘉子	学長(看護実践国際研究センター長)	委員長
安田貴恵子	学部長(看護実践国際研究副センター長)	委員
渡辺みどり	研究科長(看護実践国際研究副センター長)	
小林たつ子	基礎看護学講座 教授(看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長)	
細田江美	認定看護師教育部門 主任教員(認知症看護分野)	
橋本晶子	認定看護師教育部門 専任教員(認知症看護分野)	
中畑千夏子	認定看護師教育部門 主任教員(感染管理分野)	
横山由香里	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)(長野県立こども病院)	
志鷹直子	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)(組合立諏訪中央病院)	
小山久子	長野県看護協会 常務理事(本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	
丸山貴美子	信州大学医学部附属病院材料部 看護師長(本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	

吉川篤明	看護大学 事務局長	事務局
石坂秀彦	看護大学事務局 次長兼総務課長	
大日方隆	看護大学事務局 教務・学生課長	
小林郁雄	看護大学事務局 教務・学生課 課長補佐	
長野恵理子	看護大学事務局 認定看護師教育課程担当	

2) 会議開催日と協議事項の概要

回	月日	協議事項概要
1	4月28日 (火)	※外部委員への委嘱状交付 (1) 認定看護師教育部門の組織図 (2) 平成27年度非常勤講師について (3) 平成27年度名簿について (4) 開会式実施計画について (5) 教育課程の準備の進捗状況について (6) 認定看護師教育部門運営規程の一部改正について (7) 入学前の履修科目の認定について
2	5月28日 (木)	(1) 時間割について (2) 平成27年度開講式実施計画について (3) 平成26年度決算状況等について (4) 送迎バスについて (5) 看護師の派遣に関する協定書等について (6) 認定看護師教育課程の受講辞退等の取り扱いについて
3	7月9日(木)	(1) 認定審査結果及び認定看護師教育機関合同会議について (2) 平成28年度受講生の募集及び説明会の開催について (3) 平成27年度受講生の状況について (4) 認定看護師教育課程の現状について (5) 平成27年度の実習について
4	10月7日 (水)	(1) 平成28年度受講生説明会の参加者について (2) 実習の可否に関わる成績について (3) 受講生の状況について
5	12月3日 (木)	(1) 平成28年度受講審査(選抜試験)の合否判定について (2) 平成26年度認定看護師教育課程修了式実施計画(案)について (3) 受講生の現状について (4) 臨地実習に当たっての体調管理について (5) 実習の合否について (6) 認定看護師教育課程(感染管理分野)の今後の方向性について
6	平成28年 1月20日 (水)	(1) 修了試験結果について (2) 認定看護師教育課程修了式について (3) 平成27年度修了生のフォローアップ研修について (4) 受講生の状況
7	平成28年 2月10日 (水)	(1) 二次募集試験結果について (2) 受講、修了状況について (3) 28年度部門運営委員会及び入試委員会について (4) 28年度受講生への案内送付について (5) 感染管理分野ニーズ調査の結果について

3. 入試委員会会議の概要

1) 入試委員会名簿

氏名	所属等	
安田貴恵子	学部長(看護実践国際研究副センター長)	委員長
渡辺みどり	研究科長(看護実践国際研究副センター長)	委員
小林たつ子	基礎看護学講座 教授(看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長)	
細田江美	認定看護師教育部門 主任教員(認知症看護分野)	
高山陽子	認定看護師教育部門 専任教員(認知症看護分野)	
中畑千夏子	認定看護師教育部門 主任教員(感染管理分野)	
横山由香里	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)	
志鷹直子	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)	
小山久子	長野県看護協会 常務理事(本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	
丸山貴美子	信州大学医学部附属病院材料部 看護師長(本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	
吉川篤明	看護大学 事務局長	
石坂秀彦	看護大学事務局 次長兼総務課長	
大日方隆	看護大学事務局 教務・学生課長	
小林郁雄	看護大学事務局 教務・学生課 課長補佐	
長野恵理子	看護大学事務局 認定看護師教育課程担当	

2) 入試委員会開催日と協議事項概要

回	月日	協議事項概要
1	7月9日(火)	(1)28年度認定看護師教育課程受講生募集要項(案)について
2	10月7日(水)	(1)28年度受講試験の日程及び実施組織について
3	12月3日(木)	(1)28年度受講審査(選抜試験)の結果について (2)28年度受講生の二次募集について
4	平成28年 2月10日(水)	(1)二次募集試験結果について

4. 実習病院一覧

1) 認知症看護分野の実習病院は以下のとおりである。

病院名	住所
JA長野厚生連 北信総合病院	中野市西1-5-63
名鉄病院	愛知県名古屋市中区栄生2-26-11
中京病院	愛知県名古屋市南区三条1-1-10
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市赤穂3230
塩尻協立病院	塩尻市栈敷437
上飯田第一病院	名古屋市北区上飯田北町2丁目70番地
岐阜市民病院	岐阜県岐阜市鹿島町7丁目1番地
市立大町総合病院	大町市大町3130
長野県立木曾病院	木曾町福島6613-4
岐阜病院	岐阜県岐阜市日野東3丁目13番6号
JA岐阜厚生連 揖斐厚生病院	岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2547-4

2) 感染管理分野の実習病院は以下のとおりである。

病院名	住所
信州大学医学部附属病院	松本市旭 3-3-1
長野県立病院機構 長野県立須坂病院	須坂市大字須坂 1 3 3 2
諏訪赤十字病院	諏訪市湖岸通り 5 丁目 1 1 番 5 0 号
飯田市立病院	飯田市八幡町 4 3 8
社会医療法人栗山会 飯田病院	飯田市大通 1 丁目 1 5 番地
伊那中央病院	伊那市小四郎久保 1 3 1 3-1
独立行政法人 国立病院機構 まつもと医療センター	松本市村井町南 2 丁目 2 0 番 3 0 号
J A 長野厚生連 下伊那厚生病院	高森町吉田 4 8 1 番地 1 3
長野赤十字病院	長野市若里 5 丁目 2 2-1
名古屋第二赤十字病院	愛知県名古屋市昭和区妙見町 2-9

3 受講生の状況

1. 受講・修了状況について

27 年度は感染管理分野 19 名, 認知症看護分野 22 名が受講。そのうち, 感染管理分野では 17 名, 認知症看護分野は 22 名が全課程を修了した。

感染管理分野で, 1 名が科目試験不合格となった為, 修了試験を受ける事ができず修了できなかった。又, 不正行為にて 1 名が全ての授業科目が無効となり修了できなかった。

2. フォローアップ研修

修了生は 2 月からは勤務先で通常の業務につき, 仕事の傍ら試験勉強に励むことになるが, 単独の勉強では限界があるため, 修了生向けに定期的にフォローアップ研修や模擬試験等を実施した。フォローアップ研修は修了後, 資格審査を受ける 5 月まで 2~3 回程度行う予定である。

26 年度は, 感染管理分野で 3 月 17 日 (火) 10 時~16 時と 5 月 7 日 (木) 10 時~16 時の 2 回行い, いずれも修了生 14 名全員が参加した。

認知症看護分野では, 2 月 23 日 (月) 9 時~17 時, 3 月 11 日 (月) 9 時 30 分~16 時 30 分, 4 月 17 日 (金) 9 時~17 時, 5 月 7 日 (木) 9 時~17 時の 4 回行い, 修了生 14 名のうちほぼ全員が毎回参加した。

両分野, 資格審査合格を目指して過去の問題の振り返りや, 模擬試験などを行い, 5 月の資格審査には全員が合格した。

これ以外にも, 検討会や活動報告会などを開催し, 修了生の活動を支援している。

4 今後の課題

1) 喫緊の課題

- ・経費や研修生移動の大変さもあり松本会場利用日数の削減に取り組む。
- ・成績下位の受講生に対する継続的な学習支援体制の強化を図る。
- ・受験者増加を図るための戦略的検討が必要である。(募集説明会、案内発送、看護協会広報への記事掲載等)

2) 長期的課題

認定看護師資格を取得した本学修了生を対象とし, 専門領域における活動の実態を把握した上で, キャリア形成のための長期的支援の方法について検討する必要がある。

(5) 卒業生・修了生キャリア形成支援部門

1 所掌事項

- ① 教育・研究機会の提供および研究活動に係る支援
- ② 進学、転職などに係る相談および情報の提供
- ③ 大学ホームページ等を活用して情報交換の場の提供
- ④ その他、卒業生・修了生のキャリア形成支援に関する調査・研究

2 活動と成果

(1) 活動

【活動目標】

看護実践の基盤となる看護学は、看護実践体験を通して研鑽を重ね、生涯にわたって専門性を探求する学問である。本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践を通して大学との交流を継続できるよう、「魅力的な基地」づくりを目指す。

さらに、卒業生・修了生の信任期における職場定着や看護職としてのキャリア形成支援に取り組み、大学としての地域貢献の役割を果たしていく。

【部門会議】

平成 24 年度から安田教授を部門長に活動が開始され、平成 26 年度には岡田教授が部門長を担当し活動が引き継がれた。この年度の部門員は、部門長を含めて太田教授、上條助教、森野助教、中林助手、唐澤就職支援員、篠原学生相談員の 7 名で、主に『平成 26 年度卒業生あつまれ！』の企画を中心に活動が行われた。このために開催された部門会議は以下の通りである。

第 1 回 平成 27 年 6 月 4 日	<ul style="list-style-type: none">・「平成 25 年度卒業生あつまれ！」に参加した卒業生のアンケート結果の検討・「平成 26 年度卒業生あつまれ！」の企画内容の検討・参加費 100 円を徴収することの検討・新人研修体制の満足度を調査するアンケート内容の検討・「平成 26 年度卒業生あつまれ！」企画の進行及び役割分担表の作成
第 2 回 平成 27 年 7 月	<ul style="list-style-type: none">・上記の役割分担とアンケート内容の検討について、構成員でメールを交換することにより調整を図った。

上記の部門会議の他、随時、メールによる情報交換と調整を行った。

(2) 成果

① 卒業生支援

学部卒業生 1 年目に対する支援として「平成 26 年度卒業生あつまれ！」を企画し、平成 27 年 9 月 5 日（土、鈴風祭初日 15:00~16:30）に実施した。当日は部門員の他、学長・学部長をはじめ学内教職員の参加も得られた。今年度は卒業生 54 名（卒業生 53 名と編入生 1 名、昨年度も 54 名）が参加し、アンケートには 54 名が回答（回収率 100%）した。今年度から卒業生の参加費を無料から 100 円負担をお願いしたところ、卒業生からは協力が得られた。この時期の開催について、「学祭も見て回れて後輩にも会えた」、「皆で集まれる機会がないので嬉しい」と参加者には好評であった。職場への通知の仕方については「早めに病院に知らせてもらえるのはありがたい」と職場からの配慮が得られ参加しやすかったとの意見が多かった。企画内容は 48 名が「期待通り」と答え、「皆と会って話すことができ楽しい」「時間が 2 時間くらいあるといいかもしれない」などと回答した。今後については、「卒業後 3 年位まで年に 1 回会えると嬉しい」「集会室使って同窓会やりたい」など、内容を工夫して企画を継続して欲しいとの意見が寄せられた。

② 調査研究

目的：本学卒業生が職場で受けている支援体制をモニターし、学部生及び卒業生に対する今後のキャリア形成支援を検討する資料とする。

調査内容：①施設病床数，②職場の新人看護職員を支える組織体制，③支援に対する満足度，④研修プログラムの満足度，⑤夜勤シフト従事の有無，⑥職場の対人関係や雰囲気，⑦職場決定に際し学部生に伝えたいことなどの9項目。昨年度の数字は《》内に示した。

結果：**回収率及び卒業生内訳**：100%↑《87%》，看護師48名↑《38名》(88.8%)，助産師4名《3名》(7.4%)，保健師1名，**新人看護職員を支える組織体制**：プリセプターシップ42名↑《29名》(77.7%)，チーム支援型12名《17名》(22.2%)，チューターシップ6名《9名》(11.1%)，メンターシップ3名《6名》(5.5%)，**先輩看護師への満足度**：恵まれた47名《35名》(87%)，必ずしも恵まれたといえない6名《9名》(11.1%)，**新人研修プログラムの入職前後の比較**：説明を受けていた通り26名↑《14名》(48.1%)，概ね説明通り22名《28名》(40.7%)，かなり違っていた1名《4名》(1.8%)〔説明よりも詳しく，思っていたより充実していた〕，**新人研修プログラムの満足度**：大変満足6名↑《3名》(11.1%)，概ね満足41名《36名》(75.9%)，不満4名《7名》(7.4%)〔研修内容のタイミングが遅かった/技術課題がはっきりしない/曖昧なものが多い〕，**夜勤シフトの開始状況(9月時点)**：夜勤に入っている32名《33名》(59.2%)：4月5名，5月2名，6月17名，7月7名，8月1名，入っていない17名《11名》(31.4%)，**職場の雰囲気と満足度**：対人関係よく仕事が楽しい11名《10名》(20.3%)，対人関係はいいが仕事が楽しいとは言えない30名《23名》(55.5%)，対人関係よいとは言えないが仕事して割り切っている9名《11名》(16.6%)，うち「不満が多く他の職場に移りたい」が1名《5名》。 **職場決定に際して学部生に伝えたいこと**：職場の決め手として，雰囲気(3)，新人教育体制(2)，見学や説明会(3)，給与・休暇などの福利厚生やインターンシップ(2)先輩が就職している病院(2)

考察：卒業生の9割弱が先輩看護師に恵まれ，研修プログラムも9割弱が当初の通りに実施され9割弱の満足が得られており，概ね手厚い支援体制に支えられているように伺われる。6割弱が9月時点で夜勤のシフトに入っており昨年度に比べてやや減少傾向が見られるが，今後の推移をモニターする必要がある。夜勤帯での患者の急変や緊急入院，数名の患者を受持つことに多くの卒業生が責任を果たすことができるか不安を抱えていた。このような気持ちを本企画で同期生と共有できたことは有意義であった。「今日のために5日間勤務を頑張りました」などの感想に報いるためにも，今後，1時間半の交流を拡大する工夫が必要と考えられる。

上記の調査研究は，「平成27年度長野県看護大学研究集会」にて部門活動としてポスター発表された。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

- ・今後も「卒業生あつまれ」の企画を継続し，卒後1年目の新社会人の交流を高い参加率を維持しながら促進する。
- ・これまで15:00～16:30までの企画であったが，この時間枠を拡大する方策を検討する必要がある。
- ・9月のこの時期，卒業生たちは職場で様々な問題に悩みを深くしていることもある。こうしたケースの相談に応じることができる工夫も必要である。そのためにもゆとりのある企画が望まれる。

(2) 将来的な課題

- ・本企画の時間枠を拡大する方策を検討すること。
- ・卒業生に対する長期的な支援策を視野に入れ，その具体策を検討すること。

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修

(1) 国内研修

平成27年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ71件であった（表1-1）。

(表1-1) 本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
東 修	平成27年8月	ヘルピングスキルセミナー	名古屋市
足立美紀	平成27年8月	臨床指導者研修会「ゆとり世代の導き方～やる気を引き出す」	松本市
	平成27年8月	第27回長野県小児保健研究会「ネット依存から子どもを守る」	塩尻市
	平成27年12月	駒ヶ根市教育委員会 食物アレルギー講演会	駒ヶ根市
阿部正子	平成27年6月	長野県助産師職能委員会研修「産科医療保障制度」	松本市
	平成27年10月	不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座	東京都
伊藤佑季	平成28年1月	長野県看護協会伊那支部ナースのためのスキルアップ研修会	伊那市
	平成28年2月	都道府県がん診療連携拠点病院医療者研修会	松本市
牛山陽介	平成27年8月	日本老年看護学会ワークショップ2015	東京都
	平成27年10月	長野県看護協会伊那支部主催 災害研修会	伊那市
	平成27年11月	長野県看護協会諏訪支部 災害看護研修	諏訪市
	平成28年2月	第4回かごしま国際看護フォーラム	鹿児島県
柄澤邦江	平成27年4月	ファシリテーション研修会	名古屋市
	平成27年5月	ファシリテーション研修会	東京都
	平成27年7月	日本在宅ケア学会（在宅ケア学、ターミナルケア）	東京都
	平成28年3月	「病児を在宅で看取った母の体験」研修会	飯田市
近藤恵子	平成27年11月	思考過程を身につけるシミュレーション授業講座	東京都
酒井久美子	平成28年1月	保健師職能研修会実践力UP事例検討会 保健指導ミーティング	松本市
佐々木美果	平成27年7月	新生児蘇生法専門コース（Aコース）	松本市
	平成27年7月	CTGモニター研修会	伊那市
	平成27年7月	新生児の生理学とフィジカルアセスメント	伊那市
	平成27年12月	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認定	東京都
	平成28年2月	リカバリーハタ・ヨーガインストラクター養成講座	大阪府
塩澤綾乃	平成27年6月	CTGモニター研修会	伊那市
	平成27年7月	新生児の生理学とフィジカルアセスメント	伊那市
	平成27年7月	新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）	松本市
	平成27年10月	長野県助産師会 乳腺炎又は乳房トラブルを抱えた母親への母乳育児支援	塩尻市
	平成27年12月	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認定	東京都
	平成28年2月	リカバリー・ハタヨーガ・インストラクター養成講座	大阪府
下村聡子	平成28年1月	保健師職能研修会 実践力UP事例検討会 保健指導ミーティング	松本市
白井 史	平成27年9月	基礎からのグループ（講義と体験グループ）	駒ヶ根市
	平成27年9月	潜在保育士就職支援講習会	伊那市

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
曾根千賀子	平成 27 年 4 月	平成 27 年度東海看護倫理検討会 第 2 回検討会 TNE47	名古屋市
	平成 27 年 12 月	平成 27 年度東海看護倫理検討会 第 3 回検討会 TNE47	名古屋市
高橋百合子	平成 27 年 6 月	長野県看護協会伊那支部研修会「何のために働くのか」	伊那市
	平成 27 年 8 月	第 27 回長野県小児保健研究会「ネット依存から子どもを守る」	塩尻市
	平成 27 年 9 月	信州グループ研究会 2015 年度公開講座「基礎からのグループ」	駒ヶ根市
	平成 27 年 11 月	第 9 回 NPO 法人日本ファシリテーション協会中部支部イベント「成果事例発表・対話セッション」	名古屋市
長南幸恵	平成 27 年 7 月	特別支援教育夏季研修講座	喬木村
	平成 27 年 9 月	JDD ネットワークセミナー in ながの ASD への支援と連携	塩尻市
	平成 28 年 2 月	JDD ネットワークながのチャリティーセミナー	松本市
中林明子	平成 28 年 3 月	緩和ケア研究会「病児を在宅で看取った母の体験」	飯田市
那須淳子	平成 28 年 1 月	ナースのための心臓病教室	伊那市
西村理恵	平成 27 年 7 月	長野県助産師会 産科救急の対応を学ぼう	松本市
	平成 27 年 8 月	長野県助産師会 年齢に応じた性教育のあり方	松本市
	平成 27 年 9 月	長野県助産師会 妊娠中・産後のヨガ	伊那市
	平成 27 年 10 月	長野県助産師会 乳腺炎又は乳房トラブルを抱えた母親への母乳育児支援	塩尻市
	平成 28 年 1 月	日本看護協会 地域母子保健の推進シンポジウム～妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に向けて～	東京都
	平成 28 年 3 月	助産師教育協議会セミナー～教育評価の考え方・助産師の専門性を高める教育～	大阪府
藤原聡子	平成 27 年 11 月	日本医史学会 11 月例会	東京都
松本淳子	平成 27 年 6 月	日本音楽知覚認知学会平成 27 年度春季研究発表会チュートリアル「音の流れと連続判断について」	札幌市
	平成 27 年 7 月	日本臨床心理士認定協会第 11 回子育て支援講座「地域における子育て支援-臨床心理士の新たな役割-」	京都市
	平成 27 年 8 月	日本教育心理学会第 57 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー「教育心理学研究のためのテキストデータの計量分析」	新潟市
	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会チュートリアルワークショップ「睡眠障害に対する認知行動療法の実践」	名古屋市
	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会チュートリアルワークショップ「コンピュータ・ネットワークを利用した集団実験のノウハウ」	名古屋市
	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会チュートリアルワークショップ「実践的学習方法とその効果」	名古屋市
	平成 27 年 11 月	日本心理研修センター秋季研修会「自閉症スペクトラム障害への発達論的アプローチの新動向(6)」	摂津市
	平成 28 年 2 月	日本臨床心理士会平成 27 年度定例研修会 2 (大阪) 第 8 回 (発達) 障害の理解と支援に関する総合研修会後期 (1)	大阪市
	平成 28 年 2 月	日本臨床心理士会平成 27 年度定例研修会 2 (大阪) 第 8 回 (発達) 障害の理解と支援に関する総合研修会後期 (2)	大阪市
御子柴裕子	平成 27 年 6 月	大学間連携による地域看護学教育ファカルティディベロプメント戦略会議(平成 27 年度第 1 回)	安曇野市
	平成 28 年 1 月	保健師職能研修会 実践力 UP 事例検討会 保健指導ミーティング	松本市
	平成 28 年 3 月(後日 WEB 受講)	第 7 回 JANS セミナー エビデンスを統合するーシステムティックレビューとメタ統合ー	東京都(後日 WEB 受講)

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
宮越幸代	平成 27 年 6 月 平成 28 年 2 月	JICA 国際協力機構；国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」全 2 回（課題検討会、ミッション・マネジメント）	神戸市 東京都
	平成 27 年 10 月	長野県看護協会災害看護支援ナース・フォローアップ研修	松本市
村井ふみ	平成 28 年 1 月	保健師職能研修会 実践力 UP 事例検討会 保健指導ミーティング	松本市
	平成 28 年 3 月	地域看護学会研究活動推進委員会主催セミナー 「活用できる文献レビューの方法」	東京都
安田貴恵子	平成 27 年 7 月	諏訪保健福祉事務所管内保健業務研究会「災害時保健活動～災害発生後各期の保健活動～」	諏訪市
	平成 27 年 9 月	平成 27 年度看護学教育ワークショップ 10 年後を見据えた看護学教育の質改善の取り組み	千葉市
屋良朝彦	平成 28 年 1 月 2 月	哲学対話@沖縄（琉球新報本社・沖縄県立宮古島高校）	那覇市 宮古島市

(2) 国外研修

平成 27 年度に本学教員が国外で受けた研修は、2 件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
牛山陽介	平成 28 年 2～3 月	看護海外研修	サンフランシスコ
屋良朝彦	平成 28 年 8 月	国際看護哲学会参加	ストックホルム

第 2 節 研究活動

(1) 助成金による研究活動

① 文部科学省（日本学術振興会科学研究費補助金）による研究

平成 27 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は 26 件であった。

継続研究は 22 件、新規の研究は 4 件であった。（表 2・3）

（表 2）平成 27 年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新規・継続			新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	40	26	65.0%	18	4	22.2%	17,550
転出分②		0			0		
転入分③		0			0		
本学執行分①-②+③		26			4		17,550

（表 3）平成 27 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成 24～27 年度	里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究
基盤研究(B)	渡辺みどり	平成 24～27 年度	長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価
	内田雅代	平成 26～29 年度	小児がん看護の標準化を目指した「ガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(C)	清水嘉子	平成 23～27 年度	母親の健康チェックシートの開発と評価ー育児相談への活用と縦断調査の試みー
	秋山 剛	平成 24～27 年度	途上国における学校でのメンタルヘルス・プロモーションについて
	竹内幸江	平成 25～27 年度	きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究
	有賀美恵子	平成 25～27 年度	精神疾患が疑われる高校生に対処する養護教諭への支援ー早期介入と医療との連携ー
	柄澤邦江	平成 25～27 年度	シームレスな緩和ケアを提供するための地域緩和ケア体制の構築に関する研究
	松本淳子	平成 26～28 年度	病棟の快適な音環境づくりに関する研究
	太田克矢	平成 26～28 年度	看護学科新生入生への理科的基礎知識の教授方法の開発
	塩澤綾乃	平成 26～28 年度	入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援プログラムの実施と評価
	阿部正子	平成 26～28 年度	生殖医療に携わる看護師の実践能力開発とキャリア形成支援に関する研究
	千葉真弓	平成 26～29 年度	認知症看護の質評価尺度の開発と臨床適用の検討
	屋良朝彦	平成 27～29 年度	応用倫理学における精神医療倫理と合意形成
挑戦的萌芽研究	長南幸恵	平成 25～27 年度	自閉症スペクトラム児の「感覚の過敏症」に起因した問題行動の改善に向けた基礎的研究
	小林たつ子	平成 25～27 年度	足浴は高齢者における夜間多尿と睡眠の質を改善する
	有賀智也	平成 27～29 年度	矯正施設で高齢受刑者に携わる看護師が抱える困難感の解明と対処方略の検討
若手研究(B)	田中真木	平成 23～27 年度	倫理問題への対処行動からみた看護学生のケアリング倫理観に関する研究
	伊藤郁恵	平成 23～27 年度	集中ケアに携わる看護師の看護実践における臨床判断の基盤となる倫理観の形成プロセス
	曾根千賀子	平成 23～27 年度	認知症高齢者をケアする看護師の倫理的ジレンマと倫理的価値観に基づく教育プログラム
	江頭有夏	平成 23～27 年度	介護保険施設におけるせん妄発症予防に関するケアプログラムの実証的検討
	赤羽洋子	平成 24～28 年度	妊婦を対象としたフットケアの研究
	中畑千夏子	平成 25～27 年度	新生児に対する常在細菌の移行・定着を目的とした介護介入の確立
	熊谷理恵	平成 26～29 年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発
	佐々木美果	平成 27～28 年度	未就学児をもつシングルマザーが体験している育児上の困難とストレス要因の検討
	高橋百合子	平成 27～29 年度	慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる外来看護師への教育支援プログラムの作成と評価

② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成 27 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、9 件であった。(表 4)
 継続研究は 4 件、新規の研究は 5 件であった。

(表 4) 平成 27 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
坂田憲昭	平成 25～27 年度	黄色ブドウ球菌 IsaA タンパク質を標的とする機能的抗体の血中レベルと感染防御に関する役割の解析
松本淳子	平成 26～27 年度	心身の健康におけるカラオケの効果
佐々木美果	平成 26～27 年度	ひとり親による子育ての実態 ー子育ての困難と子どもへの想いー
内田雅代	平成 26～28 年度	食物アレルギーの子どもをもつ家族のケアニーズと家族会の活動 ー日常および災害時のケアニーズに焦点を当てた家族と医療者との協働ー
喬 炎	平成 27 年度	和漢薬湯浴の動物皮膚治癒遅延創に対する治癒促進効果の観察
秋山 剛	平成 27 年度	長野県の里親が養育上抱える問題とその社会的支援についての研究
西村理恵	平成 27～28 年度	臨床助産師による助産学生の助産実践応力の査定と教育的支援
安田貴恵子	平成 27 年度	保健師の家庭訪問技術：A市の悉皆訪問に取り組んだ保健師の行為と認識
安田貴恵子	平成 27～28 年度	長野県看護大学学部卒業生の就業状況調査

③ 県内看護職者との共同研究

平成 27 年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は 5 件であった。(表 5)
 継続研究は 4 件、新規の研究は 1 件であった。

(表 5) 平成 27 年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
黒川めぐみ(こころの医療センター駒ヶ根)	平成 26～27 年度	看護師が向精神薬の副作用を説明するうえで感じる困難とそれに対する支援	東修
穂高幸枝(伊那中央病院)	平成 26～27 年度	他(多)職種との連携。協働において看護師が困難だと感じていること	内田雅代
森上幸恵(下伊那赤十字病院)	平成 26～27 年度	在宅における褥創予防と管理の質向上に関する研究 ーケアマネージャーに対する調査の分析ー	柄澤邦江
木村純子(社会医療法人財団滋千慈泉会相澤病院)	平成 26～27 年度	がん患者と子どものコミュニケーションを促進するためのツールの検討	内田雅代
唐澤秀明(伊那中央病院)	平成 27～28 年度	一般病棟看護師の人工呼吸器装着患者への思い～ケアで大切にしていることに焦点を当てて～	伊藤郁恵

(2) 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
小児看護学分野	保育園における食物アレルギーへの対応の実際（特別研究費活用）	保育園における食物アレルギーへの対応について、園長及び保育士を対象に調査を行った。園長には、誤食予防のための園としての取り組みを、保育士には日頃の家族との関わりや誤食時の対応等を尋ねた。その結果、園として様々な取り組みがなされており、保育士は家族との打合せなど、細やかな対応も見られた。昨年実施した家族の調査結果と合わせて、今後、家族や専門職にも役立つ食物アレルギーのパンフレットの作成に繋がっていきたい。
老年看護学分野	認知症高齢者に関する研究（科学研究費活用）	グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践や終末期ケアに必要な医療連携のための看護について示唆が得られた。
	高齢者への水中運動効果に関する研究（科学研究費活用）	地域在住高齢者における、水中運動による身体機能と転倒予防自己効力感などについての関係性を明らかにした。
	終末期の生活と介護についての高齢者の意向に関する研究（科学研究費活用）	終末期の生活と介護に関する高齢者の意向の特徴が明らかとなり、それを支える看護の役割をうかがい知ることができた。
精神看護学分野	精神科看護師が患者から向精神薬の副作用の説明を求められた時に感じている困難と対処に関する研究（共同研究）	7割の精神科看護師が向浮く作用について説明を求められ、うち8割の看護師が説明する際に困難を感じていた。それは副作用を説明することが患者の服薬に影響を与えるのではないかとの恐れを反映していた。
	英国の精神医療における強制治療に関するサービス受給者の満足度に関する基礎研究。	国内の精神医療は行動制限を含む強制治療を最小限にする努力が払われているが、サービス受給者の満足度調査が行われていない。英国ではメンタルヘルに関連する全NHSに当事者組織（Mind）が強制治療の実態調査を広範囲に行っている。この調査報告書を訳出しつつ検討し、国内における強制治療を検討する基礎資料とする。
	英国における精神科救急・急性期看護マニュアルに関する文献研究	国内では精神科救急・急性期治療病棟の開設が進み、2015年12月末現在、精神科救急病棟病床数が7136床を数える。精神科救急治療の均霑（てん）化作業が進んでいる一方、救急・急性期看護の内容の標準化や均霑化には至っていない。そのため、救急・急性期看護に歴史を有する英国における精神科救急看護マニュアルの訳出をしながら、国内に求められる精神科救急看護マニュアルの方向性を検討する。
	SalusVisionを用いた精神科看護セミナーや看護研究プログラムの開発に関する基礎研究	大学研究室と臨床現場をWeb会議システムで接続し、移動の必要がなく大学教員と臨床の看護師が職務中に繋がり、双方向で情報の共有とディスカッションを可能にするプログラムを開発し、人材育成と看護研究支援についてその有効性を試験的に実施している。
看護地域学分野	保健師の家庭訪問技術に関する研究（特別研究費活用）	保健活動の一貫として行われた積極的家庭訪問に従事した保健師に対する調査を行い、認識と行為を明らかにし、地区活動に発展させる家庭訪問の認知的な技術を考察することができた。

(3) その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

① 著書・翻訳（五十音順）

氏名	内 容
井村俊義	井村俊義 (2015): 看護の変容と近代というディレンマ—GHQ の「遺産」を巡るいくつかの視点. 杉田米行編, 第二次世界大戦の遺産:アメリカ合衆国, 96-110, 大学教育出版, 岡山.
清水嘉子	清水嘉子 (2016): 育児幸福感. 1-259, 東京図書出版, 長野. 清水嘉子 (2016): いきいき子育て手帳. 1-72, 東京図書出版, 長野.
西垣内磨留美	西垣内磨留美 (2016): 「リパブリック讃歌」とジュリア・ウォード・ハウ. 松本昇, 高橋勤, 君塚淳一編, ジョン・ブラウンの屍を越えて:南北戦争とその時代, 67-87, 金星堂, 東京.
藤原聡子	藤原聡子, 城ヶ端初子, 笠井恭子, 増田安代, 松岡義明, 松山明子, 三田村裕子, 茂木康子, 二宮球実, 奥野修一, 小野千秋, 水主千鶴子, 澤美一枝, 田尻后子, 辻由紀, 上仲久, 脇本澄子, 脇田真理子 (2015): 第 3 章看護活動と倫理;母性看護と倫理. 城ヶ端初子, 実践に生かす看護倫理, 84-90, 久美出版, 京都.
松本淳子	松本じゅん子 (2016): 音楽聴取行動と気分. 日本音響学会編, 音響キーワードブック, 78-79, コロナ社, 東京.

② 論文（五十音順）

氏名	内 容
東修	東修, 岡田実 (2015): 精神科救急・急性期場面での看護活動と権利擁護. 精神科救急, 18 巻, 49-53.. 黒川めぐみ, 田中順子, 清水恵介, 東修 (2016): 看護師が患者に向精神薬の副作用を説明するうえで感じている困難. 第 45 回日本看護学会論文集, 精神看護, 139-142..
有賀美恵子	有賀美恵子 (2015): 高校生における社会的スキルの関連要因. 日本社会精神医学会雑誌, 24(3):228-239.
柄澤邦江	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅保健師が実践経験を通じて得ている学び. 日本ルーラルナース学会誌, 11:1-13.
小林たつ子	吉江由美子, 小林たつ子(2014):ヒーリングタッチによる就労後看護師の疲労感に対する効果の検討, 日本看護科学会誌, 34 巻, 255-262. 三浦雅文, 多田真和, 小林たつ子(2014): アクティグラフマイクロミニ音型センサーを用いた腸蠕動運動評価の試み—評価の再現性について—, 理学療法科学, 30(1), 125-129. 熊倉(小林)美咲, 小林たつ子(2015): 開腹による子宮筋腫手術患者への呼吸法—STAI・自律神経活動測定による術前不安の軽減の検討—, 日本看護技術学会誌, 14(3), 248-256.
酒井久美子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅期保健師が実践経験を通じて得ている学び. 日本ルーラルナース学会誌, 11:1-13.
坂田憲昭	坂田憲昭, 松澤有夏, 曾根千賀子, 渡辺みどり, 千葉真弓, 細田江美, 中畑千夏子 (2015): 高齢者介護施設におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布状況とその性状. 基礎科学をもとにした Co-Medial 研究会雑誌, 3: 22-28.
佐々木美果	清水嘉子・佐々木美果・塩澤綾乃・宮原美知留・赤羽洋子・阿部正子・藤原聡子 (2015): 「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による働きかけの対応. 日本助産学会誌, 272-282.
清水嘉子	清水嘉子・佐々木美果・塩澤綾乃・宮原美知留・赤羽洋子・阿部正子・藤原聡子 (2015): 「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による働きかけの対応. 日本助産学会誌, 272-282.
下村聡子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅保健師が実践経験を通じて得ている学び. 日本ルーラルナース学会誌, 11:1-13.
高橋百合子	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江, 安田貴恵子 (2016): 医療的ケアを要する子どもの母親と外来看護師双方の関わり方の受け止めに関する研究. 長野県看護大学紀要, 18:15-25.
多賀谷昭	Yumiko Toda, Masayo Sakamoto, Akira Tagaya, Mimi Takahashi, Anne Davis (2015): Patient advocacy: Japanese psychiatric nurses recognizing necessity for intervention. Nursing Ethics, 27 (7): 765 - 777. Mayumi Noguchi, Akira Tagaya, Ayako Sakoda, Hitoshi Komatsuzawa, Natsumi Fujiwara, Motoyuki Sugai (2016): Effectiveness of Oral Health Education Program on Prevention of Periodontal Disease in Japanese Pregnant Women. Open Journal of Nursing, 6: 282-293.
長南幸恵	長南幸恵(2016): フィンランドの保育園における自閉スペクトラム症の感覚の特性に対するケアの実践—聴覚, 運動感覚, 触覚を中心に—, 一般社団法人日本保育保健協議会学会保育と保健, 22(1), 19-22.
中畑千夏子	中畑千夏子, 奥山茜, 原田知恵, 下沢英里子, 村瀬麻亜沙, 鍵谷ゆうこ, 羽毛田真衣, 丸山理沙, 坂田憲昭 (2015): 大学生におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布とその特徴. 長野県看護大学紀要, 17:51-61.

氏名	内容
中林明子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅保健師が実践経験を通じて得ている学び. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11:1-13.
藤原聡子	藤原聡子 (2015): シンポジウム抄録「出生の場所」としての「病院・診療所」に従事する助産師の適正数, 養成数と職能の研究について. 日本医史学雑誌 61(3), 322-323.
御子柴裕子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅期保健師が実践経験を通じて得ている学び. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11:1-13. 下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術-A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動を通して. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
安田貴恵子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 酒井久美子, 中林明子 (2016): 中山間地域の市町村に勤務する中堅期保健師が実践経験を通して得ている学び. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11 巻:1-13. 村井ふみ, 安田貴恵子(2016):A 県における感染症集団発生と保健所保健師による支援経験の現状-高齢者福祉施設への支援の現状と困難さに着目して-, 長野県看護大学紀要, Vol.18,1-14. 高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江, 安田貴恵子 (2016): 医療的ケアを要する子どもの母親と外来看護師双方の受け止めに関する研究, 長野県看護大学紀要, Vol.18,15-26. 下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術-A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動を通して-, 長野県看護大学紀要, Vol.18,27-40.

③ 学会発表 (五十音順)

氏名	内容
秋山剛	秋山 剛, 竹内幸枝, 柄澤邦江, 北山秋雄: 専門里親のライフヒストリー. 平成 27 年度長野県看護大学研究集会, 2016.3.17, 駒ヶ根市. Takeshi Akiyama, Ernest R. Gregorio Jr., Jun Kobayashi: A trial study: Improving students' self-esteem after disaster through youth sports-activity. 日本国際医療学会, 2015.11.21, 金沢市.
足立美紀	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 竹内幸江, 齋藤博子, 安田貴恵子: 食物アレルギーを持つ子どもの親のケアニーズ — 普段の生活と災害時における心配 —. 日本家族看護学会 第 22 回学術集会, 2015.9.6, 小田原市.
有賀智也	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa, Tomoya Aruga, Akio Kitayama: Factors of Related to Individualized Care Practice Provided in Group Homes for Elderly People with Dementia in Japan. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia. 有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美: 水中運動に取り組む地域在住高齢者の身体機能と転倒予防自己効力感の特徴. 日本看護福祉学会, 2015.7.5, 福岡県北九州市.
有賀美恵子	有賀美恵子: 精神疾患が疑われる高校生への養護教諭のかかわり-医療機関との連携支援における課題-. 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.6, 広島市.
井出彩織	井出彩織, 阿部正子: 総合病院に勤務する助産師が行う気になる母児への継続支援プロセス. 第 18 回長野県母子衛生学会, 2015.11.14, 松本市.
伊藤郁恵	伊藤郁恵: ICU で働く看護師の看護実践における臨床判断と倫理観の関連性. 第 11 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2015.6.27-28., 福岡市.
牛山陽介	牛山陽介, 江頭有夏, 酒井郁子(千葉大学大学院看護学研究科): 臨床経験年数 3 年目の病棟看護師における感情的体験の考察. 第 46 回日本看護学会学術集会-看護管理-, 2015.9.8 - 2015.9.9, 福岡県.
内田雅代	Yuko Mikoshiba, Akira Tagaya, Chikako Nakahata, Sachiyo Miyakoshi, Masayo Uchida: The relationship between body images and health issues in early adolescence. THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015.8.19-21, Seoul, KOREA.
江頭有夏	Yuka Matsuzawa, Midori Watanabe: CHANGES IN PROFESSIONAL AUTONOMY AND KNOWLEDGE OF CAREGIVERS AFTER A DELIRIUM PREVENTION CARE PROGRAM FOR ELDERLY WITH DEMENTIA. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.

氏名	内 容
太田克矢	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美: 水中運動に取り組む地域在住高齢者の身体機能と転倒予防自己効力感の特徴.. 日本看護福祉学会, 2015.7.5, 北九州市.
	太田克矢, 江頭有夏, 牛山陽介, 竹内幸江: 看護学科新入生の理科的基礎知識一臨床に関連する化学式と物理単位に着目して一. 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.5-6, 広島国際会議場.
柄澤邦江	Kunie Karasawa, Kunie Karasawa, Mihoko Itou, Kieko Yasuda, Akiko Nakabayashi, Mihoko Shimizu, Fumiko Oishi: Practice and Awareness of Visiting and Hospital Nurses Involved in Palliative Care for Cancer Patients . The 6th international conference on community health nursing research , 2015.8.20, Seoul.
	安田貴恵子, 柄澤邦江, 中林明子: 中山間地域訪問看護ステーションとの共同研究事業における看護系大学教員の支援. 日本ルーラルナーシング学会第 10 回学術集会, 2015.8.27, 栃木県下野市.
	柄澤邦江, 伊藤礼子, 大石ふみ子, 中林明子, 安田貴恵子 : 在宅がん療養者のスピリチュアルペインに関わる 訪問看護師のケアの現状. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.2, 横浜市.
	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子.: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.1, 横浜市.
	中林明子, 柄澤邦江, 森上幸恵, 伊藤みほ子, 近藤恵子: 在宅療養者の褥瘡悪化の理由と今後の方策に関する介護支援専門員の認識. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.2, 横浜市.
	森上幸恵, 伊藤みほ子, 柄澤邦江, 近藤恵子: 在宅療養者の褥瘡予防に関する介護支援専門員の取り組み. 日本看護学会(在宅看護), 2015.10.3, 名古屋市.
近藤恵子	近藤恵子, 白鳥さつき, 田嶋紀子, 那須淳子, 上條こずえ: 病棟業務と兼務をしている皮膚・排泄ケア認定看護師が望む上司の支援と実際に受けた支援に関する研究. 日本看護管理学会, 2015.8.28-29, 福島市.
	中林明子 柄澤邦江 森上幸恵, 伊藤みほ子, 近藤恵子: 在宅療養者の褥瘡悪化の理由と今後の方策に関する介護支援専門員の認識. 日本地域看護学会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	白鳥さつき, 田嶋紀子, 近藤恵子, 上條こずえ, 那須淳子, 原厚子, 鈴木真由美: 看護師養成所および短期大学の教員のキャリア開発の状況と特性的自己効力感との関連. 日本看護科学学会, 2015.12.5-6, 広島市.
	上條こずえ, 白鳥さつき, 山崎章恵, 田嶋紀子, 近藤恵子, 那須淳子: 全国 400 床以下の施設における看護管理者が認識する職場内暴力およびハラスメントに関する調査. 日本看護科学学会, 2015.12.5-6, 広島市.
	近藤恵子, 山崎章恵: 間質性膀胱炎患者の症状出現時の方略. 日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会, 2016.2.19-20, 甲府市.
酒井久美子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	Kumiko Sakai, Kieko Yasuda: The effect of the prevention program of lifestyle-related disease from a point of the continuing situation of health behavior. The 6th international conference on community health nursing research, 2015.8.21, Seoul, Korea.
佐々木美果	Mika Sasaki, Masako Abe, Yoshiko Shimizu, Ayano Shiozawa, Michiru Miyahara, Hiroko Akahane, Rie Nishimura, Satoko Fujihara: Childcare Stress Among Single Mothers Rearing Preschool Children. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, 2015.7.20-22, Yokohama.
島袋梢	川田 均, 中澤 秀介, 島袋 梢, 大橋 和典: トフルトリン製剤を用いたマラウイ共和国におけるマラリアコントロールに関する小規模試験(1)メフルトリンの揮散率と家屋の構造の関連に関する考察.. 第 68 回日本寄生虫学会南日本支部大会 第 68 回日本寄生虫学会南日本支部大会 合同大会, 2015.10.17-18, 長崎.
	島袋 梢: デング熱媒介蚊 2 種(Aedes aegypti / albopictus)の竹筒産卵における形状嗜好性特徴とアジア竹製住居地域におけるフィールド対策への応用の検討. 第 30 回日本国際保健医療学会学術大会, 2015.11.20-22, 金沢.
	島袋 梢, 川田 均: デング熱媒介蚊 2 種(ネッタイシマカとヒトスジシマカ)の産卵と光の影響に関する基礎的研究. 第 56 回日本熱帯医学会大会, 2015.12.4-5, 大阪府.
清水嘉子	松浦志保 清水嘉子: 正常経過をたどる初妊婦とその夫とハイリスクな状態にある所妊婦とその夫の親準備性の実態調査. 日本母性看護学会, 2015.6, 仙台市.
	小川紀子 清水嘉子 今井家子: 福島原発事故後福島県外への避難を経験した育児中の母親の心理状態一避難前・避難中・福島に戻ってから一. 日本災害看護学会, 2015.10, 宮城県.

氏名	内容
清水嘉子	常田裕子、遠藤俊子、小林康江、渡邊竹美、清水嘉子、奥村ゆかり、永見桂子、齋藤益子: 助産師基礎教育における産婦ケア能力の獲得に関する研究. 日本母性衛生学会, 2015.10, 仙台市.
	Tomiko Nakajima, Yoshiko Shimizu Yuko Tokita 他 4: Care Program to Support the sleep-awakening Rhythm Formation in the Early Stage of Infancy. 18ThNationalMother BabyNurses Conference, 2015.11, Furorida .
下村聡子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.1, 横浜市.
曾根千賀子	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa, Tomoya Aruga, Akio Kitayama: Factors of Related to Individualized Care Practice Provided in Group Homes for Elderly People with Dementia in Japan. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
	Chikako Sone, Katsumasa Ota: The Contents of Nursing Care to The Elderly People with Dementia in General Hospitals. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
	曾根千賀子, 太田勝正, 新實夕香理: 病院の看護師が認識する認知症看護ケアの大切さを構成する因子. 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.5-6, 広島市.
喬炎	喬 炎: 分子病理学的手法を用いた天然温泉の皮膚治癒遅延創治癒促進作用の機序解明. 第 80 回日本温泉気候物理医学会総会, 2015.6.20, 軽井沢町.
	喬 炎、三浦大志、島袋梢: スマートフォンを光学顕微鏡へ接続させるアダプターの開発. 第 14 回コ・メディカル形態機能学会学術集会, 2015.9.26, 埼玉県入間郡毛呂山町.
	喬 炎: スマートフォン接続アダプターの開発と光学顕微鏡観察への活用. 日本生物教育学会第 100 回全国大会, 2016.1.10, 東京都.
	喬 炎, 三浦大志, 島袋 梢, 北山秋雄: 和漢薬湯浴の動物皮膚治癒遅延創に対する治癒促進効果の観察. 平成 27 年度 長野県看護大学研究集会, 2016.3.17, 駒ヶ根市.
高橋百合子	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 齋藤博子, 竹内幸江: 慢性疾患をもつ子どもの家族と関わる外来看護師のケアの実態と教育支援ニーズに関する認識. 日本小児看護学会第 25 回学術集会, 2015.7.25, 千葉市.
	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 竹内幸江, 齋藤博子, 安田貴恵子: 食物アレルギーを持つ子どもの親のケアニーズ — 普段の生活と災害時における心配 —. 日本家族看護学会 第 22 回学術集会, 2015.9.6, 小田原市.
多賀谷昭	多賀谷昭, 那須裕, 吉村隆, 佐藤清湖, 北山秋雄, 深山智代, 秋山剛, 望月経子, 佐藤奈菜: Satoyama 健康資源の測定尺度開発の試み. 信州公衆衛生学会第 10 回学術総会, 2015.8.22, 上田市.
	Yuko Mikoshiba, Akira Tagaya, Chikako Nakahata, Sachiyo Miyakoshi, Masayo Uchida: The relationship between body images and health issues in early adolescence. THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015.8.19-21, Seoul,KOREA.
竹内幸江	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 齋藤博子, 竹内幸江: 慢性疾患をもつ子どもの家族と関わる外来看護師のケアの実態と教育支援ニーズに関する認識. 第 25 回日本小児看護学会学術集会, 2015.7.25, 千葉市.
	太田克矢, 江頭有夏, 牛山陽介, 竹内幸江: 看護学科新入生の理科的基礎知識—臨床に関連する化学式と物理単位に着目して—. 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.5-6, 広島市.
田中真木	田中真木: 臨地実習で遭遇した問題への対処行動からみた看護学生が持つ価値観とは. 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2015.11.30, 名古屋.
千葉真弓	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa, Tomoya Aruga, Akio Kitayama: Factors of Related to Individualized Care Practice Provided in Group Homes for Elderly People with Dementia in Japan. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
長南幸恵	長南幸恵: 自閉スペクトラム症の感覚の特性と行動との関連についての考察—2 事例の保育場面の参加観察から—, 第 62 回日本小児保健協会学術集会, 2015.6.18-20, 長崎市.
	長南幸恵 (2015) :ASD 児の感覚の特性に関する研究, 日本自閉症スペクトラム学会第 14 回研究大会, 2015.8.22-23, 札幌市
中畑千夏子	Yuko Mikoshiba, Akira Tagaya, Chikako Nakahata, Sachiyo Miyakoshi, Masayo Uchida: The relationship between body images and health issues in early adolescence. THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015.8.19-21, Seoul,KOREA.

氏名	内容
中林明子	Kunie Karasawa, Mihoko Itou, Kieko Yasuda, Akiko Nakabayashi, Mihoko Shimizu, Fumiko Oishi: Practice and Awareness of Visiting and Hospital Nurses Involved in Palliative Care for Cancer Patients. The 6th international conference on community health nursing research, 2015.8.20, Seoul.
	安田貴恵子, 柄澤邦江, 中林明子: 中山間地域訪問看護ステーションとの共同研究事業における看護系大学教員の支援. 日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会, 2015.8.27, 栃木県下野市.
	柄澤邦江, 伊藤礼子, 大石ふみ子, 中林明子, 安田貴恵子: 在宅がん療養者のスピリチュアルペインに関わる訪問看護師のケアの現状. 日本地域看護学会第18回学術集会, 2015.8.2, 横浜市.
	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会第18回学術集会, 2015.8.1, 横浜市.
	中林明子, 柄澤邦江, 森上幸恵, 伊藤みほ子, 近藤恵子: 在宅療養者の褥瘡悪化の理由と今後の方策に関する介護支援専門員の認識. 日本地域看護学会第18回学術集会, 2015.8.2, 横浜市.
那須淳子	那須淳子, 白鳥さつき, 中畑千夏子, 田嶋紀子, 山崎章恵, 上條こずえ: 全国の400床未満の施設の看護管理者を対象とした職業感染対策に関する研究. 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.5, 広島市.
	白鳥さつき, 田嶋紀子, 近藤恵子, 上條こずえ, 那須淳子, 原厚子, 鈴木真由美: 看護師養成所および短期大学の教員のキャリア開発の状況と特性的自己効力感との関連. 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.5, 広島市.
	上條こずえ, 白鳥さつき, 山崎章恵, 田嶋紀子, 近藤恵子, 那須淳子: 全国の400床以下の施設における看護管理者が認識する職場内暴力およびハラスメントに関する調査. 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.6, 広島市.
	中塚菜々, 那須淳子, 田村かおり, 宮越幸代: 外国人技能実習生が行う健康のセルフケア状況-A県B市C社のベトナム人技能実習生とのインタビュー調査-. 日本国際保健医療学会 第34回西日本地区会, 2016.2.27, 倉敷市.
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi: Zora Neale Hurston and Headdresses. The International Journal of Arts & Sciences, 2015.5.27, Boston, U.S.A.
	Marumi Nishigauchi: How Do Students Learn a Language?: Comparing Different Learning Systems. 14th Hawaii International Conference on Education, 2016.1.10, Honolulu, U.S.A.
細田江美	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa, Tomoya Aruga, Akio Kitayama: Factors of Related to Individualized Care Practice Provided in Group Homes for Elderly People with Dementia in Japan. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
	江頭有夏, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 細田江美, 曾根千賀子, 有賀智也, 牛山陽介, 伊藤佑季, 川喜田恵美: 地域在住高齢者の主観的健康観と抑うつ傾向及び転倒自己効力感の関係-運動習慣のある高齢者の分析から-. 日本老年看護学会第20回学術集会, 2015.6.12-14, 横浜市.
	千葉真弓, 細田江美, 渡辺みどり, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 橋本晶子, 川喜田恵美: グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場」づくりのためのケア実践-経営母体による比較-. 日本老年看護学会第20回学術集会, 2015.6.12-14, 横浜市.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美: 水中運動に取り組む地域在住高齢者の身体機能と転倒予防自己効力感の特徴. 日本看護福祉学会, 2015.7.5, 北九州市.
松本淳子	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: カラオケとヒトカラによる心身への効果. 第10回信州公衆衛生学会総会, 2015.8.22., 上田市.
	松本じゅん子: 大学生における失恋によるストレスの強度と対処行動. 日本教育心理学会第57回総会, 2015.8.26, 新潟市.
	松本じゅん子: 音楽療法が患者に対する看護師の関わりに与える影響. 日本心理学会第79回大会, 2015.9.23, 名古屋市.
	松本じゅん子: 映像視聴による歌唱への影響. 日本音響学会 2015年秋季研究発表会, 2015.9.17, 会津若松市.
	Matsumoto, J. & Tagaya, A.: Evaluation of impressions of sounds:: A comparison between urban and rural areas. 12th Western Pacific Acoustics Conference, 2015.12.7, Singapore.
	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: カラオケとヒトカラの利用と心理的効果. 平成27年度長野県看護大学研究集会, 2016.3.17, 駒ヶ根市.

氏名	内 容
松本淳子	松本じゅん子: 映像の有無によるボーカロイド曲に対する印象の違い. 日本音響学会 2016 年春季研究発表会, 2016.3.10, 横浜市.
三浦大志	Akira Nikaido, Yoshiki Hata, Junji Mochizuki, Daiji Miura: Efficacy and Safety of Low-carbohydrate Diets in Cardiac Rehabilitation. 第 79 回 日本循環器学会 総会・学術集会, 2015.4.26-28, 大阪府.
	Mutsuko Sangawa, Hiroshi Morita, Hiroki Sugiyama, Koji Nakagawa, Nobuhiro Nishii, Satoshi Nagase, Kunihisa Kohno, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Itoh, Daiji Miura, Kengo Kusano, Tohru Ohe: Genotype-specific QTadaptation at Exercise in Long QT Syndrome. Comparison between LQTS with TdP and LQTS without TdP. 第 79 回 日本循環器学会 総会・学術集会, 2015.4.26-28, 大阪府.
	Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Kei Yunoki, Yasushi Koyama, Yukihiko Saito, Minoru Satoh, Kazuhiro Ohsawa, Toru Miyoshi, Nobuhiro Nishii, Hiroshi Morita, Hiroshi Itoh: Inhibitory Effects of Eicosapentaenoic Acid on Arterial Calcification in Klotho Mutant Mice. 第 79 回 日本循環器学会 総会・学術集会, 2015.4.26-28, 大阪府.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: 和漢薬湯浴の動物皮膚治癒遅延に対する治癒促進効果の観察. 平成 27 年度 長野県看護大学研究集会, 2016.3.17, 駒ヶ根市.
御子柴裕子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	細田せい子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 御子柴裕子: 長野県内の一市における保健補導員経験者の活動経験と活動に対する意識の実態. 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	Yuko Mikoshiba, Akira Tagaya, Chikako Nakahata, Sachiyo Miyakoshi, Masayo Uchida: The relationship between body images and health issues in early adolescence. THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015.8.19-21, Seoul,KOREA.
宮越幸代	宮越幸代: A 看護大学で学生が実施した在日ブラジル人生徒への健康教育. 第 30 回日本国際保健医療学会東日本地方会, 2015.6.20, 佐久市.
	春原果歩, 宮越幸代: サモアにおける国際看護実習を履修した看護学生の異文化に対する反応とその過程. 第 30 回日本国際保健医療学会東日本地方会, 2015.6.20, 佐久市.
	黒住健人, 兼崎陽太, 宮越幸代, 弘中陽子: ネパール中部地震被災者支援-HuMA 一次隊での活動-. 第 21 回日本集団災害医学会総会, 2016.2.27-29, 山形市.
	中塚菜々, 宮越幸代: 外国人技能実習生が行う健康のセルフケア状況-A 県 B 市 C 社のベトナム人技能実習生とのインタビュー調査-. 日本国際保健医療学会第 34 回西日本地方会, 2016.2.27, 岡山市.
	Yuko Mikoshiba, Akira Tagaya, Chikako Nakahata, Sachiyo Miyakoshi, Masayo Uchida: The relationship between body images and health issues in early adolescence. THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015.8.19-21, Seoul,KOREA.
村井ふみ	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会大 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
安田貴恵子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術. 日本地域看護学会大 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	細田せい子, 安田貴恵子, 柄澤邦江, 御子柴裕子: 長野県内の一市における保健補導員経験者の活動経験と活動に対する意識の実態. 日本地域看護学会大 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	柄澤邦江, 伊藤礼子, 大石ふみ子, 中林明子, 安田貴恵子: 在宅がん療養者のスピリチュアルペインに関わる訪問看護師のケアの現状. 日本地域看護学会大 18 回学術集会, 2015.8-1-2, 横浜市.
	細田裕子, 安田貴恵子: 医療的ケアを要する在宅療養児の主養育者の健康関連 QOL と保健行動. 日本地域看護学会大 18 回学術集会, 2015.8.1-2, 横浜市.
	Sanae Haruyama, Tomoko Sekiyama, Tomoe Tsukamoto, Shingo Esumi, Sagiri Aoki, Hiroko Shimada, Kumiko Suzuki, Sugako Tamura, Yaeko Nakao, Kieko Yasuda, Yoko Yamazaki: Characteristic of the district to have devise the public health nurses practice to reduce health disparities in Japan. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015.8.21, Seoul,Korea.
	Kumiko Sakai, Kieko Yasuda: The effect of the prevention program of lifestyle-related disease from a point of the continuing situation of health behavior.. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015.8, 20-21, Soeul,Korea.
	Kunie Karasawa, Mihoko Itou, Kieko Yasuda, Akiko Nakabayashi, Mihoko Shimizu, Fumiko Oishi: Practice and Awareness of Visiting and Hospital Nurses Involved in Palliative Care for Cancer Patients.. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015.8, 20-21, Seol,Korea.

氏名	内 容
安田貴恵子	安田貴恵子, 柄澤邦江, 中林明子: 中山間地域訪問看護ステーションとの共同研究事業における看護系大学教員の支援. 日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会, 2015.8.27, 栃木県下野市.
屋良朝彦	屋良朝彦: 現代精神医療倫理の課題: 患者が地域に住むとは?, 北海道大学哲学会, 2015年7月19日, 札幌市.
渡辺みどり	Yuka Mastuzawa, Midori Watanabe: Changes in professional autonomy and knowledge of Caregivers after a delirium prevention care program for elderly people with dementia. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa, Tomoya Aruga, Akio Kitayama: Factors of Related to Individualized Care Practice Provided in Group Homes for Elderly People with Dementia in Japan. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美: 水中運動に取り組む地域在住高齢者の身体機能と転倒予防自己効力感の特徴. 日本看護福祉学会, 2015.7.5, 北九州市.
	畔上一代, 渡辺みどり, 千葉真弓, 柄澤邦江: 療養病棟における高齢者の廃用症候群予防ケアに関する看護職のジレンマ. 日本看護福祉学会, 2015.7.5, 北九州市.

④ 研究報告書 (五十音順)

なし

⑤ 講演等 (五十音順)

氏名	内 容
東修	東修: メンタルヘルスにおけるセルフケア. 2015.5.29, 駒ヶ根市.
	東修: 職員のメンタルサポートに役立つ、状況に応じたコミュニケーション技法. 2015.6.9, 金沢市.
	東修: 新採用看護師対象. ストレスマネジメントを理解する. 2015.7.15, 函館市.
	東修: 新人看護職員実地指導者研修. 新人看護職員のメンタルサポートと実地指導者のストレスマネジメント. 2015.8.11, 富山市.
	東修: 対人関係を良好に保つためのセルフケア, 2015.9.4, 佐久穂町立千曲病院.
	東修: 長野県看護協会主催: ストレスマネジメント研修会, 2015.10.28, 松本市.
	東修: 富山県看護協会主催: 一般病棟で遭遇する精神的な問題を抱えた患者へのケア, 2015.11.19, 富山市.
	東修: メンタルヘルスに不調を抱えるスタッフへの対応, 師長研修, 2015.12.3, 函館市. 東修: 対人関係におけるストレスマネジメント, 2年目看護師研修, 2015.12.4, 函館市.
足立美紀	足立美紀: 食物アレルギーをもつ子どもの親のケアニーズ— 普段の生活と災害時における心配— . 食物アレルギーのこどもの食事について学ぼう!, 2015.12.5, 駒ヶ根市.
井村俊義	井村俊義: 意味を感受する能力と看護する精神. 精神医療倫理科研第2回研究会, 2016.3.22, 金沢市.
柄澤邦江	柄澤邦江: 長野県新任期保健師研修会(第1回). 地域診断の重要性とアセスメントの方法, 2015.6.9, 松本市.
	柄澤邦江: 評価基準をふまえた実習方法. 長野県看護教育研究会在宅看護論分科会, 2015.7.27, 松本市.
	柄澤邦江: 長野県新任期保健師研修会(第2回). 地域診断の重要性とアセスメントの方法, 2015.8.7, 松本市.
	柄澤邦江, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 下村聡子: 孤独死ではない「在宅ひとり死」を考える集会. 日本地域看護学会第18回学術集会指定集会, 2015.8.1, 横浜市.
	柄澤邦江: 長野県新任期保健師研修会(第3回). 地域診断の重要性とアセスメントの方法(まとめ), 2015.11.30, 松本市.
	森上幸恵, 伊藤みほ子, 柄澤邦江, 中林明子, 近藤恵子: 調査結果報告および褥瘡予防のためのアセスメントツール. 在宅療養者の褥瘡予防に関する研修会, 2016.2.23, 松川町.
	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 清水美穂子: 地域において緩和ケアをより切れ目なく実践するための看護職の意見交換会. 調査結果報告および意見交換, 2016.3.3, 飯田市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子: 在宅療養者の看取りの現状. 在宅療養者の看取りを考える会, 2016.3.22, 駒ヶ根市.
	柄澤邦江: 在宅支援からみえたもの. 阿智村シンポジウム, 2016.3.30, 阿智村.

氏名	内容
近藤恵子	近藤恵子: 褥瘡の評価とケアの実際. メディカルケアサポートセミナーin 岐阜, 2015.7.18, 岐阜市.
	近藤恵子: 褥瘡の評価とケアの実際. メディカルサポートセミナーin 静岡, 2015.9.12, 静岡市.
	近藤恵子: ストーマケアの課題と対策. オストメイトのための健康と医療講習会, 2015.10.31, 駒ヶ根市.
酒井久美子	柄澤邦江, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 下村聡子: 孤独死ではない「在宅ひとり死」を考える集会. 日本地域看護学会第 18 回学術集会指定集会, 2015.8.1, 横浜市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子: 在宅療養者の看取りの現状. 在宅療養者の看取りを考える会, 2016.3.22, 駒ヶ根市.
清水嘉子	清水嘉子: 長野県看護部長会総会. 看護系大学の教育と臨床に期待すること, 2015.6.6, 松本市.
	清水嘉子: 女性の健康—女性ホルモンから腸内フローラへ—. 長野県看護大学公開講座, 2016.2, 駒ヶ根市.
下村聡子	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子: 在宅療養者の看取りの現状. 在宅療養者の看取りを考える会, 2016.3.22, 駒ヶ根市.
曾根千賀子	曾根千賀子: オーストラリアの施設概要. 高齢者ケア研究会, 2016.2.20, 駒ヶ根市.
喬炎	喬 炎: 温泉効用の新発見. 第 4 回県内 9 大学連続市民セミナー「健康長寿を考える」, 2016.1.12, 駒ヶ根市(県内 9 大学 生中継).
	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢: 『八仙逍遥湯』浴の難治性皮膚創に対する治癒促進効果. 伊那谷アグリイノベーション推進機構 第 11 回シンポジウム, 2016.2.4, 駒ヶ根市.
	喬 炎: 紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発. 揚州大学特別講演会, 2016.3.22, 中国 揚州市.
長南幸恵	長南幸恵 (2015): 自閉症スペクトラム障害児の感覚の特性に関する研究—フィンランド視察から—, こころの医療センター駒ヶ根病院, 院内研修会にて発表, 2015.5.15, 駒ヶ根市.
	長南幸恵 (2015): 自閉スペクトラム症児の感覚の特性について, 長野県下市田保育園職員研修会, 2015.9.1, 高森町.
中林明子	柄澤邦江, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 下村聡子: 孤独死ではない「在宅ひとり死」を考える集会. 日本地域看護学会第 18 回学術集会指定集会, 2015.8.1, 横浜市.
	森上幸恵, 伊藤みほ子, 柄澤邦江, 中林明子, 近藤恵子: 調査結果報告および褥瘡予防のためのアセスメントツール. 在宅療養者の褥瘡予防に関する研修会, 2016.2.23, 松川町.
	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 清水美穂子: 地域において緩和ケアをより切れ目なく実践するための看護職の意見交換会. 調査結果報告および意見交換, 2016.3.3, 飯田市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子: 在宅療養者の看取りの現状. 在宅療養者の看取りを考える会. 在宅療養者の看取りを考える会, 2016.3.22, 駒ヶ根市.
西垣内磨留美	西垣内磨留美: 多民族研究学会第 24 回全国大会講演司会. 黒人奴隷の着装—アメリカ独立革命期のヴァージニアを舞台として, 2015.7.25, 東京.
松本淳子	松本じゅん子: 音楽音響(知覚・認知・心理)セッション(座長). 日本音響学会 2015 年秋季研究発表会, 2015.9.17, 会津若松市.
	松本じゅん子: 音楽音響(知覚・認知・心理)セッション(座長). 日本音響学会 2016 年春季研究発表会, 2016.3.10, 横浜市.
村井ふみ	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 酒井久美子, 村井ふみ, 下村聡子: 在宅療養者の看取りの現状. 在宅療養者の看取りを考える会, 2016.3.22, 駒ヶ根市.
森野貴輝	森野貴輝, 福山敦子: イタリア(ジェノヴァ)精神医療の視察報告. 精神医療倫理科研第 1 回研究会, 2015.9.12, 駒ヶ根市.
	森野貴輝, 西川良一: イタリア(アレッツォ)精神医療の視察報告. 「精神障害を持つ人が地域で暮らすのを支える」(沖縄・イタリア報告会), 2015.10.25, 大阪市.
	森野貴輝: 精神科看護師による看護技術の 熟練形成プロセス. 精神医療倫理科研第 2 回研究会, 2016.3.22-23, 金沢市
安田貴恵子	安田貴恵子: 健康長寿社会と地域づくり—ヘルスプロモーションの視点から—. 伊那谷アグリイノベーション推進機構第 9 回シンポジウム 健康長寿社会を目指して—長寿日本一の強みを活かした地域づくり—, 2015.7.30, 飯田市.
	安田貴恵子: 地域包括ケア: 私たちの暮らしを中心にしたトータルなケアのしくみづくり. 地域包括ケアを考えるシンポジウム—ふるさとでいつまでも暮らし続けるために—, 2015.8.22, 飯山市.
	安田貴恵子: 援助対象者の Quality of Life の維持・向上をめざした専門職連携. 第 32 回長野県作業療法士学術大会分科会, 2016.3.11, 駒ヶ根市.
屋良朝彦	屋良朝彦: すこやかな老後を迎えるための哲学対話. 第 3 回県内 9 大学連続市民セミナー「健康長寿を考える」, 2015.12.8, 駒ヶ根市(県内 9 大学 生中継).
	屋良朝彦: 現代精神医療倫理の課題 : 患者が地域に住むとは?, 第 1 回精神医療倫理研究会 2015.9.12, 駒ヶ根市.

氏名	内 容
屋良朝彦	屋良朝彦: 科学技術と看護哲学 国際看護哲学会 スtockホルム報告. 第 1 回精神医療倫理研究会 2015.9.12. 駒ヶ根市.
	屋良朝彦: 応用倫理学と対話の力 ー精神医療の新しい試みー. 第 2 回精神医療倫理研究会 2016.3.22. 金沢市.
渡辺みどり	渡辺みどり: 長野県看護大学ユニフィケーション研修会. 臨床看護研究の基礎と実際, 2015.5.21, 駒ヶ根市.
	渡辺みどり, 上原章: 認知症看護の特徴と臨床指導のあり方. 長野県看護教育研究会成人・老年看護分科会, 2015.7.30, 松本市.

⑥ 出版物等(五十音順)

氏名	内 容
東修	東修 (2015): 新人のメンタルサポートに役立てる, 状況に応じたさまざまなコミュニケーション技法. 看護人材育成, 11(6), 41-44, 日経研出版, 東京.
阿部正子	阿部正子 (2015.4.8): "妊活". 週刊いな.
井村俊義	パトリシア・リンチ (2015): 看護教育と認知症(多賀谷昭との共訳). 長野県看護大学紀要, 25-33, 長野.
	阿保順子 (2015): 超高齢社会における認知症一里山コミュニティの創成をめざしてー(多賀谷昭との共訳). 長野県看護大学紀要, 42-50, 長野.
	ラモン・サルディバル (2016): 戦後日本に出現した「ボーダーランズ」と越境する想像力の起源(後半)(翻訳). 東北アメリカ文学研究(第 39 号), 87-102, 宮城.
柄澤邦江	柄澤邦江 (2015): 住民が無関心ではいられない男性一人暮らし高齢者の孤立を考える. CB(キャリアブレイン)マネジメント(地域連携), 東京.
	柄澤邦江 (2015): 専門職が孤立を察知し, 支援に結び付けるー男性一人暮らし高齢者の孤立を考える. CB(キャリアブレイン)マネジメント(地域連携), 東京.
藤原聡子	藤原聡子 (2015): あなたが生まれた場所は? 「出生の場所」の移り変わり. 週刊いな, 2015.11.19 号第 4 面, 信濃毎日新聞社, 長野.
松本淳子	松本じゅん子 (2015): 旋律学習に母語でない言語は影響するのか?: AIRS 歌唱力テストバッテリーにおける英語が母語の大学生と中国語が母語の学生の比較. Musicae Scientiae (Volume 19, Issue 3, Abstract translations), http://msx.sagepub.com/ .
宮越幸代	宮越幸代 (2015): サモアの地方病院の看護師に期待される役割. Nursing Business, 47, メディカ出版, 東京.

第3節 社会・地域貢献活動

平成 27 年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会(第 2 節⑤講演等に記載の講演を除く)、学会等に関する活動は、延べ 168 件であった(表 6)。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ 15 件であった(表 7)。

(表 6) 本学教員が行った社会・地域貢献活動(五十音順)

氏名	活 動 内 容
秋山 剛	国際学校保健コンソーシアム 事務局
	NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会 理事
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	信州公衆衛生学会 理事
	国立大学法人長崎大学 健康な地域社会をつくる学童支援プロジェクト(ケニア共和国) 短期専門家
	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
	長野県子どもを虐待から守る民間ネットワーク 構成員
	南信里親親子交流支援の会主催 映画「うまれる ずっと、いっしょ」市民上映会 開催担当者
東 修	岡谷市看護専門学校: 非常勤講師
	こころの医療センター駒ヶ根病院『事例検討会(3回)』講師
	こころの医療センター駒ヶ根『精神科急性期における看護倫理(2回)』講師

氏名	活 動 内 容
阿部正子	M-GTA 研究会 世話人
	日本看護科学学会 代議員
	伊那中央病院「新人・若手・学生の育て方」講師
	東都医療大学「科研費獲得セミナー」講師
	信州大学「理学療法分野における質的研究法」スーパーバイザー
有賀智也	高齢者ケア看護研究会 運営事務局
伊藤郁恵	長野県針灸師会フィジカルアセスメント研修会 講師分担
牛山陽介	春の高校伊那駅伝2016大会 救護班
内田雅代	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 査読委員
	日本小児がん看護学会 理事長
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本糖尿病教育・看護学会 査読委員
	日本小児保健協会 代議員
	日本小児保健協会 査読委員
	長野県小児保健研究会 役員
日本看護協会『小児がん看護専門性向上研修』研修会講師	
太田克矢	長野県公衆衛生専門学校 講師
	赤穂小学校学校評議員
岡田 実	日本精神保健看護学会 評議員
	日本精神保健看護学会誌 査読委員
	日本赤十字看護学会誌 査読委員
	第25回日本精神保健看護学会学術集会（つくば市）
	第23回日本精神科救急学会学術総会（名古屋市）
	長野県立こころの医療センター駒ヶ根, 倫理審査委員会外部審査委員
柄澤邦江	日本ルーラルナーシング学会 評議員
	日本ルーラルナーシング学会 一般演題査読員
	日本地域看護学会第18回学術集会指定集会 ファシリテーター
	長野県新人保健師研修会（全3回） 講師
	長野県看護教育研究会在宅看護論分科会研修会 講師
	長野県飯田高等学校 評議員
	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員長
	在宅療養者の褥瘡予防に関する研修会 主催メンバー
	地域において緩和ケアをより切れ目なく実践するための看護職の意見交換会 主催
	阿智村シンポジウム「在宅支援から見えたもの」 基調講演
在宅療養者の看取りを考える会 主催	
北山秋雄	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
	駒ヶ根市国民健康保健運営協議会 委員
	伊那市子育てワークショップ研修会 講師
	宮田村両親学級 講師
	信州公衆衛生学会査読委員
	長野県子どもを虐待から守る民間ネットワーク 構成員
	南信子どもの虐待防止研究会 世話人代表

氏名	活 動 内 容
北山秋雄	南信里親里子交流支援の会 顧問
	日本ルーラルナーシング学会 評議員
	日本民族衛生学会 評議員
	日本思春期学会 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会誌 査読委員
	日本在宅ケア学会 査読委員
	飯田女子短期大学 非常勤講師
小林たつ子	公益社団法人山梨県看護協会看護教育研修センター 研修会「スタッフのキャリアアップサポーター育成講座」講師
	公益財団法人山梨県看護協会峡南地区支部看護研究発表会講師
	長野県鍼灸師会上伊那地区「フィジカルアセスメントの必要性とその実践」 講師分担
	公益社団法人長野県看護協会 看護研究学会委員会委員長
	山梨県学校給食会「食中毒を予防するために」 講師
	日本看護科学学会 代議員
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会：評議員・社会保険委員
	甲信ストーマリハビリテーション講習会：実行委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会：世話人
	日本褥瘡学会：評議員 学会誌査読
	長野県褥瘡懇話会：世話人
	長野県看護協会：学会委員
酒井久美子	日本地域看護学会 第18回学術集会 指定集会 主催メンバー
	在宅療養者の看取りを考える会 主催メンバー
坂田憲昭	第5回基礎科学をもとにした Co-Medical 研究会 座長
佐々木美果	駒ヶ根市ベビーマッサージ教室講師
塩澤綾乃	JICA 草の根技術協力事業「安心・安全な出産のための母子保健改善事業」現地視察派遣
	JICA 草の根技術協力事業「安心・安全な出産のための母子保健改善事業」ネパール人看護職者本邦研修受け入れ（講義・演習）
	日本助産学会誌専任査読委員
清水嘉子	大学基準協会評価委員会評価分科会第39群（主査）
	日本看護科学学会 代議員
	長野県母子衛生学会 理事
	伊那テクノバレー 理事
	スマート看護・福祉研究会 理事
	伊那谷アグリイノベーション 理事
	伊南行政組合昭和伊南総合病院運営審議会 副委員長
	信濃毎日新聞 信毎賞審査委員
	信州コンソーシアム 副委員長
	長野県ナースセンター事業運営委員会委員長
	駒ヶ根市地方創生推進会議副委員長
	駒ヶ根市山水会会員
	日本看護系大学協議会 会員校代表
	公立大学協会 会員校代表
	日本母性看護学会 専任査読委員
日本看護科学学会学術集会抄録査読	
長野県看護大学公開講座講師	
下村聡子	在宅療養者の看取りを考える会 主催メンバー
喬 炎	日本未病システム学会 評議員
	JST（独立行政法人科学技術振興機構）審査委員

氏名	活 動 内 容
喬 炎	日本未病システム誌査読委員
	「形態と機能」誌査読委員
高橋百合子	長野県看護協会伊那支部役員
竹内幸江	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 評議員 査読委員 広報委員
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本看護学教育学会 査読委員
	千葉看護学会 査読委員
	長野県看護実習指導者講習会 講師
	長野県看護教育研究会 講師
日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師	
田中真木	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
千葉真弓	日本老年看護学会 査読員
	日本看護福祉学会 理事
	日本看護福祉学会 査読員
	長野県伊那公衆衛生専門学校 非常勤講師
	愛知県立大学大学院 非常勤講師
長南幸恵	こころの医療センター駒ヶ根, 院内職員研修会 講師
	高森町下市田保育園 職員研修会 講師
中林明子	日本地域看護学会 指定集会「孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会～どのような体制や仕組みがあれば在宅ひとり死は可能になるのか～」主催メンバー
	在宅療養者の褥瘡予防に関する研修会 主催メンバー
	地域において緩和ケアをより切れ目なく実践するための看護職の意見交換会 主催メンバー
	在宅療養者の看取りを考える会 主催メンバー
那須淳子	長野県針灸師会フィジカルアセスメント研修会 講師分担
西垣内磨留美	多民族研究学会副会長 (27年7月まで) 会長 (27年8月から)
	黒人研究の会企画委員
	アイリッシュ・アメリカン研究会副代表
	多民族研究学会第24回全国大会 講演司会
	長野県赤穂高等学校評議員
	コンソーシアム信州英語教育小部会 部会員
長野県公衆衛生専門学校非常勤講師	
西村理恵	長野県助産師会常任理事
藤原聡子	日本性科学会雑誌 査読委員
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事
	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会研究発表会幹事
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師 (心理学, 統計学)
御子柴裕子	大学間連携による地域看護学教育ファカルティデベロップメント戦略会議(平成27年度第1回) 運営担当
	上伊那保健師連絡協議会分野別研修「保健師活動に役立つリフレクション研修」 企画
宮越幸代	駒ヶ根市多文化共生のまちづくり委員
	駒ヶ根市日本語学習事業委員
	駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員
	日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 委員
特定営利法人災害人道医療支援会 2015年ネパール中部地震被災者医療支援	
村井ふみ	在宅療養者の看取りを考える会 主催メンバー

氏名	活 動 内 容
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、日本地域看護学会誌 査読委員
	日本ルーラルナース学会 理事、日本ルーラルナース学会誌 査読委員
	千葉看護学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	赤十字医療施設キャリア開発ラダー研修 飯山赤十字病院「家族支援基礎研修」講師
	医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師
	松本保健所管内保健師研修会「中堅期保健師の今後の活動のあり方について」講師
	昭和伊南総合病院看護部研修会「退院調整が求められる背景と看護職の役割」講師
	松本保健所管内保健師研修会「災害時の保健活動」講師
	長野県中堅期保健師研修グループファシリテーション（全6回）
	諏訪保健福祉事務所管内保健業務研究会講師「保健師の保健活動の指針を踏まえた活動」
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
屋良朝彦	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
	岡谷市看護専門学校 非常勤講師
	ハイデガー・フォーラム 第十回大会（司会）
	伊那谷 生と死を考える会 会員 教員免許状更新講習 講師「こどもの哲学 ー哲学的対話の理論と実践ー」
渡辺みどり	日本老年看護学会 評議員・査読委員
	日本老年看護学会災害看護検討委員会委員
	日本看護福祉学会 理事・査読委員
	日本看護科学学会 代議員
	千葉看護学会 査読委員

(表 7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏 名	病院等施設名	支 援 内 容
東 修	こころの医療センター駒ヶ根	研究課題の指導 4 題、発表会での助言
牛山陽介	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
岡田 実	こころの医療センター駒ヶ根	看護研究支援、発表会での助言等
上條こずえ	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
柄澤邦江	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
小林たつ子	山梨県看護協会峡南地区看護研究会	研究発表会での講評
近藤恵子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
酒井久美子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言
高橋百合子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
竹内幸江	岡谷市民病院	院内研究指導 12 題、発表会での助言
	県立木曾病院	院内研究指導 7 題、発表会での助言
田中真木	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言
那須淳子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言
松本淳子	伊那中央病院	院内研究指導 2 題
村井ふみ	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言

第4章 社会貢献

第1節 公開講座

平成27年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月5日(土)	巨大災害に備える -生き残り、生きのびて、次につなげるために-	三重大学大学院工学研究科 川口 淳 准教授	39名
2	2月6日(土)	女性の健康 -女性ホルモンから腸内フローラへ-	長野県看護大学 清水 嘉子 学長	109名
合計				148名

第2節 分野の活動

分野	活動内容
基礎看護学分野	<p>オープンキャンパス：フィジコ、AED その他シミュレーションの展示と体験の説明（血圧測定、マットレス耐圧体験など看護模擬演習コーナーを開設）</p> <p>国際看護：サモア国立大学から来日している留学生との交流、国際看護実習の紹介等を特設会場で実施。</p> <p>災害看護：救急蘇生や搬送にかかわる授業の様態および一部教材を提示。</p>
	<p>伊那市タカノ株式会社(福祉機器製造開発)と産学連携協定の一環として、褥瘡予防のための除圧マットレスの開発製品により、パソコンを用いて体圧を可視化し看護援助に活かすための授業と演習を2学年生を対象に行った(9月24日)。参加協力者：基礎教員全員(災害国際教員は除く)</p>
母性・助産看護学分野	<p>講座名：ベビーマッサージ 講師：佐々木美果 参加者：13名 対象：10か月未満児とその母親 実施日：平成27年1月6日(水)、1月20日(水)、2月3日(水)、2月17日(水)の4回1クール。時間は9:30~11:00</p>
	<p>JICA草の根技術協力事業「安全・安心な出産のための母子保健改善事業」本邦研修における受け入れ 参加者：4名+コーディネーター3名 日時：平成27年11月24日(火)・25日(水) 内容：(1日目)施設見学、講義「日本の戦前・前後の母子保健の特徴と取り組み」(藤原)、妊婦健診の演習の見学と実技体験(井出・塩澤)、出生直後の新生児の処置とバイタルサイン測定(塩澤)(2日目)日本における助産診断の紹介(塩澤)、産痛緩和法・フリースタイル分娩の実技演習(佐々木・塩澤・助産学生)、助産学生とのディスカッション(ネパールと日本の看護師、助産師の位置づけや教育の違い)など</p>
	<p>日時：平成27年11月3日 場所：伊那市保健センター 参加者氏名：西村理恵 廣瀬紀子 井出彩織 内容：妊婦体験、妊婦歯科健診、陣痛を乗り切るノウハウ、命を育てる食事(食事指導)、胎児心拍聴診体験等に係る参加者の誘導・案内と各ブースのサポート。</p>

分 野	活 動 内 容
小児看護学分野	<p>駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぼぼの会」の活動を支援し、学内での月 1 回の定例会を継続している。毎月の定例会では、アレルギーに関するミニ講話や専門学会における新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、安心して親同士の経験を語り合える場になるよう支援している。</p> <p>平成 27 年 12 月 5 日に、『食物アレルギーの子どもの食事について学ぼう！』をテーマに講演会を開催した。内容は (1) 「たんぼぼの会」の母親からのメッセージ、(2) 小児看護学分野で実施した調査結果の報告、(3) アレルギー専門医の講演、(4) 管理栄養士の講演 で、参加者は 70 名であった。参加者のアンケート結果からは全体に大変好評であり、特に母親からのメッセージは「わかりやすかった」、「本音を聞けてよかった」などの感想が多く、参加者にとって有意義であったことが推察された。</p>
老年看護学分野	<p>地域高齢者への水中運動（継続的な運動プログラムの提供と実施）と骨密度、身体機能測定、生活相談（個別対応による身体・精神・認知機能の測定及びデータの還元）を実施。</p> <p>高齢者ケア看護研究会においての研修会の企画と運営を行い、長野県内の施設に所属する看護師及び介護士などと共に、新たな知識の共有や具体的実践への取り組みについて検討した。</p>
精神看護学分野	<p>近隣の精神科病院を訪問のうえ、看護研究・管理者研修・事例検討会・倫理審査などの支援を行った。また、直接訪問する支援以外に Web 会議システムを用いて、大学研究室の教員と臨床現場の看護師がお互いに移動することなく直接つながり、情報共有とディスカッションが可能かどうか試験的に実施し、その実用性を検討した。</p>
地域・在宅看護学分野	<p>高齢者の「看取り」に関わる関係者（訪問看護師、ケアマネージャー、宅老所運営者など）とともに、「看取り」に関する体験を共有する会をもち、「地域における看取り」について意見交換を実施。</p> <p>飯田市健康づくり家庭訪問事業について、保健師が取り組んだ家庭訪問によって把握した内容について、市の健康づくり事業としての成果報告をまとめる助言を行った。</p>

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第 3 章「教員の研修・研究、社会活動」第 3 節に掲載しています。

第5章 学内委員会等の活動及び検証

第1節 運営委員会

1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

2 活動と成果

(1) 委員会活動

【開催日】

第1回	27年4月16日	第8回	27年9月11日	第15回	28年1月15日
第2回	27年5月8日	第9回	27年10月2日	第16回	28年1月29日
第3回	27年5月15日	第10回	27年10月16日	第17回	28年2月12日
第4回	27年6月12日	第11回	27年11月6日	第18回	28年2月26日
第5回	27年7月3日	第12回	27年11月13日	第19回	28年3月11日
第6回	27年7月17日	第13回	27年11月27日		
第7回	27年7月31日	第14回	27年12月11日		

【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

(2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

ア 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。

イ 研究科委員会の各部会の議論を踏まえ、大学院の志願者確保対策や教育方法など、大学院の在り方を含めた抜本的な改革について検討する。

(2) 将来的な課題

ア 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証し改善改革につなげていくシステムを検討する。

第2節 広報・交流委員会

1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通りです。(行事の事前準備活動の記載は省略)

期日	審議事項／活動内容	
4月14日	1. PATHWAYの修正について 2. 委員会任務の確認 3. 委員会成立要件について 4. 副委員長の確認 5. 年間計画について	6. 活動体制について 7. 公開講座日程及び講師について 8. 学報について 9. 進路説明会等について 10. 大学広報特別セミナーについて
5月18日	1. オープンキャンパスについて 2. 学報の入札結果について 3. 進路説明会等の精査と進路説明会の状況について 4. 大学院リーフレットについて	5. 外部説明会展示用のポスターについて 6. 公開講座の進捗状況について 7. 県民新聞に掲載する大学説明の原稿について
6月23日	1. 進路説明会等について 2. オープンキャンパスの運営、及び準備進捗状況について	3. 公開講座について 4. 学報について
7月14日	1. 公開講座について 2. 学報について	3. オープンキャンパス準備について
7月28日	サモア留学生歓迎会を開催しました。(IRCと共催)	
8月1日	オープンキャンパス(大学説明会)を開催しました。(内容は成果欄に記載)	
9月5日	第1回公開講座を開催しました。(内容は成果欄に記載)	
9月5日	鈴風祭における個別進路相談を実施しました。(内容は成果欄に記載)	
9月9日	1. サモア留学生歓迎会について 2. 進路説明会等について 3. 学祭内進学相談会について	4. オープンキャンパス総括 5. 第1回公開講座について 6. 学報について
11月18日	1. 大学見学について 2. 第2回公開講座について	3. 学報について
12月17日	1. 大学訪問について 2. 第2回公開講座について	3. 学報について
2月6日	第2回公開講座を開催しました。(内容は成果欄に記載)	
3月7日	1. 大学院のパンフレットについて 2. 次年度オープンキャンパスの日程について	3. 第2回公開講座について 4. PATHWAYの見直しについて 5. 進路説明会等について

(2) 成果

1) 進路説明会、模擬授業等

学外よりの依頼が近年増加し、教員の時間対効果、出張費用対効果等の検討、対応の改善が急務であったため、一定の基準を作成し、精査を行い、対応を行っている。本年度は基準の見直しを行い、それに即した学外対応を実施した。

オープンキャンパス時、及び学祭時に個別進学相談会を実施しました。相談件数は、オープンキャンパス時71件、学祭時12件だった。

2) 大学案内 PATHWAY 発行

一昨年度より、大幅に内容刷新された大学案内を発行しているが、高校生にわかりやすい大学案内を目指し、検討を続けている。

3) 学報発行

読みやすく充実した紙面の学報を2回発行し、関係各所に配布した。

4) 大学説明会（オープンキャンパス）

午前、午後を通しての開催とし、例年の内容に加え、学生トークライブ、模擬授業を盛り込み、好評を得たこれまでの内容を継続し、スケジュールを一部改正して開催した。チラシを作成し、高校等に配付した。前年度も多く参加を得たが、今年度は参加者657名と前年度よりさらに増加した。参加者アンケートからもおおむね好評を得た。

5) 公開講座開催

地域貢献の一環として、下記のとおり、公開講座を開催した。第1回、第2回ともに、参加者アンケートの結果は良好だった。

第1回

期日：平成27年9月5日（土）

タイトル：「巨大災害に備える -生き残り、生きのびて、次につなげるために-」

講師：川口淳（三重大学大学院工学研究科准教授）

参加者：39名

第2回

期日：平成28年2月6日（土）

「女性の健康 -女性ホルモンから腸内フローラへ-」

講師：清水嘉子（長野県看護大学学長）

参加者：109名

6) 学外掲示板の更新

公開講座のポスターほか、学内より掲示物を募集して更新した。

7) 県や業者による広報誌、パンフレットの内容の作成、確認を行った。

8) 大学院案内パンフレットを発行した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

上記恒例事業の企画、実施が最重要課題である。

オープンキャンパスをはじめ、委員会所掌の行事において多数の参加者が得られたが、今後も大学の広報に努め、内容を検討し、滞り無く安全に行事を開催できるよう、企画、準備していくことが必要。

進路説明会等への教員派遣については、教員の他の業務を勘案し、精査を行い対応したが、依頼件数が年々増加しているため、対応件数が減少しない。高校からの模擬授業や大学訪問の依頼については、できるだけ対応することとし、業者による説明会等は、成果を検討しつつ引き続き精査を行い、場合によっては資料参加も交え、めりはりのある効果的な対応を行うことが重要。

(2) 将来的な課題

昨年度、少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施に加え本学で高校の進路指導担当教員の意見・情報交換会等を企画するなど、大学執行部の意見が出た。今年度は実施に至らなかったが、実施事項や方法について運営委員会等で協議を行なった上で、委員会として企画実施の準備を進めることになる。

また、ネットワーク推進委員会と連携して、大学ホームページの内容を充実させることが必要。

第3節 教務委員会

1 所掌事項

- 1) カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討
ガイダンスの計画
学生便覧・シラバスに関すること
時間割の作成
非常勤講師の任用
卒業研究の要綱の検討・ガイダンス・担当教員の調整
- 2) 履修に関すること
履修登録の確認（重複・未登録等、特に再履修の科目の多い学生、復学した学生について）
必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談
編入生の履修相談
卒業判定・単位認定資料の確認作業
- 3) カリキュラムの改善に関する検討

2 活動と成果

(1) 委員会の開催と主な協議事項

第1回：平成27年4月14日（火）

- 1) 平成27年度活動計画と役割分担
- 2) 退学願いの協議（1件）
- 3) 初年次教育について
- 4) 推薦入試合格者の入学前課題について

第2回：平成27年5月15日（火）

- 1) 履修登録期間中の学年顧問への履修相談（報告）
- 2) 入学前の既修得単位の認定について
- 3) カリキュラムポリシー等の検討
- 4) 初年次教育の充実について

第3回：平成27年6月10日（水）

- 1) 平成27年度看護師等学校養成所教務主任会議報告
- 2) 入学前の既修得単位の認定について
- 3) カリキュラムポリシー等の検討
- 4) 初年次教育の充実について

第4回：平成27年7月8日（水）

- 1) 初年次教育プログラムに関するWG案の検討
- 2) カリキュラムポリシー等の運営委員会意見を受けた検討
- 3) 過年度生の実習単位認定状況について

第5回：平成27年9月9日（水）

- 1) 休学願いについて（3件）
- 2) 年度途中で卒業する学生の卒業判定について
- 3) 平成28年度非常勤講師について
- 4) カリキュラム改正に伴う授業科目の読み替えについて

第6回：平成27年10月13日（水）

- 1) 休学願いについて（1件）
- 2) 平成28年度学年歴について

- 3) 初年次教育プログラムについて
- 4) 平成 28 年度シラバス・学生便覧スケジュールについて

第 7 回：平成 26 年 11 月 11 日（水）

- 1) 平成 28 年度卒業研究について
- 2) 平成 28 年度学生便覧「教育課程の概要」「単位認定」記載内容の検討
- 3) 初年次教育のプログラムについて
- 4) 平成 27 年度入学生の学修状況について

第 8 回：平成 27 年 12 月 9 日（水）

- 1) 成績の評定結果の提出方法について
- 2) 休学願いについて（4 件）
- 3) 平成 28 年度時間割について
- 4) 初年次教育のプログラムについて
- 5) 既修得単位の認定を受ける際の手続き等に関する学生便覧の記載について

第 9 回：平成 28 年 1 月 13 日（水）

- 1) 平成 28 年度科目等履修生募集要項について
- 3) 平成 28 年度県内大学単位互換履修生募集要項について
- 4) 平成 28 年度学生便覧について
- 5) 初年次教育プログラムについて
- 6) レポートにおける既存情報の利用についての注意喚起方法について

第 10 回：平成 28 年 2 月 9 日（火）

- 1) 休学願いについて（2 件）
- 2) 卒業予定者の修得単位の認定について
- 3) 平成 28 年度非常勤講師について
- 4) 実習科目の再履修方法について（実習委員長との合同協議）
- 5) 初年次教育プログラムについて

第 11 回：平成 28 年 3 月 9 日（水）

- 1) 休学願いについて（3 件）
- 2) 平成 28 年度学務関係（時間割、非常勤講師、教務ガイダンス等）
- 3) 履修規程及び履修規程細則の改正について
- 4) 初年次教育プログラムの詳細について
- 5) 平成 27 年度活動報告と課題について

（2）成果

- 1) 教育課程の編成方針、学位授与方針について平成 26 年度末からワーキンググループを編成して検討を行った。成果として、教育課程を構成している 4 つの要素と授業科目との関連について明確にするとともに、教育課程の特徴を整理した。
- 2) 本学に入学してくる初年次学生に必要と考えられる教育内容を検討し、スタートアップセミナーとして平成 28 年度前学期から実施できる準備を整えた。ワーキンググループによる提案内容を中心に議論を重ねた。平成 28 年 3 月 18 日（金）には、実施に向けたキックオフセミナーを全教員対象に開催した。
- 3) 単位の認定方法や取得、レポート作成等に関する説明や注意事項を平成 28 年度学生便覧に追加した。1 つめに、入学前に他大学で修得した単位の認定方法を明記した。2 つめは、学生のレポート作成における既存情報の活用方法に関する注意喚起を追加した。
- 4) 教員体制が整っていない成人看護学分野の教育状況について随時情報収集を行い、状況

把握を行うとともに支援の必要性を確認した。

5) 推薦入学試験で入学する学生の事前課題について、入試検討委員長とともに検討して教授会に提案した。

3. 今後の課題

(1) 喫緊の課題

- 1) 平成 28 年度に初年次教育プログラム（スタートアップセミナー）を実施し、その評価結果を踏まえて次年度計画を検討する。
- 2) 必修科目の単位を取得できていない学生の平成 28 年度以降の履修計画について、学年顧問の教員のサポートを行う。また、基礎看護実習Ⅱの再履修と看護専門領域実習を同一年度に履修する学生の学修状況の確認を行う。加えて、看護統合実習の履修について協議を行う。
- 3) 卒業研究の開始時期を 3 年次学期末に早めたことによって、休学中の学生の意向把握が遅れることになる。そのため休学から復帰する学生を受け入れ可能な分野が限られてしまうというデメリットが生じている。この点については、休学理由に応じて対応する必要がある。

(2) 継続的な課題

- 1) 各年次における学生の学修状況の到達度を把握しながら、カリキュラムの改善に取り組む。特に、学位授与の方針（ダイプロマポリシー）を設定したのを受けて、卒業時の到達状況の把握方法の検討と実施を考え必要がある。

第 4 節 実習委員会

1 所掌事項

(1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること

- 1) 実習要項（共通部分）の作成、2) 看護専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成、3) 実習記録等に関する調整事項、4) 実習の実施に関する調整事項、5) 実習の教育評価に関する事項

(2) 実習施設との連絡調整に関すること

- 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート、2) 実習指導者会議に関すること
- 3) その他実習施設との連絡調整に関すること

(3) 実習中における安全と事故防止に関すること

- 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応、2) 事故発生時の対処方法
- 3) 災害発生時の対処方法

(4) その他実習に関すること

- 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること、2) 実習用学生ユニフォームに関すること、3) 実習期間中に使用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

2 活動と成果

(1) 委員会活動（下記の他、毎回、各実習報告および学生の情報交換等を実施）

1) 第 1 回委員会

- ①平成 26 年度実習委員会活動計画、役割分担、会議日程等の検討
- ②実習指導に関する課題の検討

2) 第 2 回委員会

- ①実習病院の環境整備：ロッカーキー及びコピー使用簿の管理
- ②国際看護実習について

- ③実習交通費の課題と対策の検討
- ④実習に関するユニフィケーションワーキンググループについて
- 3) 第3回委員会
 - ①実習施設への交通手段および交通費補助に関する検討
 - ②交通費の補助に関する今後の検討：選択科目の実習に関して
- 4) 第4回委員会
 - ①実習FD企画（案）に関するアンケートについて
 - ②実習交通費補助の見直しについて
 - ③専門領域オリエンテーションの日程、内容の確認
- 5) 第5回委員会
 - ①平成27年度後期実習ローテーションについて
 - ②平成28年度後期からの実習開始時期およびローテーションについて
- 6) 第6回委員会
 - ①ユニフィケーション事業案について
 - ②実習FDについて
 - ③インシデントの報告（3件）
- 7) 第7回委員会
 - ①実習FDについて
 - ②実習交通費補助対象施設について
- 8) 第8回委員会
 - ①実習FD企画について
 - ②ユニフィケーション研修事業について
 - ③拡大実習院階での検討すべき事項について
 - ④インシデントの報告（1件）
- 9) 第9回委員会
 - ①実習FD企画について
 - ②ユニフィケーション研修事業について
 - ③インシデント報告（2件）
- 10) 第10回委員会
 - ①ユニフィケーション研修事業について
 - ②平成28年度の実習準備について
- 11) 第11回委員会
 - ①今年度のふり返りと次年度検討課題について
 - ②拡大実習委員会（紙面）の議題と資料の確認

(2) 成果

1) 助手・助教の実習FDについて

「日頃の実習指導上で感じている困難や課題、工夫について意見交換を行い、それらを共有し今後の実習指導に活かせる建設的な考え方や方法を見出す」ことを目的に、1) 楽観的で考えが深められにくい学生への関わり、2) 学生が苦手を感じ避けがちな部分へのかかわり の2事例について、少人数で領域やキャリアの異なる集団での事例検討を実施した。アンケート（回収率96.4%）からは、参加者の多くが、少人数で自由な意見交換ができ今後の実習指導に活かせると回答し、「学生の理解や学生への関り方の参考になった」等の自由記載が多くみられた。学生の事例に関する話合いは、初めてであったが、分野をこえて話し合う

意義や、各教員の実践を通じた学びを共有できたと考えられた。

2) 看護ユニフィケーション研修会の開催

『患者の在宅療養生活の継続を支える看護実践—多職種協働の視点から考える』をテーマに、1)ユニフィケーション協定を結んでいる4施設の専門看護師・認定看護師から、臨床現場における実践に関する事例報告（講演）を聞いた後、各施設（23名）と本学からの参加者（37名）が、2)各グループに分かれて事例を基に、①他職種連携上の課題、②課題解決に向けた実践、③実習指導への活かし方、④教育への活用について話し合った。アンケートより、1)の講演、2)のグループワークともに参加者からはとても好評であり、地域の臨床現場での様々な試みがなされていることを共有でき、グループワークの時間が少なく、話さきれない部分もあったものの学生への指導に活かす方法まで、考えることができた。

3) 実習交通費の検討

昨年度からの課題であった実習交通費の運用に関して実施し、今後に向けた検討を行い、選択科目の実習に関して、原則的に自己負担とすること、国際看護実習については、未来基金からの補助を検討して頂く事を合意した。なお、恒久的な財源確保に関しては、大学として、実習費として徴収することが決定された。

4) 実習中の安全と事故防止に関する事

平成26年度のインシデントは21件であったが27年度は6件と減少した。学生への指導の充実による成果であると考えられる。しかし、6件の内容としては、アセスメント不足や学生の不注意、他者への声かけや確認不足から起こったものであり、今後も指導を徹底することが必要である。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 4年間を通じた系統的な学生支援の充実

「学生の学習課題の継続」と、「指導が困難な学生の情報共有」に関して、各分野の実習報告をさらに検討し、今後、委員会として何らかの取り組み（調査等を踏まえた体制作りや新たな企画等）を検討する。

2) 実習環境の改善

28年度は学外連携部門の一つとして、ユニフィケーションチームの創設が決定されており、実習委員会は、そのチームと協力しながら、実習施設の臨床実習指導者との話し合いを基に、①実習担当者の現代の学生の理解および、②施設を越えた担当者間の実習指導に関する情報共有、③施設側と大学関係者の関係構築等を促進し、よりよい実習環境の改善を目指していく。

3) 拡大実習委員会の開催

27年度は紙面による実習報告および検討課題を各実習担当者に配布し確認してもらったが、28年度は、課題を検討し会議を行う必要性を検討していきたい。

(2) 将来的な課題

1) 実習の評価に関する指標の検討

平成26年度後期から開始した新カリキュラムによる実習の評価に関する指標の検討が必要である。

2) 学生の学習課題に関する継続支援・実習指導に関する課題

多様な学生個々への教員の対応技術等の向上とともに4年間を通じた学生の成長を支援するための学生および教員への体系的なプログラム等の検討が必要である。

第5節 入試検討委員会

1 所掌事項

長野県看護大学入試検討委員会規程第2条(任務)による。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について調査及び審議する。

1. 大学入試に関すること
2. 入試科目及び期日の選定に関すること
3. 合否判定の基礎資料に関すること
4. 入試の追跡調査に関すること
5. 入試のあり方に関すること
6. その他入試に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成 27 年 4 月 14 日 (火)	1) 今年度の活動計画について 2) 各試験担当者の割り振りについて 3) 入学試験志願者の増加策について
2	5 月 12 日 (火)	1) 県内高等学校訪問時のインタビューガイド作成について (訪問する高校と担当者割り振り) 2) 平成 28 年度入学者選抜に関する要項の確認 3) 平成 28 年度学部入学試験関係日程について
3	5 月 27 日 (火)	1) 平成 28 年度入学者選抜に関する要項の再確認 2) 平成 28 年度学生募集要項について 3) 県内高等学校訪問について
4	6 月 10 日 (水)	1) 平成 28 年度学生募集要について 2) 県内高等学校訪問について
5	6 月 23 日 (火)	1) 平成 28 年度入試業務配置について 2) 県内高等学校訪問について
6	7 月 7 日 (火)	・ 県内高等学校訪問について
7	7 月 22 日 (火)	・ 県内高等学校訪問について
8	8 月 11 日 (火)	1) 長野県看護大学アドミッションポリシーについて 2) 平成 28 年度大学入試センター長野県地区連絡会報告 3) 県内高等学校訪問について
9	9 月 3 日 (木)	1) 平成 27 年度長野県内大学・高校連絡懇談会の開催について 2) 大学入試センター試験下伊那地区会場開設に係る課題について 3) 県内高等学校訪問について
10	10 月 14 日 (水)	1) 平成 28 年度推薦・社会人入学試験の実施組織表 について 2) 大学入試センター試験下伊那地区会場開設に係る課題について 3) 県内高等学校訪問について
11	10 月 27 日 (火)	1) 長野県立大町岳陽高校開校(推薦枠)について 2) 面接試験の共通質問項目について
12	11 月 16 日 (土)	・ 平成 28 年度推薦・社会人選抜試験結果一覧に基づく合否判定について

13	12月7日(月)	1)平成28年度大学入試センター試験 実施組織表 2)試験室別受験者数等一覧表について 3)第1回(12/22)と第2回(2015/1/12)センター試験説明会について 4)平成28年度大学入試センター試験の問題冊子等の搬入および仕分け作業について
14	平成28年 2月9日(月)	1)平成29年度学部入学試験関係日程(案)について 2)平成28年度一般試験前期日程試験および後期日程試験の組織表について 3)長野県看護大学アドミッションポリシーについて
15	2月26日(金)	・長野県看護大学アドミッションポリシーについて
16	2月29日(月)	1)平成28年度一般試験(前期日程)の合否判定について 2)一般試験(後期日程試験)における実施組織表について
17	3月14日(月)	・平成28年度一般入学試験(後期日程)の合格判定について

(2) 成果

1. 特別選抜(推薦入学)の推薦を受ける者に対して、大学入試センター試験において本学「前期日程」選抜の試験科目を受験することを課した。ただし、当該成績は一切合否に関係しない。
2. 平成27年度一般選抜(前期日程)の志願者数受験者数ともに過去最低(ともに1.7倍)であったことから、独自に本学の特徴をまとめた資料作り、特別選抜の「地域枠」創設や長野市等における入試会場の新設等に関する調査表作成等周到に準備して、開学以来志願者数の多い県内高校上位25校を選抜して高校訪問を実施した。その成果か否か今後分析する必要があるが、平成28年度一般選抜(前期日程)の志願者数受験者数ともに過去10年間で最高(4.0倍と3.8倍)を記録した。
3. 大学入試センター試験は、事前説明会を12月22日(火)と翌年1月12日(火)の計2回実施し、当日滞りなく終了した。
4. 小論文試験採点における「素点方式」及び面接試験における「共通質問項目」採用方式が定着してきた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

1. 平成27年度一般選抜(前期日程)志願者数が激減したが、平成28年度は、県内高校訪問等によって過去10年間で最高(4.0倍と3.8倍)を記録した。しかし、長期的トレンドとして志願者数が低迷していることから、来年度以降も県内高校訪問等、積極的・包括的対策を実施する必要がある。
2. 編入学試験「募集停止」から「募集廃止」を視野に入れた各選抜試験定員枠(特別枠等)の検討が急務となっている。

(2) 将来的な課題

1. 面接試験の配点化
2. 試験結果の開示範囲の検討
3. 推薦入学生の質確保対策(当該高校/教育委員会への依頼、アウトリーチ)
4. 各選抜試験別追跡調査
5. 推薦入学試験の出願資格における調査書の「全体の評定平均値4.0以上」の見直し
(どのような学生を受け入れるかの全学的検討)

第6節 図書委員会

1 所掌事項

- ① 図書の整備及び購入計画に関すること
- ② 図書館の運営に関すること
- ③ 学内情報処理に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回：平成27年4月23日（火）
 - ① 委員会における人事について
 - ② 図書館所蔵図書購入に関する図書委員会での選書について
 - ③ 平成26年度の図書館活動報告
- 2) 第2回：平成27年5月29日（金）
 - ① 図書館経費削減状況の報告
 - ② 平成28年度図書購読洋雑誌の見直し案について
 - ③ 図書館所蔵書籍等の購入に係る選定方針について
 - ④ 購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
- 3) 第3回：平成27年7月13日（月）
 - ① 平成28年度図書購読洋雑誌の見直しについて（報告）
 - ② 図書館資料の除籍に関する意見聴取について
 - ③ 購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
- 4) 第4回：平成27年10月1日（木）
 - ① 購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
 - ② 図書館資料の除籍について
 - ③ 電子書籍の購入について
- 5) 第5回：平成27年10月29日（木）
 - ① 購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
 - ② 図書館資料の除籍について
 - ③ 電子書籍の購入について
- 6) 第6回：平成27年11月26日（木）
 - ① 購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
 - ② 図書館資料の除籍について
 - ③ 電子書籍の購入について
- 7) 第7回：平成27年12月18日（木）
 - ① 平成28年度図書館購読和雑誌の見直しについて
 - ② 図書館資料の除籍について
 - ③ 平成28年度電子ジャーナルの選定について
- 8) 第8回：平成28年1月25日（木）
 - ① 平成27年度の図書館和雑誌の見直しについて（報告）
 - ② 平成28年度図書館開館計画の策定について
- 9) 第9回：平成28年2月19日（金）
 - ① 平成28年度購入予定図書及び視聴覚資料等の選定
 - ② 平成28年度メディカルオンラインの契約について
 - ③ 平成28年度医中誌 WEB・最新看護索引 WEB・CiNii の契約について

(2) 成果

- 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営
- 2) 購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行
- 3) 図書館購入予定書籍及び資料の選定

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

図書館の運営にかかる年間予算は、その他の本学予算と同様に、年々減額され続けている。こうした状況下にあっては、限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能を如何に維持していくかが喫緊の課題となる。今年度も購読和洋雑誌タイトルの更なる削減を実施し、それに加えて書籍の購入にあたっては図書委員会での精選を定期的に行って支出の抑制に努めた。雑誌及び書籍について、これ以上の見直しを行うのはそう簡単でないように思える。今後は、現在利用しているデータベースの取捨選択についても検討すべきかもしれない。何れにしても、電子ジャーナルのより有効な活用等も含めて、具体的な見直しを提供サービスの全般について行うことが必要と考える。

(2) 将来的な課題

昨年度、本委員会では「本学付属図書館業務の民間への委託についての報告書」を取りまとめ県に提出した。それに関しての進捗状況あるいは結論等について、これまでのところ正式な報告を受けてはいない。委託が決定された場合はその導入に際して、大学側の図書館運営に係るシステムを再構築することが必須となる。具体的には委託先との連携の調整や、業務の遂行に係る管理・連絡体制等の整備が不可欠であろう。

これとは別に、「喫緊の課題」の項においても述べたように、図書館経費の削減は今後においてもおそらくは避けがたいものと思われる。このことを前提とし、現在の充実した図書館機能の維持と更なるサービスの導入を図るための方策を、今後具体的に立案していくことが求められる。

第7節 紀要委員会

1 所掌事項

- ①紀要に関する事項について調査及び審議すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回：平成27年4月23日（木）
- 2) 第2回：平成27年5月29日（金）
- 3) 第3回：平成27年10月1日（木）
- 4) 第4回：平成27年10月29日（木）
- 5) 第5回：平成27年11月26日（木）
- 6) 第6回：平成27年12月18日（木）
- 7) 第7回：平成28年1月25日（月）
- 8) 第8回：平成28年2月19日（金）
- 9) 第9回：平成28年3月8日（火）
- 10) 第10回：平成28年3月25日（金）

以上の日程で次の事項を実施した

- ①紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの見直し

- ②平成26年度紀要原稿の募集日程の決定
- ③平成26年度紀要編集・発行日程の調整
- ④紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑤紀要原稿の査読結果の取り纏めと編集作業
- ⑥紀要の発刊作業

(2) 成果

- 1) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの見直し
- 2) 長野県看護大学紀要の発刊

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 過年度の紀要委員会でも指摘されていたが、紀要の位置づけについて再考する必要がある。本学においては、紀要原稿の査読候補者となる教員の数やその専門分野に限りがあある。投稿原稿の内容について、それぞれに相応しい研究分野の査読者を決めていくが、それらが必ずしも符合するとは限らない。このことは査読結果における適正な評価や公平性に影響をおよぼす可能性もある。査読結果の妥当性を担保しつつ、投稿原稿の数と質を確保していくためには、これまでの査読システムの見直しも含めて、紀要の位置づけ自体を考えていく必要があるかも知れない。
- 2) 大学の運営経費については、このところマイナスシーリングが実施されている。紀要の発刊に係る経費の削減についても、発行部数の見直しやリポジトリなどを利用した電子ジャーナルへの移行等の具体的な方策を探っていく必要があると考える。

(2) 将来的な課題

- 1) 「喫緊の課題（懸案事項）」の項で述べたような紀要の位置づけについて考えるとき、紀要を学会誌とすることも方策の一つと考える。そうすることで、学外への投稿原稿の募集や査読の依頼が可能となるであろうし、投稿論文数をいま以上に確保することもできると思われる。また、年間を通しての投稿の受付や、年度複数回の発刊も可能となるかもしれない。しかし、学会の母体とその運営について考えたときに、現時点で直にこれを実施することは簡単ではない。将来的には、こうした方策も考慮に入れた議論も必要ではなかろうか。

第8節 学生委員会

1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーション合宿に関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理、健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舍及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の構成に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催日	活動内容 (○報告 ●協議)
第1回 4月14日	○平成26年度キャリア支援活動報告○卒業生の進路報告○国家試験の結果報告○平成27年度オリエンテーション合宿報告 ●平成27年度国家試験結果の対策●平成27年度キャリアガイダンス実施計画●平成27年度学生委員会活動の役割分担
第2回 5月12日	○看護師国家試験対策ガイダンスⅠの報告○平成27年度卒業予定者の進路情報○平成27年度新入生オリエンテーション合宿アンケート結果○学生相談(水回り点検に名を借りた詐欺行為の発生と被害状況について) ●国試模擬試験実施日程(案)●キャリアガイダンスⅡの企画概要とアンケート(案)について
第3回 6月16日	○キャリアガイダンスⅠ○進路面談○キャリアガイダンスⅡのプログラム案○鈴風祭○サークル活動 ●1・4年次向け南信労政事務所主催「ワーキングセミナー」の開催●県内市町村保健師採用合同説明会の実施(案)●平成26年度国試合格状況を踏まえた平成27年度対策●平成28年度新入生オリエンテーション合宿の学内実施について
第4回 7月14日	○キャリアガイダンスⅡ○ワーキングセミナー○日本学生支援機構の新規奨学生○就職内定者 ●学生生活規程の改正(届出様式)●市町村保健師採用合同説明会実施計画●鈴風祭のテーマと日程
第5回 9月15日	○卒業予定者内定状況○今年度の国試日程○平成27年度市町村保健師採用合同説明会のアンケート結果○平成27年度キャリアガイダンスⅡのアンケート結果○平成27年度「卒業生集まれ!」アンケート結果○キャリアガイダンスⅢの日程○平成28年度新入生オリエンテーション合宿に関する学生自治会への申し入れ ●キャリアガイダンスⅡの参加率を上げる方策●後学期の学生委員会開催スケジュール
第6回 10月20日	○卒業予定者進路状況○国試公開模試結果(看護師1回目)○国試対策ガイダンスⅡ及び国試出願手続き説明会○ワーキングセミナー(卒業予定者対象)の実施 ●国試特別補講開講希望アンケート●キャリアガイダンスⅢ-①
第7回 11月24日	○卒業予定者の進路状況○国試公開模試2回目(看護師2回目,保健師1回目)の実施結果○国家試験特別補講○国試ガイダンスⅡ○ワーキングセミナー ●キャリアガイダンスⅢ-②(案)●平成28年度学生便覧の改訂(案)●学生相談
第8回 12月17日	○卒業予定者進路状況○国試公開模試結果 ●キャリアガイダンスⅢ-②の講師陣●国試特別補講のスケジュール(案)●平成28年度新入生オリエンテーションのスケジュール(案)
第9回 1月19日	○卒業予定者進路状況○国試公開模試結果(看護師3回目,保健師2回目)○キャリアガイダンスⅢ-①②の実施及びⅢ-③の実施延期

	●国試受験説明会（案）●平成 28 年新入生オリエンテーション合宿の役割分担と課題
第 10 回 2 月 12 日	○キャリアガイダンスⅢ-③○国家試験公開模試の結果 ●国家試験合格発表時の対応●公務員対策講座●平成 28 年度学生定期健康診断への協力依頼●平成 27 年度新生オリエンテーション（各セッション説明）
第 11 回 3 月 15 日	○平成 26 年度卒業生・修了生進路内定状況 ●国試合格発表時の対応確認●平成 2：8 年度キャリアガイダンス（案）●平成 28 年度国家試験ガイダンス（案）●平成 28 年度新生オリエンテーションの協議●学生生活しおり作成（案）●ハラスメント相談員の任命（案）●平成 28 年度教務ガイダンスの担当（案）

(2) 定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成 26 年 4 月 5・6 日 各学年に対して学生生活ガイダンス 青少年生活設計講座（1・2・3・4 年生） 年金制度説明会（1・2・3・4 年生） 防犯講習会（1・2・3・4 年生）
新生オリエンテーション合宿	平成 26 年 4 月 8, 9 日（於：辰野パークホテル） 参加者数：新生 85 名，教職員延 41 名（宿泊 12 名）
就職・キャリア支援関係	第 6 章第 2 節参照
国家試験特別補講	・看護師：1 月 22 日（金；13：00～16：40） 成人：牛山先生，伊藤先生，浦野先生 病態：喬先生 1 月 28 日（木；9：30～17：20） 薬理学：坂田先生，小児：高橋先生，精神：東先生 計算問題対策：太田先生 ・保健師：1 月 27 日（水；10：40～17：50） 原先生，御子柴先生，北山先生，秋山先生 ・助産師：1 月 13 日（水；9：00～12：10） 阿部先生，西村先生
次年度新生オリエンテーション企画運営協力者合同会議	平成 27 年 3 月 18 日（金）：13：15～14：00
看護師保健師助産師国家試験会議	平成 27 年 3 月 25 日（金）：15：30～

(3) 成果

- ・各学年に学生生活ガイダンスを学年顧問と協力して実施できた。
- ・新生オリエンテーション合宿を事故もなく滞りなく実施でき，新生どうし，あるいは新生と教職員の交流を図り，学生生活への移行を支援することができた。
- ・キャリアガイダンスⅠ・Ⅲ・Ⅳは計画通り実施することができた。
- ・キャリアガイダンスⅡを 2 年次に特化した企画（看護師・保健師・助産師として活躍中の本学卒業生 3 名をシンポジストに招く）を実施した。
- ・アルバイトに関連したブラックな雇用主と雇用環境の実態調査に基づき，教職員や労政事務所の電話相談窓口を紹介したポスターを貼付した結果，一部の学生に雇用主と調整できた

事例が見られた。

- ・平成 27 年度 4 月採用「保健師採用試験アンケート（自治体行政保健師の公募と応募状況の調査）」結果から“公募しても応募者がいない深刻な実態”が明らかとなったことを受け、今年度の鈴風祭初日の午後、7 市町村（飯島町、大滝村、岡谷市、木島平村、天龍村、南木曾町、箕輪町）から担当者の参加を得、「第 1 回市町村保健師採用合同説明会」を開催した。その結果、各 7 つのブースで学生延 56 名が説明を受けた。

- ・平成 26 年度看護師国家試験の合格率が全国平均を下回った事態を真摯に受け止め、平成 27 年度卒業予定者がモチベーションを高く持ち、国試受験対策に早期に向き合えるようないくつかの方策を積極的に実施した結果、合格率が看護師 98.8%、保健師 96.3%、助産師 100% を達成することができた。受験生に自己採点結果の提出を求め、各模擬試験の結果を早期に分析し、その結果を受験生にフィードバックすることが受験勉強のモチベーションを高める効果に繋がった。

- ・卒業生・修了生キャリア形成支援部門と連携し、卒業生の職場での新人研修体制の実態をアンケート調査によって明らかにできた。

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

- ・キャリアガイダンスⅡのシンポジストの発表内容が、対象学年に貴重かつ意義深い内容であったにもかかわらず出席率が低かったため、今後、いくつかのインセンティブを組み合わせながら出席率を上げる工夫が必要である。

- ・安易な口コミによるアルバイトなどによるブラックアルバイトに警告するように呼びかける試みを継続する必要がある。また、不本意な雇用実態がある場合は最寄りの教職員や専門相談機関にアクセスできる案内が必要である。

- ・今年度実施した「市町村保健師採用合同説明会」を継続して開催する必要がある。

- ・新入生オリエンテーション合宿の企画・運営を担当する教職員の負担が重いことに配慮し、新たな企画・運営の方策を工夫し、在学生の協力を得ながら、教職員と在学生がこぞって新入生を歓迎する機会としていく必要がある。

- ・卒業生・修了生キャリア形成支援部門と連携を図り、卒業生の職場適応の状況や新人研修体制の実態を把握することができたが、これを継続する必要がある。

- ・平成 27 年度国家試験の合格率を維持しながら、100%合格を目指して各種の工夫を継続する必要がある。

（2）将来的な課題

- ・新入生オリエンテーションの企画・運営の在り方を、教職員と在学生の協働による学内実施を企画し実施すること。

- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村に、保健師確保支援の場を継続して提供していくこと。

- ・卒業生が国家試験に 100%合格できるように、引き続き各種の支援策を工夫していくこと。

第9節 ネットワーク推進委員会

1 所掌事項

(1) 流通に関すること

- ア コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- イ ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ウ ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- エ ネットワークのセキュリティ対策
- オ ネットワーク関連機器の監視
- カ ネットワークに関するクレーム対応
- キ アウトソーシング業者の窓口
- ク メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ケ メールアドレス管理

(2) 公開に関係すること

- ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務
- イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

(3) IT 啓発に関係すること

- ア 学内教職員（学生）向けの啓発活動

(4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

(1) 委員会の開催7回と下記の関する活動を行った

- ・ Google Apps の管理
- ・ サイボウズの管理
- ・ SSLVPN の管理
- ・ 人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの構築
- ・ Firewall の機器更新
- ・ バーチャルサーバー（インフォバレーと GMO の2台）の管理
- ・ ドメインの管理（nagano-nurs.ac.jp および.com）
- ・ 大学ホームページの管理
- ・ ホームページを利用した広報活動
- ・ DHCP サーバー（L2、L3）等の機器の管理
- ・ 新任教職員への G メール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・ 新入生等への Gメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・ 領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信方法ガイダンス
- ・ 大会義室と図書館の無線 LAN の管理
- ・ 大学院生室1から4の無線 LAN の管理
- ・ 大学院生室1から4のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・ 上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

- 多くの活動等で、現状のレベルを維持または向上させ、IT インフラや広報的な点からも学内外へ貢献することができた（HP、Eメール、ESET、サイボウズ、SSLVPN、SPSS ライセンス、ドメイン管理等）。これらのインソースによる作業は、アウトソーシングした場合に比べ相当額の経費節減にも寄与したと考えられた。

これらの項目の中でも下記は特筆すべき成果であった。

- ・ サイボウズサーバーの移転

- ・従来の受信方法からの変更による、学生所有のスマホでの大学メール受信率の飛躍的な向上と安定性の確保（年間費用0円）
- ・一定レベルのスキルとキャパシティーを持つ委員の配置による委員会内役割配分や作業の正常化への前進があったこと

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 関連事項に一定の知識や経験を持った教職員でないと、活動内容の難易度・人的コスト・問題点の優先度などが理解しにくい状態が続いている。この為、委員会外部から活動の一部であるHPの表示状態や内容など、外部から目につきやすい部分にのみ改善の意見が集中する傾向がある。根幹のネットワークのインフラやシステムに関する知識の習得と適正な改善に、人的コストや金銭的成本を投じる必要がある。また、知識の習得に要する外部サポートの費用も、県への予算として要求が難しいとのことなので、自力での非効率な習得状況が発生していることも否めない。
- 2) 講師以上の人員が3名となっており、委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する人員に過剰な負担がかかる仕組みとなっている。
- 3) ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。このような管理が事務局で実際に実施されればより多くの学内教員が本推進委員会へ配置（担当）可能と考えられる。その一方、ホームページの管理には、継続した知識や専門的な知識を要する。短期間の異動の多い事務職員では難しい。またアウトソーシングとした場合も相当の費用を要する。

(2) 将来的な課題

委員会活動を行えるスキルを持っている教職員が依然として少なく、これらの教職員が離職した場合、各種システムが管理できなくなり、崩壊する可能性がある。また、必要なスキルを身につけるのに一定の時間がかかる為、現状の委員会の任期2年制とのギャップがあり、正常な委員会活動の維持そのものが危ぶまれる。

第10節 FD委員会活動報告書

1 所掌事項

教員の教育能力開発に関すること
 研究能力の開発に関すること
 カリキュラム開発への協力に関すること
 授業改善に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

第1回／平成27年4月21日（火）：

- 新任教職員オリエンテーションの振り返り
- 今年度の活動計画と担当、平成26年の委員会活動報告書の検討

第2回／平成27年6月30日（木）：

- 第1回研修会（コンソ委員会との共催）準備、役割分担
- 第2回研修会（科研費申請）準備
- 次年度新入職員オリエンテーションについて

第3回／平成27年9月3日（木）：

- 第1回研修会のアンケート集計報告
 - 第2回研修会準備、日程調整
 - 平成27年度看護大学研究集会の準備
- 第4回／平成27年11月10日(火)：
- 平成27年度看護大学研究集会の企画・運営について
- 第5回／平成27年12月15日(火)：
- 第2回研修会のアンケート集計報告
 - 平成27年度看護大学研究集会の企画・運営について(継続)
- 第6回／平成28年1月27日(木)：
- 平成27年度看護大学研究集会の企画・運営について(継続)
- 第7回／平成28年2月15日(月)：
- 平成27年度看護大学研究集会の企画・運営について(継続)
 - 平成28年度新任教職員オリエンテーション内容検討
 - 次年度委員会の委員の確認、引き継ぎについて
- 第8回／平成28年3月7日(月)：
- 平成27年度看護大学研究集会の企画・運営について(継続)
 - 平成28年度新任教職員オリエンテーション内容検討(継続)
- 第9回／平成28年3月30日(木)：
- 看護大学研究集会振り返り
 - 新任教職員オリエンテーションの準備
 - 平成27年度委員会活動内容の確認

(2) 成果

①FD 研修会開催

以下の通り計2回の研修会を開催し、教職員の教育・研究の基盤となる情報の提供、課題提供を行い、教職員の教育・研究能力の向上に寄与したと考える。

*第1回研修会：平成27年8月20日(木)

「長野県大学連携シンポジウム スキルとしての『学び方』 学校、大学、職場から」
(高等教育コンソーシアム信州運営委員会との共催)

*第2回研修会：平成26年9月24日(水)

「科学研究費助成事業応募について」

講師：有賀智也助教・渡辺みどり教授・総務課白上課長補佐

参加者：37名

②平成26年度 長野県看護大学研究集会開催

長野県看護大学特別研究、県内看護職との共同研究、および長野県看護大学看護実践国際研究センターの各部門・各プロジェクトから30演題が発表された。一昨年度からの取り組みとして県内諸施設参加を募り、10題の看護研究、さらに昨年度からの取り組みとしてスマート看護・介護福祉研究会から1題、伊那谷アグリイノベーションから2題が発表された。参加者は学内教員 53名で、学外者28名で、本学学生4名の合計85名であり、本学教職員・学生、県内看護職等の参加者にとっての交流と学習機会の提供となり、研究能力の向上に寄与できたと考える。

③平成27年度新任教職員オリエンテーション

新任教職員を対象に、本学の理念、カリキュラム、システム、事務手続き等について各担当部署より説明を実施した。教育・研究活動、大学運営に関する活動について必須の情報を提供し、新任教職員の活動に役立てられたと考える。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

学生による授業評価に対する教員からのフィードバックが平成26年度から評価小委員会の下で開始している。授業評価の結果を踏まえ、教員の教育能力向上のためのFD活動を充実させることが必要である

(2) 将来的な課題

長野県看護大学研究集会の学会への移行のため、本年度も県内看護職への発表機会の提供、他関連機構の参加について、さらに充実を図っていく必要がある。

第11節 評価委員会

1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価」という。）に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

- ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- イ 第三者評価への対応に関する事項
- ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- オ その他本学の大学評価に関する事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

ア 自己点検・評価報告書の作成

平成26年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。

イ 前回認証評価における努力課題について

平成23年度認証評価における努力課題についての検討を行った。

ウ 学生による授業評価の実施

平成26年度から設置した「授業評価小委員会（メンバー：学部長、研究科長、FD委員長、事務局長、教務・学生課長）」を開催し、学生による授業評価に対する質問項目や教員のコメント等について議論した。

評価委員会及び授業評価小委員会の開催状況

開催日	委員会	審議事項
5月7日	小委員会	・H26 前学期分の閲覧状況について ・H26 後学期分の評価結果、教員コメントについて ・H27 前学期分の質問項目等について
7月7日	評価委員会	・平成23年度認証評価における努力課題の改善報告書について
10月15日	小委員会	・H26 後学期分の閲覧状況について ・H27 前学期分の評価結果、教員コメントについて ・H27 後学期分の実施について
11月25日	評価委員会	・自己点検・評価報告書（平成26年度分）について ・次年度に向けた変更点について
3月29日	小委員会	・H27 前学期分の閲覧状況について ・H27 後学期分の評価結果、教員コメントについて ・H28 後学期分の実施について

(2) 成果

- ① 平成 23 年度認証評価における努力課題について、改善報告書を作成し、7 月 22 日に認証評価機関である公益財団法人大学基準協会に提出した。
- ② 平成 26 年度活動の自己点検・評価報告書を作成にあたり、分野の活動や学年顧問の活動等についても新たに記載した。
- ③ 平成 26 年度から設置した授業評価小委員会において、今後の教育活動の参考にするため、学生による授業評価項目に自己学習時間の質問項目を新たに設けた。また、評価結果等の閲覧について、期限を定めずに閲覧に供することとした。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

内部質保証・質向上のため、各委員会等に助言・提案等を行う等、評価委員会の更なる機能強化を図る必要がある。

(2) 将来的な課題

引き続き長野県看護大学評価規程第 12 条に定められている「自己点検・評価」を計画的に実施し、その結果を改善につなげる。

第 12 節 倫理委員会

1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 毎月第 4 火曜日に定例審査及び、不正防止規程の作成や倫理審査申請書の改訂の検討などの会議を、計 11 回開催した。
- 2) 再提出 4 件(1 件は再申請があったが 3 件はなかった)を含む計 31 件の研究計画について、定例会議において審査を行った。
- 3) 条件つき承認となった 27 件は修正された研究計画の再提出があり、随時審査を行ない承認となった。
- 4) 研究報告書の検討を行った。
「倫理委員会規定」第 12 条に報告義務がうたわれており、別紙様式 3 が添付されているが徹底されなかった。文科省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」第 2 章第 5 (研究責任者の責務) 2(7)にもその義務がうたわれていることから、「研究実施後の報告書」および新しく「研究期間延長届」を作成し、教員および大学院生に研究報告書提出義務の徹底をはかった。
- 5) 研修会のビデオを閲覧に供し、研修に代えた。
- 6) 倫理教育の研修会実施 (3 月 16 日)
愛知淑徳大学教授 山崎茂明先生から「公正な研究発表をめざして」と題して倫理教育の研修会を開催した。
- 7) CITI (Collaborative Institution Training Initiative) Japan プロジェクト 第 2 回研究倫理教育・関係者連絡会議～ボトムアップの研究倫理教育のあり方について考える～の会議に出席 (3 月 3 日) した。

(2) 成果

- 1) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。平成 27 年度の定例審査に申請された案件の審査結果の集計を下記の表に示す。
- 2) 研究報告書提出の徹底をはかり、大学ホームページ上に「研究実施後の報告書」および新しく「研究期間延長届」を掲載し公開した。26 年度は倫理申請 28 題に対し 13 題、27 年度は 1 題の完了報告があった。
- 3) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」に則り、審査を効果的に行うため、研究計画書(資料 1)の委員会指定様式を改訂し、1 年間実施してきたが特に問題はなく、スムーズに移行できている。
- 4) 全教員に Green book(日本学術振興会編集委員会編：科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一)の通読と履修報告の提出を求め、全員から 12 月末日までに提出があった。
- 5) CITI Japan プロジェクト 第 2 回研究倫理教育・関係者連絡会議に出席した。
その内容は「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が H27 年 4 月から適用を開始しており、責任ある研究活動を行うために一人一人の研究者とそれらを支える研究機関の取り組みによる影響は大きい。そのためにも「研究倫理教育者 (RIO)」の役割と取り組みを進める必要があるため、本会議が 2 回目の開催であった。今後、科研費の申請時に①「科学の健全な発展のために (日本学術振興会編集委員会編)」の通読、② CITIJapan e-Learning プログラムの履修、③研究機関(ex 東北大、早稲田大・・・)が実施する研究倫理教育の履修、のいずれかについて誓約が求められるようになるのではないかとのことであった。無料試行期間に委員が試行し今後の研究倫理の学修環境整備について検討していく必要がある。
- 6) 倫理教育の研修会を開催 (3 月 16 日) した。
全教員および大学院生を対象に行い、67 名中 53 名の参加があった。「役立つ研修会であった」(94%) の回答であった。

表 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	備考
			承認	未確定	取り下げ		
4	2	1	1			1	活動方針の審議
5	4	4	4				
6	2	1	1			1	
7	7	7	7				
8	2	2	2				グリーンブック全教職員購入し履修報告書の提出義務の連絡
9	4	4	4				倫理教育研修会講師、日時等検討
10	2	2	2				
11	0						
12	1	1	1				グリーンブック履修報告書の提出
1	3	3	3				研究報告書の検討
2	3	1	1			2	
3	1	1	1				倫理教育の研修会実施
合計	31	27	27	0	0	4	(1 件再申請あり 3 件なし)

3 今後の課題

1) 喫緊の課題(懸案事項)

(1) 研究倫理教育環境の整備について

- (a) 倫理教育側の CITIJapan e-Learning プログラムの試行期間中の履修を検討する。
- (b) 研究倫理申請時に、CITIJapan e-Learning プログラム、あるいは Green book(日本学術振興会編集委員会編：科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー)の e-Learning プログラム (H28.4 刊行予定) の活用を検討する必要がある。

(2) 倫理教育研修のあり方について、倫理申請時に必要な倫理研修を定期的なものとするか、また新採用者対象の研修などをどのようにしたらよいか、研修の効力の期限はどのくらいにしたらよいかについて検討が必要である。

2) 将来的な課題

- (1) オーサーシップにおいて、共同研究者の役割明記のチェック方法を検討する必要がある。
- (2) 研究倫理教育の啓発が必要である。
 - (a) 教職員及び大学院生を対象に、研修会をどのように開催していくか。
 - (b) 学部生の倫理教育について、教務委員会と連携するなどの検討が必要である。

第13節 ハラスメント防止委員会

1 所掌事項

- ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- ハラスメントの相談に関すること
- ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- その他ハラスメントの防止等に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回ハラスメント防止委員会：平成27年4月23日(木)
 - ① 3月のハラ防研修会の振り返りについて
 - ② 大学への委員会活動報告について
 - ③ ハラスメント防止促進月間の活動について(時期、リーフレット挿絵の募集)
 - ④ 懇親会について(時期と場所について)
- 2) 平成27年度 第1回 相談員とハラスメント防止委員会の連絡会議
 - ① 2014年4月1日～2015年3月31日までの相談の受付件数について
 - ② 相談員マニュアルの改訂内容の説明とこれへの意見聴取
- 3) 第2回ハラスメント防止委員会：平成27年5月28日(木)
 - ① 懇親会について(全学への周知方法)
 - ② 研修会について(講師、時期、内容)
 - ③ ハラスメント防止促進月間の活動について(リーフレット挿絵の募集方法)
 - ④ 相談員マニュアル関係書類について
- 4) 第3回ハラスメント防止委員会：平成27年7月3日(水)
 - ① 相談員マニュアル関係書類について
 - ② 研修会について(周知方法)
 - ③ ハラスメント防止促進月間の活動について(応募されたリーフレット用挿絵の選定・表彰方法)
- 5) 第4回ハラスメント防止委員会：平成27年11月10日(火)
 - ① 「通知」による解決の案件(2015-1)申請について(案件の報告、通知文書、実施報告文書)
 - ② 懇親会について(役割分担)

- ③ 来年度の研修会について（内容と外部からの招く為の費用）
 - ④ ハラスメントのリーフレット更新について
- 6) 第5回ハラスメント防止委員会：平成28年1月7日（木）
- ① 懇親会実施の報告
 - ② リーフレットの改修について
 - ③ 平成28年度ハラスメント相談員の決定依頼について
 - ④ 大学への委員会活動報告について

(2) 成果

1) 新規採用者及び学生へのガイダンス

平成27年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。

2) コミュニケーション促進月間の実施

ハラスメントの防止を目的として、学生及び教職員間のコミュニケーションを促進させるため、「7月をコミュニケーション促進月間」と定め次の活動を行った。

- ・教職員や学生からリーフレットに使用するイラストを募集し、コミュニケーションの促進を呼びかけた。

3) ハラスメント防止研修会の実施

教職員への研修会を健康センターと合同で平成27年9月10日に実施した。本学精神看護学分野の東講師（前健康センター長）が「健康センターの活動報告」と題した講演を行った。37名の参加があり、講演後のアンケートでは概ね肯定的な評価が多数であった。学生・教職員のハラスメントまたは精神的な事項に関し、健康センターの意義とその役割・重要性について受講生の理解が促進できた。ただ、かなり早い時期から周知していたものの、教授や事務局職員の参加がやや少なく、開催時期の他に、研修会に参加しようとする意識のありかた自体について今後検討を要するものと考えられた。

4) 相談員マニュアル・相談員受付簿の改定

長野県看護大学ハラスメント対策ガイドラインに合致するように相談員マニュアルや受付簿の改定を行った。

5) 懇親会の実施

教員のみでなく職員の方も含めて忘年会を実施し、よりいっそうの親睦を図った。この催しには38名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

6) ハラスメント事案の対応

「通知」による問題解決1件に対応した（調整、調停および調査は各0件）。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要がある。

ハラスメント防止に関し、教員、職員および学生の意識を更に高めていく必要がある。重大な事案は起こっていないものの、研修会への出席率（特に職階が上位の者）や本学に構築されている解決方法についての周知の促進などが考えられる。

(2) 将来的な課題

ハラスメント防止の効果が、よりいっそう高い活動を樹立する。また、ここ数年、ハラスメント相談員への相談件数が皆無またはこれに近い状態が続いている。この原因が、学内の人間関係がよい状態なのか、相談員への相談がしにくい状態なのかなどを見極めていくシステムの構築や検証が求められる。この際、総合的な組織づくりの構築も必要と思われる。

第14節 動物実験委員会

1 所掌事項

- (1) 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- (2) 動物実験の実施状況及び結果に関すること
- (3) 施設等及び動物実験の飼養保管状況に関すること
- (4) 自己点検・評価に関すること
- (5) 動物実験の適正な実施のための必要事項に関すること
- (6) その他、学長の諮問に関すること
- (7) 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者を対象として教育訓練のための講習会を開催する

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 経験者からの「外部検証に関する情報」の収集：平成27年4月16日
- 2) 第1回動物実験委員会：平成27年4月23日
 - ・計画書の審査(3件)
 - ・平成27年度動物実験従事者の教育訓練講習会の報告
 - ・外部検証について(収集した情報の確認と今後の方向性)
 - ・本学HP内にある当委員会関係ページの更新の確認
 - ・文科省からのアンケートの回答内容について
 - ・計画書の提出・審査ルートの改変
- 3) 第2回動物実験委員会：平成27年5月7日
 - ・大学への平成26年度委員会活動報告
 - ・計画書の様式の改変
 - ・外部検証について(費用と書類の準備、協会への加盟の必要性の有無について)
- 4) 第3回動物実験委員会：平成27年6月10日
 - ・計画書の審査(2件)
 - ・外部検証について(必要書類の確認と試行的な作成について)
 - ・計画書の提出期限について
- 5) 第4回動物実験委員会：平成27年7月6日
 - ・計画書の再審査(2件)
 - ・外部検証について(試行的に作成した一部の書類の確認と修正について)
- 6) 第5回動物実験委員会：平成27年9月9日
 - ・計画書の審査(1件)
 - ・災害対策マニュアルの修正案
 - ・外部検証について(試行的に作成した一部の書類の確認と修正について)
 - ・次年度委員の委員数や構成メンバーについて
- 7) 第6回動物実験委員会：平成27年10月27日
 - ・実験動物慰霊祭について
 - ・平成28年度予算について
 - ・外部検証について
 - ※試行的に作成した一部の書類の確認と修正について
 - ※組織体制図について
- 8) 第7回動物実験委員会：平成27年1月25日
 - ・平成28年度動物実験に関する講習会の開催日程について
 - ・年度末報告書類について

- ・外部検証について
 - ※試行的に作成した一部の書類の確認と修正について
 - ※組織体制図について

9) 第8回動物実験委員会：平成27年3月8日

- ・計画書の審査(1件)
- ・平成27年度 動物実験報告書について
- ・平成27年度 使用実験動物数・動物実験等の成果について報告書について
- ・平成27年度 動物実験に関する自己点検・評価報告書について
- ・平成27年度 実験動物の飼養及び保管に関する記録について
- ・平成27年度 動物実験講習会の日程と実施について
- ・平成27年度 動物慰霊祭実施日について
- ・動物実験施設の査察

(2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会承認(7件)
- 2) 平成27年度 動物実験に係る教育訓練の実施：受講者10名
- 3) 平成27年度 動物実験に関する自己点検・評価報告書の作成及びその公表
- 4) 動物実験等に関する情報のwebサイトでの公表
- 5) 動物慰霊祭の実施
- 6) 外部検証の受け入れ準備
- 7) 動物実験施設の査察

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) 第三者による外部検証実施のための方法の構築・選定とこの実施
- 2) 委員会メンバーの適正数への増員ならびに適切な有識者の配置

(2) 将来的な課題

- 1) 申請された計画書の委員会での審査時に、大学の規模の都合上、申請者と利害関係を有する委員を含まざるを得ない。関係者を含めた現状の審査体制に内外から疑念を持たれないような方策の構築が必要になることも予想される。たとえば、委員会審査時に、申請者や利害関係者を含めた1次審査と、含めない2次審査にする。2次審査においては、委員の人数が減少することから委員長も議決権を有することなどが考えられる。

第15節 感染症対策委員会

1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年月日	内 容
27.4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
27.7	結核疑いの学生がいたため、第1回感染症対策委員会にて、経過や症状報告し、対策を検討。
27.7	第2回感染症対策委員会にて、経過報告と対策検討。
27.9	結核週間に合わせ、結核啓発。
27.10	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導（掲示）
27.11	インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（掲示） 第3回感染症対策委員会にて、小児ウイルス感染症ワクチン追加接種の基準の変更について検討。教授会へ提案、承認。
27.12	世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示）
27.12	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（掲示）
28.1	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（メール）
28.2	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導（メール）

2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月日	対 応
27.6	帯状疱疹の学生1名に保健指導
27.6	尋常性疣贅の学生1名に受診同行、保健指導
27.7	結核を疑う学生1名に受診同行、保健指導
27.10	ノロウイルスによる感染性胃腸炎の疑いの学生1名に療養指導及び保健指導実施
28.1	溶連菌感染症の学生1名に保健指導実施
28.2	ノロウイルスによる感染性胃腸炎の疑いの学生1名に療養指導及び保健指導実施
	【出席停止件数】 感染症（疑いも含む）： 4件 インフルエンザ： 1件

(2) 成果

- 1) 帯状疱疹・尋常性疣贅・感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健指導を行った。その結果、新たな感染拡大はなかった。
- 2) 小児ウイルス感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の検査方法とワクチン追加接種の基準について、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン（第2版）」を参考に検討し、基準を改定した。

3 今後の課題

- ・学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。
- ・新興感染症等が出現した時には、長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の応用や新たな対応の検討が必要である。

第16節 コンソーシアム運営委員会

1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「コンソーシアム信州に加盟して

いる本学が、これに関する活動を学内外で実施する際、円滑に行われる様にすること」と委員会は認識している。事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目が挙げられる。

- (1) コンソーシアム信州の教育部会に関すること
 - ア 教育部会への出席と、本学窓口としての協議
 - イ 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
 - ウ 遠隔授業等の発信および受信（受講）に関する事項
 - エ ピア・メンター育成合宿に関する事項遠隔授業の受信に関する事項
 - オ 長野県内大学単位互換制度の、本学窓口としての協議
 - カ その他、コンソーシアム信州の活動に関すること
- (2) コンソーシアム信州の学生支援部会に関すること
 - ア 学生支援部会への出席を本学学生委員会に要請
- (3) コンソーシアム信州の推進チーム会議に関すること
 - ア 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
- (4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 第1回委員会：平成27年7月7日（火）

学内周知を行うため、教授会で報告した。

- 学内で開催される平成27年度教員免許更新講習の案内（喬・屋良）
- 県内9大学連続市民セミナー「健康長寿を考える」：チラシ配布
- 県内9大学合同学生キャンプ（ピア・メンターキャンプ）：チラシ配布
- 野辺山ステーションにおける日本人学生と留学生の合宿：チラシ配布
チラシの配布は松本先生が担当した。

宮越先生が学生へのメール配信を行い、募集などを担当した。

2) 第2回委員会：平成27年9月1日（火）

- 次年度の遠隔授業の教員の募集（喬：教授会案内）
- 県内大学市民開放セミナーについて
次年度は屋良先生と喬が講演することに決めた。
- 次年度遠隔授業の時間割調整について

3) 第3回委員会：平成27年10月6日（水）

- 県内9大学合同学生キャンプについて
- 県内大学市民開放セミナーの実施について

4) 第4回委員会：平成28年3月1日（火）17:26～17:40

- 次年度の遠隔授業の手引きを、教授会及び学生のガイダンスで配布
- 県内9大学合同学生キャンプについて
- 高遠 global night について
- 長野県看護大学連携シンポジウムについて
- 県内大学市民開放セミナーの実施終了の報告

(2) 成果

- 1) 遠隔授業（宮越准教授）を今年も実施した。本学の履修生以外に、信州大学医学部医学科の学生8名の受講生があった。
- 2) 8大学合同キャンプ（旧名ピア・メンター合宿）に本学学生2名が参加した。
来年度の合同キャンプに向けて、大学間での学生会議が企画され、本学の学生4名が参加し、内容の検討が始まった。
- 3) 野辺山高原 global night に本学学生4名が参加した。

- 4) 長野県大学連携シンポジウムが1回、信州大学メンタルヘルス講演会が1回、県内9大学連続市民セミナー（本学2セミナーの講師を担当）が4回で、計6回受信した。
- 5) 教員免許更新講習会を行い、3つの講座を開設し、計87名の小、中、高等学校の教員が受講されました。
- 6) 教務ガイダンスに学生への遠隔授業を案内した。
- 7) 学生共同募集PR事業を参加した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 遠隔授業については引き続き学生などへの案内などを通じて、受講者の獲得に努める必要がある。

(2) 将来的な課題

- 1) 高等教育コンソーシアム信州への係わり方について、様々な観点から検討する必要がある。

第17節 防災委員会

1 所掌事項

近年多発する自然災害への対応や学内における防災意識のさらなる高揚を図るため防災委員会を設置した。防災委員会の任務は以下の事項について調査及び審議することとされている

- 1) 大学及び大学院における防災及び減災の教育に関すること
- 2) 大学の学生及び教職員並びに大学施設の防災及び減災に関すること
- 3) 地域との防災及び減災の連携に関すること
- 4) その他防災及び減災に関すること

2 活動と成果

(1) 活動内容

- 1) 新入生の入寮オリエンテーション時に赤穂地区のハザードマップを配布し、寮の防災設備について説明、また学内の避難場所の説明をした。
- 2) 災害に備え基礎看護学講座で購入した担架を教育研究等のエレベータホールに設置した。
- 3) 災害時のアクションカードを作成した。
- 4) 今年度防災訓練への確認打ち合わせ、アクションカードの使用説明などの会合を持った。
- 5) 防災訓練企画・参加
10月23日の学内防災訓練は半ブラインドとし、本部要員以外にはシナリオを知らせずに、全教職員に災害対策本部へ集合するよう呼びかけて実施した。参集した防災チームメンバー以外の教員にもアクションカードを使用し活動してもらった。
- 6) 防災訓練後のアンケート回収、アクションカードの改善をした。3月末には必要箇所に配布予定。

(2) 成果

1) アクションカードの作成

アクションカードについてのアンケートの結果は概ね何をするかがわかりやすい。あったほうが良いとの意見だった。再度カード記載内容を見直し改善し、持ち運びやすいサイズで作成した。またカード使用のマニュアルを作成した。

2) 上記カードを使用した防災訓練の実施

27年度の防災訓練は「アクションカード」を使用して実施した。患者役の学生の勘違いで予定外の患者がでたが、本部員の指示で対応できた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1. 本学における防災体制の問題

- 1) 平成 26 年までの防災訓練では訓練当日学内にいる防災チーム員に直接シナリオを説明し活動してもらっていた。しかし本学の性格から、日中教員が実習指導のため学内にいない時期も多い。そのような中でいつでも誰でも動けるようにしておく必要がある。
- 2) また事務職員は 2 年～4 年で交代する。教職員交代直後、新入職員・新入生が学内の状況がよくわからない中で災害が起きてても対応できるようにしておく必要がある。

そのための対策の提言

- 1) 現在ある防災マニュアルだけでは自分で判断しなければならない部分が多く、何をするのかわからない教職員が多いと思われる。そのためにアクションカードを作成した。しかし防災訓練でカードを使用した職員は少ない。今後全職員にこのようなカードがあることを周知し使い方を理解してもらう必要がある。
- 2) 現在の防災チーム要員だけでは人手が不足する可能性がある。震度 5 以上の地震の場合は全職員が災害対策本部に集合することになっている。今年度は集合可能な教職員全てに参加してもらい、メンバー以外の教員にも防災チームの役割を担ってもらった。今後もこの方法で防災訓練は一部の人のものではなく教職員全員が参加するものであるという意識を浸透させることが重要。
- 3) 災害時の防災チームと自衛消防隊の 2 つの組織表があり名称やメンバーが一致していないものがあるため混乱をする。チーム名とメンバーを一致させた表の作成が必要。また自衛消防隊は充職になっているが防災チームは個人名になっている、これも統一して職名が望ましい。
- 4) 自衛消防隊のメンバーをいつ誰が決めているのか不明。4 月中に新しいメンバー表を各講座から提出してもらい 5 月初めに顔合わせと業務内容の確認をすることが必要。

2. 授業・実習中止の発信

現在、土砂災害警報・特別警報が発令された時には授業・実習が中止になり、学生には一斉メールを送信するとなっているが、この発信システムについて更に検討し、学内に周知徹底する必要がある。

(2) 将来的な課題

- 1) 今年度の学部生の本学学生に対する防災意識調査をしたが、依然として防災意識は低い。昨年防災マニュアルを作成したが配布するには至らなかった。再度見直しをして必要であれば修正をして、全教職員・学生に配布し防災意識を上げる必要がある。

第 18 節 安全衛生委員会

1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関すること
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関すること
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関すること

2 活動

(1) 委員会活動

年月日	内容
27. 6. 25	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討。ACE県庁メイキングプロジェクトについて確認
27. 10. 8	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
27. 11	職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施
27. 12	「ストレスチェック」を配信、こころのケアについて啓発
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACEプロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施

3 今後の課題

健康障害の防止や健康の保持増進等に関わることについて、教職員への啓発や受診勧奨等を継続、強化していく。

第19節 研究科委員会教務部会

1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

- 看護学研究科カリキュラムに関すること
 - カリキュラムの検討と作成
 - 非常勤講師について（依頼と決定）
- 看護学研究科単位取得に関すること
 - 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
- 看護学研究科科目履修に関すること
 - 大学院科目履修の決定
 - 科目履修生の選考
- 看護学研究科院生の休学，退学，長期履修などに関すること
 - 休学・退学願，長期履修願，奨学金返済免除者の審査
 - 長期履修希望者の選考
- 看護学研究科修士論文，博士論文の審査及び学位授与に関すること
 - 修士論文審査基準と審査方法の見直し
 - 修士論文発表会の進行
 - 博士論文審査委員選出
 - 博士論文審査基準の見直し
 - 博士論文発表会進行
 - 博士論文審査結果公表の手続き等
- 上記1～5に関わる学則の検討

7. 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること

1) 年1回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

2 活動と成果

(1) 部会活動

第1回教務部会 (4月10日)

- ① 休学願1名について審議した。
- ② 博士論文審査体制を確認した。

第2回教務部会 (5月15日)

- ① H27 修士論文研究テーマ(仮)・論文指導及び審査委員(案)について審議した。
- ② 大学院授業科目の履修登録状況(修士・博士)について確認した
- ③ H26 ティーチングアシスタントの実施状況について確認した。
- ④ 基準協会への改善報告書について確認した。

第3回教務部会 (9月4日)

- ① H27 後期博士研究計画の副指導教員について審議した。
- ② 修士論文指導体制の変更について審議した。
- ③ 平成26年度前学期ティーチングアシスタント実施状況を確認した。

第4回教務部会 (10月14日)

- ① 平成28年度大学院博士前期・博士後期課程入学願書提出者における長期履修希望状況及び、長期履修の申請条件(博士前期課程3名)を確認し、承認した。
- ② 休学願(博士後期課程1名)を審議した。
- ③ 研究生の研究期間延長について審議した。
- ④ 平成28年度大学院学年暦および論文審査日程を確認、承認した。
- ⑤ 大学院シラバス・学生便覧作成スケジュールについて確認した。

第5回教務部会 (12月8日)

- ① 退学願(博士前期課程1名)、休学願(博士前期課程1名)を審議した。
- ② 平成27年度修士論文審査日程について審議した。
- ③ 大学院科目担当の変更を審議した。

第6回教務部会 (1月26日)

- ① 長期履修希望状況及び長期履修の申請条件(博士前期課程4名)を確認し、承認した。
- ② 大学院修了予定者単位取得状況について確認した。
- ③ 平成27年度修士論文発表会の日程を審議した。
- ④ 平成28年度科目履修生募集要項(案)、研究生募集要項(案)を審議した。
- ⑤ 平成28年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)を審議した。
- ⑥ 平成28年度大学院非常勤講師について審議した。

第7回教務部会 (2月12日)

- ① CNS科目名称変更申請が受理されたことを確認した。
- ② 平成28年度大学院時間割を確認した。
- ③ 平成28年度大学院教務ガイダンス日程を確認した。
- ④ 看護海外研修の日程等について確認した。

(2) 成果

- ① 大学基準協会より指摘されていた、ディプロマ・ポリシー(博士前期課程・後期課程)、カリキュラムポリシー(博士前期課程・後期課程)、修士論文・博士論文指導教

員、論文審査体制などを明記した大学院学生便覧・シラバスに基づいて、入学生、在學生に本学の大学院の教育目標、教育課程の明確な方針を周知することができた。

- ② 本学の立地条件と就労しながら学ぶ学生が増加していることなどを鑑み、新たに遠隔対応可能な科目を募り、大学院学生便覧に明記した。

3 今後の課題

- (1) 論文博士審査において、学位規程があるもののその手順が明確ではない。
- (2) 入学後、「論文コース⇔CNSコース」の変更があった場合の手続きを定める必要がある。

第20節 研究科委員会入試部会

1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関する事、(2) 合否判定の基礎資料に関する事
- (3) 入試の追跡調査に関する事、(4) 入試のあり方に関する事、
- (5) その他 入試に関する事

2 活動と成果

(1) 部会活動

1) 第1回入試部会

- ①入試部会の規程及び部会員の役割の確認 ②今年度の入試日程の確認
- ③平成28年度学生募集要項の検討、④今年度の活動計画・課題の確認

2) 第2回入試部会

- ①平成28年度学生募集要項の確認、②受験者確保対策の検討

3) 第3回入試部会

- ①募集要項・大学院パンフレットの送付先、②受験者確保対策

4) 第4回入試部会

- ①平成28年度入試従事者予定表について
- ②大学院博士前期課程の受験者確保に関する検討：研究科委員会資料の検討

5) 第5回入試部会

- ①事前相談状況の確認、②大学院入試従事者予定表の確認、③博士前期課程出願資格認定審査、④大学院だよりについて

6) 第6回入試部会

- ①大学院入試 部会合否判定、②2次試験の募集人員の検討

7) 第7回入試部会

- ①博士前期課程2次試験出願資格認定審査、②2次試験事前相談状況の確認
- ③2次試験業務処理要領・従事者配置の確認

8) 第8回入試部会

- ①大学院2次試験 部会合否判定の検討（CNSコースの英語試験の判定の見直し）、
- ②博士前期課程の英語の試験について

9) 第9回入試部会

- ①平成25年度入試日程、②大学院パンフレットの活用状況
- ③入学者の推移の検討、④受験者確保対策

10) 第10回入試部会

- ①1年間の入試システムの検証、②大学院パンフレットの修正、③CNSコースの応募書類として『推薦書』を課すことについて
- ④大学院入試科目に関する協議の継続について

(2) 成果

1) 受験者確保対策

入試部会より研究科委員会に、「大学院博士前期課程の受験者確保に関する検討」を提言し、大学全体の取り組み、委員会の連携・協働による取り組み、各分野教員独自の取り組みなどを呼びかけた。広報の手段として、ホームページの検討や大学院パンフレットの活用（実習病院や関連学会等）を依頼し、活用状況の報告を求めた。28年度博士前期課程の受験者数は、27年度受験者数ののべ5名から9名となった。

2) 大学院パンフレットの検討

大学院パンフレットに、各領域の活動をわかりやすく記載し、アドミッションポリシー、一次試験・二次試験の日程の挿入と、本学大学院の特徴を明記した。

3) 大学院だよりの作成

部会と広報交流委員会との協働により、学報の中に、「大学院だより」として、教員の研究活動や院生の学修状況等に関する記事が載ることになり、大学院の新たな広報活動の一つとして開始することができた。

4) 判定基準の見直し

CNSコースの学生の教育は、特別選抜の学生と同様に、将来、臨床現場で高度な看護実践活動を担う看護師を育てることであり、修士論文も看護実践課題研究2単位とし、論文コースの看護課題研究6単位との違いを明確にしている。その本来の目的からは、論文コースと同様の基準でなくてもよいと考えられることから、判定基準の見直しについて研究科委員会に緊急動議を提出し認められた。

5) 入試システムの検証

①募集要項、②入試業務処理要領、③各科目の得点率の算出方法、④合否判定基準等について見直しを行い、①②の必要箇所を修正するとともに、③④に関しては、独立性、公平性、公正性が確保されていることを確認した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

1) 受験者および入学者の確保（具体策の検討と実施・評価）

- ①部会において大学院HPの充実が認識されていたが十分な修正には至らず、データが更新されていないものもあり、大学院の活動状況がみえにくい。受験生にとって魅力的な大学院HPとなるよう充実を図る。
- ②入試実施状況の詳細な検討、近隣病院等への広報・卒業生対策の再検討をする。
- ③大学院全体として取り組む『遠隔授業』の拡大に関する状況を広報に繋げる。

(2) 将来的な課題

- 1) 受験者および入学者確保の対策を継続する。
- 2) 大学院博士前期課程の定員に関して研究科委員会にて検討する。
- 3) 公正・公平な入学試験実施と定期的な入試判定の適切性の検証を継続する。

第6章 学生生活及び学生への支援

第1節 学生支援活動

1 学生支援体制

1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

3) 相談窓口及び実施方法

① 学年顧問

- ・ 各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ・ 休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び、保護者との連絡・調整を行う。
- ・ H28年度に限り編入2年生は4学年の顧問が担当する他、留年生は卒業まで同じ教員が担当する。

② 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

③ 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

④ 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

⑤ 健康センター

- ・ 学生のこころの健康相談に応じる。
- ・ 窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

⑥ ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記3の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

7) ハラスメントに当たる事象

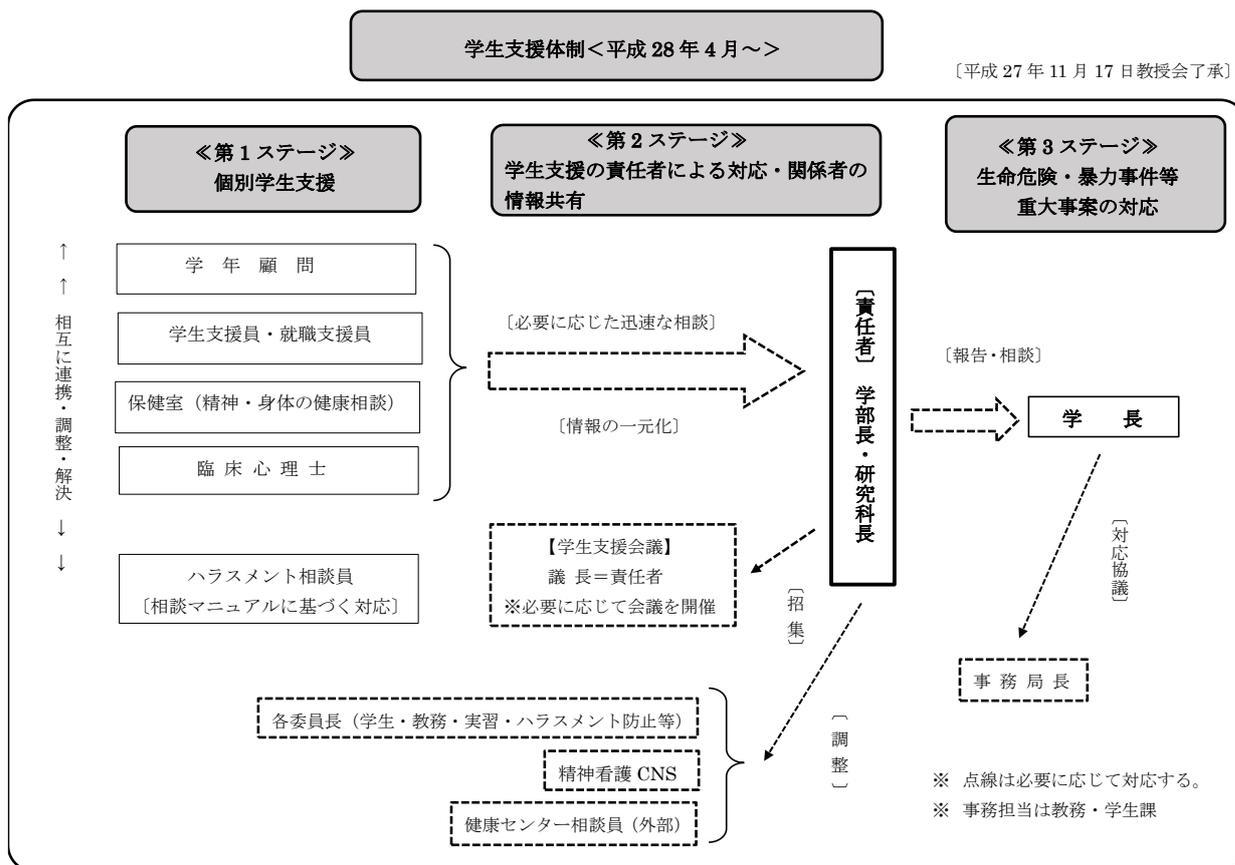
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたる判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



2 学年顧問

1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関する事、休学・退学等）
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する
- ⑦ クラス委員との連絡・調整

3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。また、その結果について学部長に報告する。

平成 27 年度学年顧問

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
顧問の 氏 名	有賀講師	千葉准教授	竹内准教授	屋良准教授
	島袋助教	秋山講師	上田講師	御子柴講師

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

人数等 相談内容	相談内容別実人数（人） （1人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に1人とカウント）						
	履修・ 学習	アルバ イト	進路・就 職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1 年	9	1	2	1	1	3	4
2 年	2			1	2		1
3 年	11						2
4 年※	7	1	4		1	3	2

※卒業延期生を除く

<総括>

① 1 学年

真面目に授業に取り組んでいる学生がいる一方で、落ち着いて授業に取り組めない様子の学生や単位を落とす学生、再試や再々試でようやく合格できたという学生が見られた。また、自身の進路選択について悩む学生も見受けられた。

生活面では、前期に寮での騒音や集会に伴う問題に関する苦情が何度か寄せられ、教務・学生課とともに対応した。アルバイトは、多くの学生が早い段階で開始しており、学習面や生活面への影響が見られる学生もいた。より早期の注意喚起が必要と考える。

② 2 学年

入学後 1 年を経て、大学生活にも慣れ、安定して学生生活を送る学生が見受けられる一方で、授業や実習の単位を落とす学生が目立ってくるようになった。4 年間で卒業できないことが決まった学生が出始めたこともあり、留年の長期化を防ぐため指導していく必要がある。

実習が立て込んでくるにあたり、授業もスケジュールがタイトになってくる。不合格等の理由で、精神的に追い詰められる学生や、次の機会へ前向きに対処できない学生が見られた。

また、本学の場合人間関係が非常に狭い範囲に限定されてしまうため、対人関係の悩みを一度抱えると解決することが難しい傾向がある。相談の機会などで学生本人の考え方や成長を促すことも必要と考える。

③ 3 学年

後学期より看護専門領域実習が始まり、多くの学生は安定して実習に取り組むことができているが、実習担当教員より気になる学生として数名の報告を受けた。実習終了後に該当者と面接をしたが、体調の自己管理ができていないことや実習到達度が低いことを自覚できていない学生が目立った。実習グループ内でもまとまりがなく、メンバー間でいろいろなことを決定できないグループも多く、それがクラス全体のまとまりのなさにつながっているようである。ただ、実習も半分を過ぎたところであり、今後グループとして成長できるのか見守る必要があると考える。

④ 4 学年

4 学年次になって進路に迷う、実習態度が問題になるなどの状況は少なくなり、それぞれが決めた進路に向けて準備を進められるようになったが、相変わらずアルバイトが学業を妨げている学生も見受けられた。健康センターや保健室等からの情報を共有し、その結果を受けて適宜個別に対応した。

カリキュラムの改正で看護専門領域実習の期間が延伸したことにより、著しい疲労から心身の不調を来す学生もみられた。また、実習期間中に就職試験に挑む学生や、看護統合実習終了後の 8 月中旬から本格的に卒業研究や国家試験対策に取り組む学生が多く見受けられていた。

このように多忙な生活の中でも、学生自身がセルフマネジメントしつつ主体的に学習を進められ、4 年間の総括が行えることを目指して、大学全体として学生個々へのさらなる支援の充実を検討する必要があると考える。

3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

2) 防犯講習会の開催等

新学期開始直前に、すずらん寮に入居する 1 年生とアパート暮らしを始める 2 年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。なお、警察の助言を受け、すずらん寮の安全確保のため、防犯カメラを設置した。

第2節 キャリア形成支援

1. 在学時における進路支援

1 支援の概要

1) 就職・進学に関する支援

(1) キャリアガイダンスの実施

(2) 進路希望調査の実施

4月：求職票の提出（4学年） 12月：進路希望調査票の提出（3学年）

(3) 個別面談の実施 7月：卒業予定者全員を対象

(4) 求人票・募集要項等の整備

(5) 「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成

全学年および全教員に配布

(6) 求人等に関する来訪の対応

(7) 職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋

(8) 各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）

(9) 大学院等の募集要項の整備

(10) 大学等からの教員募集要項等の整理

(11) 応募及び採用試験への支援

希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など

(12) 公務員・養護教諭等の受験対策

県内市町村の保健師採用予定調査、公務員対策講座等の参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など

(13) 新社会人ワーキングセミナーの開催

(14) 県内市町村保健師採用合同説明会の開催

2) その他

(1) 進路支援室の移転・拡充

(2) キャリア支援のあり方について見直し・検討

2 支援の実施状況・結果

1) キャリアガイダンスの実施状況

<一年次><編入一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月20日(水)9:00~10:30

ねらい	○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。 ○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。 ○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。 ○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。 ○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。
内容	○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ（卒業生シンポジウム） 8月7日(金)10:40~12:10

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関するシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内容	○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 シンポジスト 横谷 優希（伊那中央病院 看護師、学部13期生） 北澤 卓也（松本保健福祉事務所 保健師、学部13期生） 宮阪 理子（丸の内病院 助産師、学部15期生）

<三年次><編入一年次>

キャリアガイダンスⅢ 4月7日(火)8:50~9:05 教務ガイダンス内で進路説明

①12月25日(金)10:40~12:10

②1月13日(水)14:40~16:10

③1月25日(月)13:00~14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内容	①就職活動のための情報収集や施設見学・職場体験等のポイント、行政保健師（公務員一般試験）および養護教諭(教員採用試験)等について、就職先の選び方などについての指導を行う。 担当者：岡田 実（本学教授）、御子柴 裕子（本学講師）、唐澤 淳（就職支援員） ②就職先として可能性のある職場の管理者等を招いて、医療現場の状況や県看護大学生への期待などについて話をさせていただく。 講師：矢島 亜美（諏訪赤十字病院 看護部教育担当係長） 古畑 崇子（松本市 健康づくり課長（保健師）） ③就職情報会社の社員を招いて、履歴書(エントリーシート)の記入や筆記試験、面接試験等就職活動の実際を知るとともに身だしなみ、挨拶、言葉遣い等社会人としてのマナーについての具体的な説明をさせていただく。 講師：吉田 優太（㈱マイナビ キャリアサポート課長）

<四年次><編入二年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月7日(火)9:20~9:40

ねらい	○卒業学年として、就職活動に必要な知識や手続きを確認する。
内容	○求職活動の手順、履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

3 課題及び方策

- (1) 卒業生の就職先として、県内における定着率を高める必要がある。とりわけ、県内の地域中核病院や小規模自治体(行政保健師)への就職について、関係機関等との連携を図りつつ学生の関心を高めるような方途を引き続いて探っていく。
- (2) 県内公立学校等における養護教諭の採用は厳しい状況が続いているが、地域貢献の意味合いとともに学生の進路保障の観点や県教育委員会の意向等も踏まえながら、採用数の増加につながるような支援体制について具体的な対策を模索していく。
- (3) 各学年におけるキャリアガイダンスを通しキャリア発達を促していき、進路意識を高める効果があがっていると考えられるが、今後、より組織的・体系的な支援体制を構築するための検討を積み重ねていく必要がある。
- (4) 就職先での早期退職を防ぐことや卒業生の生涯にわたるキャリア形成に資するため、卒業後における看護職としての適応状況などの実態を把握するなどして、より充実したキャリア支援活動を実施するための方策について、卒業生・修了生キャリア形成支援部門との協力関係のなかで取り組んでいく。

2. 国家試験の対応状況

1 国家試験への支援の概要

- 1) 模擬試験の実施
看護師 3回、保健師 2回、助産師 2回実施
本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供
- 2) 国家試験受験手続説明会の開催
11月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)
2月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明
- 3) 国家試験受験関係業務
受験に必要な書類(願書、修業見込書等)の整備・点検および提出
- 4) 免許申請手続き説明会の開催
2月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明
- 5) 合格発表後の進路指導
合否状況の確認 不合格者に対する支援
- 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援
- 7) 国家試験対策補講の実施(1月に実施)
- 8) 国家試験受験対策ガイダンス(5月と11月に実施)
- 9) 受験参考書籍等の整備と斡旋

2 国家試験に関する実績

- 1) 保健師、助産師及び看護師の国家試験については、平成23年度の助産師国家試験(9名の受験者のうち3名が不合格)と平成26年度の看護師国家試験(84名の受験者のうち6名が不合格)を除けば、ここ数年、本学新卒者は全国平均よりも概ね高い合格率を維持しており、本年度も、保健師・助産師・看護師とも全国の合格率を上回った。

<平成27年度国家試験の合否状況>

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第102回保健師	83	83	79	95.2%	82	82	79	96.3%	1	1	0	0%
第99回助産師	11	10	10	100%	11	10	10	100%	0	0	0	-
第105回看護師	87	87	85	97.7%	81	81	80	98.8%	6	6	5	83.3%

3 課題及び方策

国家試験対策については、昨年度看護師国家試験で6名の不合格者を数えたことに鑑み、模擬試験実施時期の早期化、特別補講の内容の改善・充実、卒業研究指導教員等による支援・相談体制の強化を図るなどの方策をとった。今後も、受験者全員の合格を目指して、受験ガイダンスや公開模擬試験および特別補講などの今までの取り組みを更に発展・充実した内容となるよう検討していく。とりわけ、助産師の受験者に対しては十分な受験準備が出来るように配慮していく。また、既卒の不合格者に対しても受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続する。

第3節 保健厚生

1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員（看護師）、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

2 実績

(1) 保健室利用状況

平成23年度から27年度の保健室利用状況を表1に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、平成27年度にはインフルエンザ（疑いを含む）等感染症のため5名の学生が出席停止となった。発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表1 保健室利用状況

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
健康相談（身体）	277	190	168	273	261
健康相談（精神）	42	81	68	61	61
相談（その他）	96	71	69	76	88
合計	415	342	305	410	410

(2) 定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部X線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の8項目である。平成23年度から27年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表2に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

また、入学年度の定期健康診断ではB型肝炎抗原・抗体検査及び小児ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査を併せて実施している。B型肝炎抗原・抗体検査でいずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。小児ウイルス感染症抗体検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表2 定期健康診断受診状況（学部生）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
健診対象者	339	337	339	342	341
受診者数（全項目を受診した者）	332	336	336	338	338
受診率（%）	97.9	99.7	99.1	98.8	99.1

3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学生顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

第4節 修学資金等

(1) 修学資金

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

(1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は34.2%、学部生では36.8%で3分の1を超える学生が利用している。採択率は、追加割当があるため、ここ数年は100%である。

第一種奨学金の貸与を受けた大学院生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者は、「長野県看護大学大学院奨学金返還免除候補者選考規程」に基づき、返還免除候補者として日本学生支援機構に推薦している。

(2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は3.2%と低い。これは、貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。返還免除対象施設は以下のとおり。

<学部生>

- ・病床数 200 床未満の病院 ・精神病床を 80%以上有する病院 ・過疎地域にある病院（木曽病院） ・診療所 ・重症心身障害児施設 ・母子健康センター（助産師に限る） ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る） ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

- ・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設 ・母子健康センター ・地域保健法に規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

(3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成23年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は2.4%と低い。

2. 実績

各修学資金の貸与実績については、以下のとおり。

日本学生支援機構奨学金貸与状況(平成27年度実績)

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
第一種	14	14	22	19	69	1	0	70
第二種	14	18	8	11	51	0	0	51
併用	3	2	1	0	6	0	0	6
計(A)	31	34	31	30	126	1	0	127
学生数(B)	89	89	83	81	342	16	13	371
貸与率(A/B)	34.8%	38.2%	37.3%	37.0%	36.8%	6.3%	0.0%	34.2%

長野県看護職員修学資金貸与状況(平成27年度実績)

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	2	2	4	2	10	2	0	12
学生数(B)	89	89	83	81	342	16	13	371
貸与率(A/B)	2.2%	2.2%	4.8%	2.5%	2.9%	12.5%	0.0%	3.2%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況(平成27年度実績)

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	0	4	3	2	9	0	0	9
学生数(B)	89	89	83	81	342	16	13	371
貸与率(A/B)	0.0%	4.5%	3.6%	2.5%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%

(2) 授業料の減免

1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年4回（4月、7月、9月、1月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

2) 経済的理由による減免の実績

	25年度	26年度	27年度
対象者数	14人	16人	19人
減免額	6,920,750円	8,572,800円	9,644,400円

第5節 サークル活動及び大学祭

(1) サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成27年度は24団体である。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成27年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	構成	活動内容等	顧問
軽音楽サークル	68	ライブ（新入生歓迎、学園祭等）、ライブに向けての練習	御子柴講師
茶道サークル	15	外部講師による茶道のお稽古、学祭でのお茶会	有賀講師
書道サークル	9	外部講師による書道、ペン習字	屋良准教授
ほがらかふれあい農園サークル	57	作物や花の作付・栽培	太田教授
わらわらサークル	58	全国医学生ゼミナール参加	屋良准教授
美術・文芸サークル	11	絵を描く、文を書く、文化祭の出展	御子柴講師
Talk & Nurse	23	医療英会話をを用いたディスカッション、ロールプレイ、記述等	田中助教
ハモネプサークル	9	入学式、卒業式、鈴風祭での発表	千葉准教授
よさこいサークル	44	鈴風祭での発表、様々な行事への参加	田中助教
弓道サークル	6	大会参加、合宿練習	阿部准教授
硬式テニスサークル	47	練習、ゲーム	太田教授
バスケットボールサークル	50	練習、ゲーム	牛山助手
バドミントンサークル	64	練習、ゲーム	森野助教
バレーボールサークル	36	練習、ゲーム	酒井助教
スノーボードサークル	102	スノーボード、スキー	高橋助教
ダンスサークル	10	鈴風祭での発表	千葉准教授
室内楽サークル	13	入学式、卒業式での演奏 施設・病院・学校・イベント等で演奏活動	千葉准教授
卓球サークル	7	練習・大会への参戦	喬教授
剣道サークル	7	練習・大会への参戦	三浦助教
フットサルサークル	36	練習・大会への参戦	森野助教
写真サークル	17	写真撮影・展示	森野助教
子どもとあそぼう！ちちんぷい	9	育児サークルの活動への参加	田中助教
ジョギング倶楽部	11	大学周辺のジョギング	加藤主任
現代視覚文化研究会	5	映像作品・絵画・図面の鑑賞 そこから得られることの考察	三浦助教

(2) 大学祭

長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）は、毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、約80名による鈴風祭実行委員会を組織し、4月から約半年間をかけて準備を進めている。

平成27年度は9月5日（土）、6日（日）に開催した。看護大学ならではの特色ある企画として、ヘルスチェックやハンドマッサージコーナーを開設するとともに、地域の方々や子どもたちにも喜んでもらえるような催し物を開催し、近隣住民の方をはじめ、老若男女問わず大勢の方々が賑わった。

また、会場の一隅には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問 : 小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー : 約100社

○当日の主な催し物

- ・ヘルスチェック、ハンドマッサージ等の健康サービス
- ・大学説明コーナー
- ・サークル発表
（よさこい、ハモネプ、室内楽、軽音楽、茶道、書道、美術・文芸）
- ・バルーンショー、ビンゴ大会等の開催
- ・アーティストライブ
- ・移動動物園
- ・各種模擬店

第6節 関係団体の活動

1. 大学生協

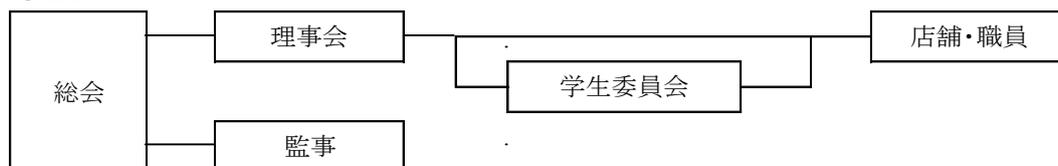
1 概要

(1) 組織

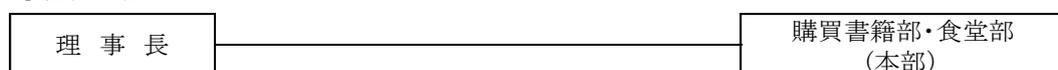
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、第生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活共同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



(2) 業務

看護大学生生活協同組合は、平成 10 年 1 月 21 日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

2 活動実績

(1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

(2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：4名)による理事会等を以下により開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	27年5月21日	理事長、専務理事、専務補佐の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	27年7月8日	夏期・冬期営業日程について
第三回理事会	27年9月24日	経営状況及び活動報告について 県消費生活室監査について 冬期営業日程について
第四回理事会	27年11月24日	経営状況及び活動報告について 全国総会代議員選出について
第五回理事会	28年2月23日	2015年度決算見込みと2016年度予算案について 総会日程について
第六回理事会	28年4月15日	2015年度決算及び活動報告 総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は3月から2月まで、役員は5月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

(3) 学生委員会総会・理事会等開催

看護大学の学生により、生協の活動をPRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

学生委員会の活動報告

月	主な活動内容(学生委員会の活動含む)
2015年 5月	食堂装飾①、デザートバイキング企画計画、生協総会(看護大学 in 大講義室) (5/21)
6月	デザートバイキング(in 生協食堂)企画実行(6/9)、七夕企画計画、「Nsの☆」制作
7月	食堂装飾②、七夕企画実行(6/29~7/9)、「Nsの☆」制作、夏祭り企画計画
8月	夏祭り企画(in 生協食堂)実行(8/7)、「Nsの☆」完成、鈴風祭模擬店計画・

	準備
9月	鈴風祭模擬店出店(9/5,6)
10月	食堂装飾③
11月	クリスマス会計画
12月	食堂装飾④、クリスマス会実行 (in 生協食堂) (12/24)
2016年 3月	お友達企画計画、卒業式生協食堂手伝い (3/12 実施)、引っ越しお助け隊① (3/26,27)
4月	引っ越しお助け隊②(4/2,3)、食堂装飾⑤、入学式生協食堂手伝い (4/4)、お友達企画実行 (in 生協食堂) (4/4)、新入生歓迎パーティー企画・実行

(4) その他の成果

近年の粗利の減少傾向および総供給高の減少から、平成25年度の運営は危ぶまれていた。この傾向は一部で加速する傾向にあったものの、公募型相見積の制度に積極的に対応するなど、相当の業務形態の改善をはかったところ、損益を最小限に抑えることができた。また、信州大学生協に委託していた業務の一部などを、本生協で処理することにより、委託費の削減と業務の効率化を望める体制とした。

3 課題及び方策

(1) 喫緊の課題

- ・小さな諸問題はあるものの、組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存しており、多忙を極めている。したがって、パート職員の増員と職員同士がお互いの分担をカバーしあえる体制づくりが最も急がれる課題である。

(2) 長期的な課題

- ・正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員(店長)の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができていく」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、周囲の会員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

2. 後援会

1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・学生の課外活動に対する援助。
- ・学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

2 活動実績

(1) 主な業務

①新入生のオリエンテーション合宿(4/8～9)、学生自治会へ補助しました。

合宿に使用した文房具等、自治会活動(鈴風祭、サークル)へ補助

②進路指導や福利厚生のために必要な事業等に対して援助しました。

B型肝炎ワクチン予防接種(1年生・編入1年生対象:3回)、B型肝炎抗体検査(全学年)、国家試験対策ガイダンス・進路指導書等への補助

③学外実習旅費(交通費・宿泊代)へ補助しました。

実習交通費・宿泊費等の補助

④卒業式等(卒業式、卒業生を送る会等)、地域との交流等に対して援助・協力を行いました。

送る会への補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金

⑤後援会だよりの発行

第18号(450部)の発行

(2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第一回役員会	27年 4月2日	総会議題等について
総会	27年 4月3日	・平成26年度事業報告・収支報告書について ・平成27年度事業計画・収支予算、役員選任について
第二回役員会	27年 9月5日	・平成27年度中間報告、実習補助費、卒業式、就職求人状況等について ・平成28年度役員体制案について
第三回役員会	27年 3月11日	・平成27年度事業決算見込みについて ・平成28年度新役員体制の確認等について

3 課題及び方策

実習施設の増加及び遠隔地化に伴い、後援会が行う実習補助費も年々増加し、会計全体に占める割合が5割前後となり、後援会の他の事業の実施に支障をきたす恐れが生じている。

また、実習内容の変更や実習施設の増加などに起因する環境変化に速やかに対応することができない状況である。

このため、後援会会計から実習補助費を切り離し、大学管理の「実習交通費等会計」

を設置すること、また、実習切り離しに合わせ後援会会費を減額することとし、29年度からの実施を決定した。

3. 同窓会

1 概要

同窓会「鈴風会」は平成15年、長野県看護大学の創立10周年を機に設立された。この名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は「母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となること」である。

主な業務は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

最高決議機関として総会があり、ここで鈴風会に関するすべての決定がなされる。総会で決定された枠組みの中で、実務機関として執行部会があり、会長・副会長・庶務・会計の各役員によって運営されている。

会員は、会員（卒業生・修了生）、準会員（在学中の学生）に分けられる。

2 活動実績

- (1) 平成27年度基本方針
 - ・会員同士のネットワーク強化
 - ・同窓会活動の充実

【活動内容】

<会員同士のネットワーク強化に関すること>

○ホームページの活用

同窓会ホームページが維持できるよう、新たに契約したホームページ管理者との調整を行った。

○会員の参加・アクセスしやすい活動方法の検討

同窓会から会員や新入学生への通知、卒業生への配布物にアドレスを掲載するなど、会員・準会員がアクセスできるよう同窓会ホームページの周知を図った。

<同窓会活動の充実に関すること>

○同窓会活動に関する意見募集

第15回定例総会の通知に併せ、同窓会活動の現状や今後の方針について会員に報告し、今後の同窓会活動の内容や方法に関する意見募集を行った。

○会員サービスの検討

母校の学園祭「鈴風祭」に同窓会ブースを設置し、会員である卒業生の働く姿の写真と在校生へのメッセージを展示した。看護師・保健師・助産師それぞれの立場で働く会員の協力が得られ、在校生・卒業生へのアピールになった。

○その他

予算管理・執行や今後の大学への貢献活動について、大学と意見交換を行った。

ま

た、今後の予算管理・執行について会計業務専門職に相談し、検討を進めた。

(2) 平成 27 年度活動日程

項目	開催日	主 な 議 題 等
第 1 回 執行部会	27 年 6 月 5 日	・平成 27 年度活動計画について ・鈴風祭に合わせた同窓会企画について
第 2 回 執行部会	27 年 7 月 29 日	・鈴風祭に合わせた同窓会企画について ・卒業生キャリア形成実態調査への会員情報の提供について
鈴風祭 準備	27 年 9 月 4 日	・鈴風祭会場同窓会ブース準備
鈴風祭 参加	27 年 9 月 5 日	鈴風祭会場への同窓会ブースの設置
第 3 回 執行部会	27 年 11 月 20 日	・今後の活動方針及び予算管理・執行について ・他大学同窓会との交流について
第 4 回 執行部会	28 年 1 月 28 日	・今後の活動方針及び予算管理・執行について ・第 15 回定例総会について
第 5 回 執行部会	28 年 2 月 26 日	・第 15 回定例総会について ・次年度同窓会パーティー企画について
第 15 回 定例総会	28 年 3 月 11 日	定例総会開催
第 6 回 執行部会	28 年 3 月 11 日	・新旧役員引継ぎ ・他大学同窓会との交流について

3 課題及び方策

同窓会活動の充実に関しては、以下のような課題がある。設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成 28 年度より徴収方法が変更となることから、入会者及び会費収入の大幅な減少が見込まれる。そのため、活動の拡大は困難であるが、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう今後の方針を検討していく。

(1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページの活用方法及び周知方法を検討し、会員への周知を推進する。

(2) 同窓会活動の充実

- ・通知やホームページ等を通じ、同窓会活動に関する会員の意見を引き続き募集する。
- ・看護系他大学同窓会との情報交換・交流を図り、今後の活動について示唆を得る。
- ・より多くの会員が集える同窓会パーティーを企画・開催する（隔年開催）。
- ・今後の大学への貢献事業のあり方など、会員の意見を基に活動方法の検討を進める。
- ・予算管理・執行について、必要時会計業務専門職に相談し、今後も適切な運営を行う。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

第7章 施設の管理運営等

第1節 施設の状況

(1) 施設の全体概要

1. 校地

本学の校地面積は、75,733 m²と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m ²	15,948.00 m ²	5,760.00 m ²	17,074.00 m ²	75,733.00 m ²

2. 施設・設備

1) 管理棟 (2,248.81 m²)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

2) 教育研究棟 (9,079.39 m²)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器48台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに4室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内8大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

3) 講堂 (962.43 m²)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

4) 図書館 (1,200.62 m²)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVコーナーを設置している。

開館時間は平日の場合、9時～19時で土曜日にも開館しているほか、病院の実習期間中は、21時まで利用可能としている。

5) 体育館 (893.68 m²)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

6) 学生棟 (802.21 m²)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131. 64 m²)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスローコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センターとして障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948. 00 m²)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505. 00 m² [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504. 44 m²)

2棟80室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328. 00 m²)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079. 39 m ²	2, 242. 13 m ²	802, 21 m ²	1, 200. 62 m ²	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤宿舍	合計
893, 68 m ²	962, 43 m ²	2, 504. 44 m ²	328. 00 m ²	18, 012. 90 m ²

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

3. 設備機器

○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舎、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 48 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

4. 課題及び方策

開学から 20 年が経過し、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

(2) 図書館

1. 概要

図書館の利用状況

附属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 71,776 冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1200 m ²							
閲覧スペース	688 m ²	書庫	131 m ²	事務室	57 m ²	その他	325 m ²
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

2) 図書館資料

① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したものの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2010 年度末	56,173	6,952	63,125
2011 年度末	58,590	7,136	65,726
2012 年度末	60,677	7,251	67,928
2013 年度末	62,605	7,296	69,901
2014 年度末	64,725	7,051	71,776
2015 年度末	65,717	7,402	73,119

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計 冊数
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	
2013 年度末	15,037	21.5%	20,239	28.9%	34,625	50.6%	69,901
2015 年度末	15,106	20.7%	21,248	29.1%	36,765	50.2%	73,119

②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、限られた予算の中で、実際の利用に伴った収集タイトルにするために 2010 年度から複写、閲覧などの実際の利用状況を調査し、購入タイトルの見直しを行っている。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌 (種類)		洋雑誌 (種類)		合計	電子ジャーナル	
	購入	寄贈	購入	寄贈		和雑誌	洋雑誌
2011 年度	120	208	53	23	404	915	605
2012 年度	112	238	37	6	393	972	605
2013 年度	103	304	32	11	450	1,048	536
2014 年度	96	278	29	8	411	1,079	757
2015 年度	84	271	18	0	373	1,211	683

2013 年度契約電子ジャーナル 和雑誌: メディカルオンライン 洋雑誌: CINAHL With Full text
現在購読している新聞は、全国紙 4 紙地方紙 3 紙である。過去 3 年分を保存している。

③視聴覚資料

看護学の専門領域を中心に DVD 資料の充実に努めている。

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合計
2011 年度	296	1,794	104	76	2,270
2012 年度	308	1,841	107	77	2,333
2013 年度	363	1,842	107	81	2,393
2014 年度	395	1,844	108	82	2,429
2015 年度	432	1,844	125	85	2,486

④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」「PsycINFO」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

3) 利用状況

①開館時間・日数

平日の開館時間は、9時から19時まで、長期休業中は17時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である5月から12月については、平日は9時から21時、土曜日は10時から16時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2015年度は、入館者数・貸出ともに減少してしまった。とくに学生/院生の利用の減少は顕著なので広報の充実を図るなどの対策を講じる必要がある。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2011年度	234	20	254	47,058	185.2
2012年度	235	23	258	43,515	168.7
2013年度	242	24	266	40,882	153.7
2014年度	232	25	257	40,295	156.8
2015年度	234	23	257	35,910	139.7

表 貸出条件

	学 生	院 生	教 員	学外者
貸出期間	2週間			
貸出冊数	5	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2011年度	10,910	1,776	12,686
2012年度	9,264	1,974	11,438
2013年度	9,124	1,987	11,111
2014年度	9,601	1,769	11,370
2015年度	8,612	1,826	10,438

4) 外部開放

①概要

平成16年度より、18歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

②利用状況

入館者数は、医療関係者の利用が大幅に減少した。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

年度	学外入館者数（概数）			貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	
2011年度	1,011	156	219	2,654
2012年度	1,024	131	197	2,430
2013年度	1,040	176	259	2,601
2014年度	1,027	110	434	2,275
2015年度	816	75	352	2,126

2. 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていききたい。

雑誌については、有料の電子ジャーナルや、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努めたい。

入館者数、貸出数ともに減少傾向にある。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努めていきたい。

開学して20年以上経過し資料的価値が低くなった図書が増加したことと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていきたい。

(3) 施設の利用開放状況

1 概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センター施設として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

講堂は、1年に2回程度公開講座を開催しており、広く市民に利用されている。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

2 利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

年度	施設名	テニスコート	グラウンド	屋内プール	講堂	講義室	体育館
	平成27年度	利用日数	38	73	251	1	0
利用者数		890	1,700	9,934	170	0	270

3 課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

第2節 財政の状況

1 概要

(1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

(2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

2 実績

(1) 予算、決算の状況（平成27年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約7割、大学の管理運営に必要な物件費が約2割、教育研究に必要な物件費が約1割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等			予算額（円）	決算額（円）	構成比	
特定財源	自主財源	使用料	授業料	194,738,000	210,466,413	25.4%
			寄宿料	5,664,000	4,991,400	0.6%
			行政財産使用料	49,000	35,559	0.0%
		手数料	入学料	24,584,000	25,182,600	3.0%
			入学審査料	7,439,000	8,304,000	1.0%
			証明事務手数料	61,000	52,800	0.0%
		財産収入	204,000	204,479	0.0%	
		諸収入	1,633,000	1,548,003	0.2%	
		計	234,372,000	250,785,254	30.2%	
	国庫支出金			0.0%		
	基金繰入金	3,724,000	3,724,000	0.4%		
計	238,096,000	254,509,254	30.7%			
一般財源			603,150,131	575,025,327	69.3%	
合計			841,246,131	829,534,581	100.0%	

(歳出)

歳出科目等	予算額 (円)	決算額 (円)	構成比
報酬	9,467,000	10,407,269	1.3%
給料	339,553,000	339,553,000	40.9%
職員手当	173,154,000	173,154,000	20.9%
退職金	21,872,653	21,872,653	2.6%
共済費	108,167,792	108,167,792	13.0%
賃金	8,799,232	8,339,964	1.0%
報償費	22,672,000	20,000,672	2.4%
旅費	19,408,716	14,140,369	1.7%
交際費	45,000	16,200	0.0%
需用費	79,543,000	77,680,176	9.4%
役務費	9,889,000	6,610,026	0.8%
委託料	20,935,000	21,595,805	2.6%
使用料及び賃貸料	20,488,000	21,129,706	2.5%
工事請負費	0	0	0.0%
備品購入費	3,774,000	3,818,689	0.5%
負担金・補助金及び交付金	3,383,738	2,893,460	0.3%
公課費	94,000	154,800	0.0%
合計	841,246,131	829,534,581	100.0%

(2) 外部資金獲得の状況 (平成27年度)

文部科学省所管の科学研究費助成事業の公募に対し、新たに40件の研究課題について応募し、選考の結果、4件が採択された。26年度以前からの継続採択課題とあわせて、26件、17,550千円の外部資金を獲得し、積極的な研究活動を行っている。

	新規・継続			新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	40	26	65.0%	18	4	22.2%	17,550
転出分②		0			0		
転入分③		0			0		
本学執行分①-②+③		26			4		17,550

3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

第8章 自己点検・評価総括

平成27年度の自己点検・評価の総括として、長野県看護大学の中期構想とその他の課題から総括する。

1. 長野県看護大学の中期構想

平成26年度に示された、長野県看護大学の中期構想では、長寿県としての長野県民の健康を支える役割を担うこと、豊かな人間性と看護の心を携えた看護職者の育成を目指し、1) 学部教育の充実、2) 大学院教育の強化、3) 看護実践国際研究センターの強化、4) 大学改革の推進について示しており、2年目の達成状況について評価する。

1) 学部教育の充実

- ① 平成26年末に看護連携型ユニフィケーション事業推進の一環として4つの臨地実習施設と基本協定を締結し、平成27年度は教育連携・相互研修・研究交流を軸とした教育の協働の取り組みがスタートした。初年度である平成27年度は、年2回の定例会議を開催し年間計画と評価を行ないながら、看護研究研修の開催、大学教員の現場研修、臨床指導者の教育への参画、臨床指導者研究会の開催、その他領域と病院との看護職者の連携や大学院の講義の聴講などの事業を推進した。なお、平成28年度からは、看護実践国際研究センターの自治体連携部門のチームの一つに位置づけ継承することとした。
- ② 学部のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、それに連動させてアドミッションポリシーの見直しを行ない策定した。PDCAサイクルの検証を平成29年度の教育より進められるよう準備する。なお、本学の自己点検評価委員会の充実を図るべく、大学評価の年間スケジュール等について確認した（平成27.11.17教授会）。
- ③ 健康センターのCNS看護師の常置を廃止して教育体制を拡充し、健康センターは保健室を中心とした体制とした（平成27.6.16教授会）。また、従来の学生支援体制を見直し、学年顧問の位置づけを明確にした。さらに、学生支援会議設置規程及び学生委員会規程の見直しを行った（平成27.11.17教授会報告事項）。
- ④ 学生の主体的な学修等を促すための初年時教育の検討を進め、平成28年度よりスタートさせることを決めた。また、クラス委員を学年毎に2名を設置することとした。
- ⑤ 本学の教育の特徴の一つとして、里山看護学教育を学部教育に浸透させるための準備をワーキングで進めており（ワーキンググループの立ち上げ（平成27.9.5教授会報告事項））、平成29年度文部科学省の申請を目指している。
- ⑥ 編入学の廃止に向けた選抜枠の検討については平成28年度に結論を出すべく引き続きの課題とする。
- ⑦ 平成26年度から設置した防災委員会において、防災マニュアルの策定、防災訓練の充実、安否確認メールによる訓練を行った。今後は防災パンフレットの作成と配布が課題となっている。また、看護実践国際研究センターに国際看護・災害看護活動研究部門を設置して災害看護活動を推進する。
- ⑧ 同窓会活動を支援するため、同窓会の事務室の設置をした。今後、他大学の同窓会と

も交流をもち活動が活発化することを期待している。

- ⑨ 後援会費の見直しを検討し後援会理事会・総会で決定した。具体的には、実習経費について迅速に対応するため別会計で管理することとした。また、サークル活動への特別な支援として、特別支援枠（20 万）を設け、楽器の購入や大会参加の交通費などの支援を行った。
- ⑩ 教育理念の浸透を図ることを目的として、学長と卒業年度に当たる 4 年次生のグループ面談を継続実施した。しかし時間割上面談日程を組むことが困難となり、学生全員の面談は難しかった。

2) 大学院教育の強化

- ① 研究科組織の明確化については、26 年度よりスタートさせた。
- ② 大学院生の安定的な確保については、入試問題の見直しとして、平成 29 年度入試より CNS コースの試験問題から英語を廃止することを決めた。論文コースの入試における英語の出題については引き続き検討していく。さらに、遠隔授業の拡充のための環境整備や修了生を送り出している病院への訪問など大学院生獲得の対策を実施していく。病院における環境整備は病院の運営にかかわるため改善には時間がかかるが、修了生が病院に戻り活躍することは病院にとってもメリットがあることから、そうした点をアピールする必要がある。
- ③ カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーは平成 26 年度に策定した。PDCA サイクルの検証を平成 29 年度の教育より進められるよう準備する。
- ④ 論文博士の入試の整備については、平成 28 年度の課題としている。
- ⑤ 関連教育機関との人事交流の拡充については、教員が充足していない状況であり、まずは、教員を充足させてからの課題となる。
- ⑥ 小児看護と老年看護の CNS コースの単位を 38 単位にするための準備を始め、平成 29 年度の申請を目指している。成人看護領域の CNS コースの開設を課題として検討をしたい。

3) 看護実践国際研究センターの強化

- ① アカデミックナーシング・プラクティス構想の推進として、平成 27 年度にセンターの改革を進め、関係する規程を見直した。具体的には平成 28 年度より計画を推進していく。
- ② 認定看護師部門では、平成 29 年度の感染管理分野を休止することを決定した。それに伴って認知症看護分野の定員を 25 名とする。引き続き県の方針の確認やバックアップを求めながら入学者数を確保すると共に、認定看護師教員の主任教員・専任教員体制の整備に取り組む。
- ③ 新たなプロジェクトとして競争的資金獲得に向けた取り組みを想定しているが、現在本学で研究する適当なテーマが見当たらないため、今後の文部科学省の公募課題に注目していく。

4) 大学改革の推進

- ① 教育資材については、全学的なニーズ調査を行い検討した結果、優先度の高い備品の購入を進めた。今後も計画的に必要な物品の整備を図りたい。大学施設の整備については県との交渉の結果、教育棟のエアコンの一部を平成 28 年度に行うための予算を獲得した。大学の外壁のメンテナンスは課題となっている。また、学生寮の安全確保のために、防犯カメラを設置した。
- ② 独立行政法人化については、新県立大学は理事長並びに学長の就任予定者が決まり、平成 28 年度秋に文科省に申請して、平成 30 年度に開学となる。本学では平成 24 年度に勉強会を行い、結論としては現行どおり直営のままとすることを大学の意向としてとりまとめている。今後は、県健康福祉部と情報を共有しつつ、1 法人 2 大学のデメリット、メリット、直営による運営のデメリット、メリットを改めて整理しておくと共に、直営の現状において、可能な限り改革改善に取り組んでいくことが大切になる。そのため、大学の在り方の検討として、平成 26 年、27 年に独立行政法人で運営している大学の訪問を行った。1 年目は 1 法人 1 大学、2 年目は 1 法人 2 大学であった。平成 28 年度は看護系の公立大学の現状について F D ・ S D 研修を行う。本学の法人化に関する検討の時期は、長野県立大学の完成年度頃になると予想され、しばらくはこの形態が続くものと考えられるが、必要な準備は引き続き進めていく。
- ③ 看護大学研究集会の長野県看護大学看護学会への発展のための体制整備については、学内合意がまだ得られていないことから、今後の課題として残されている。
- ④ 平成 23 年度に受けた基準協会の審査で努力課題として指摘された事項は、平成 27 年 7 月 22 日に改善報告を行ない、平成 28 年 4 月 4 日付けで基準協会から「再度報告を求める事項はない」との通知があった。
- ⑤ 教員の確保・育成改革として、欠員となっていた成人・基礎・看護管理の人事を進め、平成 28 年度には教授 3 ポストを埋めることができた。残り基礎看護学分野と成人看護学分野の講師・准教授の欠員と国際・災害看護学の講師・准教授・教授の欠員がある。災害看護教育の人材獲得が難しい状況にあり、大学としてのポストの活用を含めた考え方の整理をしなければならない。

なお、学長提案により、必要がある場合に助教が昇任する道筋を作り、平成 27 年度より精神看護学分野において配置がなされた。今後も重点課題に対する柔軟な人事配置を進めていく。
- ⑥ 図書館の改革として、すでに平成 26 年度からの人員削減が決定していたことを受け、外部委託の可能性についてワーキングを立ち上げて検討を行い、検討の結果について教授会報告を行った。その後、県との調整による経過報告を平成 28 年度に行う予定である。

2. その他の課題

1) 特別講座の開設

学外機関との連携の一環として、地元企業や民間団体が健康増進や看護に係る製品開発の知見について学ぶ機会を特別講座として開催することとし、その考え方を示すとともに実施に関する覚書を策定した（平成 27. 8. 4 教授会）。

2) 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）の改正に伴う学内基準の見直し

公的研究費の管理・監査に関する学内基準の抜本的な見直しを進め、長野県看護大学における公的研究費の管理・監査に関する規定、公的研究費にかかる不正防止対策の基本方針、公的研究費事務処理手続きの基本ルール、研究活動における不正行為への対応に関する規定、公的研究費にかかる不正防止計画を策定した（平成 28. 3. 15 教授会）。モニタリングとして最高責任者が指名する内部監査チームに関してどのようなチームとするのか示していくことが課題となっている。

3) 研究活動に伴う倫理教育の実施と e ラーニング研修の導入

研究倫理に関する FD として、平成 28 年 3 月 16 日に外部講師による倫理研修を行った。さらにグリーンブックの e ラーニング教材の完成に伴い、平成 28 年度に全員研修を受けることを義務づけるとともに CITI JAPAN の導入により自主研修を促す体制を整えた。

4) 教員業績評価

平成 23 年度に実施したものを踏襲している。ただし、卒業研究の担当時間と、卒業研究担当人数について、助手・助教の記載に於いて重複する点について卒業研究担当人数を加点しないことにしている。また、評価対象者は、採用形態に関わらず、研究費を配分されており、評価年度に在籍していた者とし、次年度研究費配分の時点で退職が明確な教員は対象から除外している。

評価結果について運営委員会並びに教授会で報告を行い、平成 28 年度予算に研究費として反映した。大学教員の仕事の枠組みは変わらず「教育・研究・地域貢献・大学運営」であるが、今後は、さまざまな大学の課題に取り組む上で大学運営の項目、段階評価の見直しや改善すべきその他の段階の見直しを予定している。

5) 学部生の成績評価について

従来、成績を優、良、可、不可で表記していたが、GPA システム導入の可能性を検討することも視野に入れて、評価点で評価することを決めた（平成 27. 12. 15 教授会報告事項）。優はさらに 2 段階でとらえることができるよう工夫した。評価点で成績が出されることにより、特に成績が低迷している学生への指導や、選抜枠別にみた入学後の成績について追跡評価することが可能となり、今後の課題としていきたい。

6) その他

学部長、研究科長の選考が行われた。特に研究科長の選考において、選挙権を持つ対象について、研究科組織の構成員のみとするか、次の選考前に検討する課題がある。

学長 清水嘉子

自己点検・評価報告書（平成 27 年度分）

2016 年 7 月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 株式会社宮澤印刷



長野県看護大学